文部科学省調査研究事業

# 「多様性に応じた
# 新時代の学び充実支援事業」

～通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信
及び
横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及～

## 令和3年度　報告書

神奈川県立横浜修悠館高等学校

目次

Ⅰ　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅱ　本事業委託に至るまでの経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅲ　令和３年度事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

　　１　調査研究課題名

　　２　調査研究の目的

　　３　調査研究の内容・方法・実施体制

　　４　効果測定等の方法

　　５　研究概要図・校内体制図

Ⅳ　通信制高等学校の学びの仕組みと横浜修悠館高等学校の重層的支援・・・11

Ⅴ　令和３年度調査研究事業の内容及び成果と課題・・・・・・・・・・・・・15

　　①１班（通信制における ICT を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信）

　　②２班（横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及）

Ⅵ　学校訪問報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・83

## Ⅰ はじめに

本校５期目の文部科学省研究事業が令和３年 10 月に採択されました。

全国的に新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策が続くなか、高等学校通信教育の質の確保・向上のため、実証研究をする場を途切れることなく設けていただいた文部科学省及び設置者である神奈川県に感謝申し上げます。

令和３年１月、2020 年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として、「全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現」が示されました。

このなかの「新型コロナ感染症の拡大を通じて再認識された学校の役割」として「学校は学習機会と学力を保障するのみならず、全人的な発達・成長を保障する役割や、人と安全・安心につながることができる居場所・セーフティネットとして身体的、精神的な健康を保障することができるという福祉的な役割をも持っていることが再認識された」という現状分析が見られます。

とりわけ公立通信制課程に通う生徒の抱える特性や家庭環境等の多様化も進んでおり、本校でも学び直し支援から社会とつながるキャリア支援に至るまで、教育活動全体を通じて個別最適な学びが社会的ニーズとして求められています。

また、令和４年度入学生から高等学校で実施される新学習指導要領では、変化する社会に対応することのできる人材の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実践がより重要となってきます。

本研究事業においては、通信制レポートの３観点のうち【思考・判断・表現】の探究的な問いの工夫と生徒が見通しをたてやすくなるルーブリック評価を全教科で導入し、ＩＣＴを活用したスクーリングでの自己表現活動、他者との意見の共有など、通信制における新たな学習モデルを構築します。

本校は、通信教育に対する多様なニーズに対応し、「日曜講座」「ＩＴ講座」「平日講座」を科目ごとに選べる新しいタイプの公立通信制独立校（単位制による通信制の課程・普通科）として平成 20 年４月に開校し 14 年が経ち、開校以来、文部科学省の研究事業に取組んできたところです。

平成 21-22 年：「高等学校における発達障がいのある生徒の支援」

平成 24-26 年：「高等学校における特別な教育的ニーズを有する生徒の自立及び円滑な社会参加を可能とする教育課程の編成及び指導方法、評価方法の検討」

平成 27-29 年：「定時制・通信制課程における支援相談体制の構築
—外部機関とのネットワークづくりや重層的支援の充実を通して— 」

平成 30-令和２年：「通信制課程における多様な学習ニーズを支える持続可能な体制の構築」

令和３-５年：「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」
—通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信及び横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及—

今後も横浜修悠館高校だからできる教育活動に挑戦し、本研究成果を全国の高等学校通信教育に携わる多くの先生方と共有できますよう発信してまいります。

令和４年３月

神奈川県立横浜修悠館高等学校
校長 原口　瑞

## Ⅱ　本事業委託に至るまでの経緯

### １　開校から現在まで

#### （１）横浜修悠館高等学校の設立趣旨

本校は、平成 20 年４月に神奈川県立の通信制単独校(新タイプの通信制単独校。単位制による通信制の課程・普通科)として、神奈川県立湘南高等学校通信制と神奈川県立横浜平沼高等学校通信制とを集約して開校した。

単年度の募集定員は 1,250 名で、令和３年度当初の在籍総数は 1,884 名、実活動生徒数は 1,533 名(令和３年５月１日現在。連携機関である陸上自衛隊高等工科学校を除く)である。学級数は 32 学級であり、公立の通信制高等学校としては生徒数や開講講座数は最大規模のものとなっている。

本校の設立趣旨は、平成 18 年 10 月の新校設置計画に示されているように、「一人ひとりの生活スタイルや学習ペースに応じて、柔軟な学習計画による学びを可能とし、これまでの通信教育の特性を生かして学ぶ生徒、平日の昼間に毎日登校して、きめ細かな学習指導により学習を進める生徒、自宅での学習を充実させる生徒など、幅広い生徒に対応する」とされ、通信制教育の特性を生かしつつ、様々な課題を有する生徒にきめ細かな指導を行い、社会的自立と円滑な社会参加を図ることとされた。

#### （２）通学型の機能を有する公立通信制高校として

本校は、「日曜講座」を中心とした従来の通信制教育に加えて、公立の通信制では類例のない平日に登校して教員の指導を受けつつ報告課題集(以下、「レポート」という。）に取組む平日講座」とインターネットを活用して自宅を中心に学習を進める「ＩＴ講座」を展開している。

#### （３）開校当初の混乱

開校初年度である平成 20 年度は、新入生 1,218 名、転編入生 215 名、湘南・横浜平沼各高等学校通信制の課程からの移行生 2,583 名の 4,016 名でスタートした。平成 21 年度は新入生 1,036 名、転編入生 102 名を受け入れ、平成 22 年度は新入生 1,109 名、転編入生 70 名を受け入れている。この期間の在籍総数は 5,000 名近くに上った。その混乱の中で多くの生徒は通信制の学びの仕組みを理解できず、教職員も生徒が抱える様々な課題や困難さを把握しきれないといった状況が発生した。このような切実な課題を何とかしたいという思いから、「生徒にも教職員にも分かりやすい学校を」をスローガンに学校全体で支援体制の構築に取組んでいった。

#### （４）支援体制の構築に向けて取組んできたプロジェクト

本校は平成 21～22 年度に文部科学省の「高等学校における発達障がい支援モデル事業」として「通信教育の特性を生かした発達障がいのある生徒への支援の在り方」をテーマに特別支援学校、保護者・地域、関係機関等と連携した支援プログラムの開発に取組んだ。

また、平成 24～26 年度に研究開発学校の指定を受け、特別な教育的ニーズを有する生徒の自立及び円滑な社会参加を可能とする教育課程の編成及び教科・科目の学習内容、指導方法及び評価方法の研究を行った。

平成27～29年度においては文部科学省の「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」に取組み、定時制・通信制課程における相談支援体制の構築を行ってきた。多様な教育的ニーズを有する生徒の実態把握、学習環境の整備に努め、生徒が安心して学習に取組める教職員の対応・指示の仕方として「修悠館スタンダード」を確立してきた。

平成 30～令和２年度においては文部科学省の「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」(※令和２年度「多様性への対応に関する調査研究事業」に名称変更)に取組み、自校・他校通級に係る効果的なプログラムの開発及び発信、ＩＣＴを活用した様々な学習指導の実践及び学習支援体制の充実に努めてきた。

**２　「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」の委託**

令和４年度から年次進行で実施される新学習指導要領では、生徒の資質・能力の育成に向けて、ＩＣＴを最大限活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが示されている。通信制課程の本校においても、こうした新時代の学びに向けた効果的な学習の研究が重要になっていくと考えられる。

そこで、ＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたレポート・スクーリングの工夫について研究することとした。また、開校から 14 年の間に蓄積された本校の重層的支援システムのうち、「トライ教室」「架け橋教室」「キャリア・ポート」「キャリア活動Ｃ」を協働的な「学びのコミュニティ」と位置付け、これらを活用している生徒の単位修得率やキャリア意識・進路実績を分析することで本校の「学びのコミュニティ」プログラムの効果的な運営方法について研究することとした。

この２つの視点による研究を行うことにより、通信制課程の特性を活かしつつ、新時代の学びの実現に向けた効果的な学習プログラムモデルの構築・普及が可能であると期待している。

## Ⅲ　令和３年度事業計画

### １　調査研究課題名

「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」

～通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信　及び
横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及～

### ２　調査研究の目的

多様化する生徒の教育的ニーズに応じるため、次の２点を目的とする。

（１）レポート・スクーリングの見直し

通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信について、レポート・スクーリングの改訂という視点での見直しを行う。令和４年度から新学習指導要領が実施されることに伴い、レポート・スクーリングの大幅な改訂が必要となる。その際に、全教科において、

深い学びにつながる探究的な問いを設定し、また、生徒が見通しをもってレポート学習やスクーリングに取組めるようにするために観点別評価「思考・判断・表現」の評価基準 《目標の達成度》（ルーブリック評価）を活用して設定する。また、探究的な問いについては、ＩＣＴ活用の機会を増やすことにより生徒の学習活動を活性化させ、生徒の学びの変容を見取る。さらに、探究的な学びを支援するため、新たに電子図書館の開設等を進め、これまで学校全体で進めてきたＩＣＴ環境のさらなる充実と活用に努めたい。特にスクーリングにおけるＩＣＴの有効活用を研究することで、生徒の特性や学習環境の多様化に応えたい。

（２）「学びのコミュニティ」プログラム

横浜修悠館高校がこれまで 14 年かけて構築してきた個別最適な学びを実現するための、外部の教育的人材を活用した協働的な学びの仕組み「学びのコミュニティ」の成果を検証し、改善充実させ全国に普及していく。

【トライ教室】小中学校の学びなおし 補習教室

【架け橋教室】外国につながりのある生徒の学習相談・生活支援

【キャリア・ポート（自校通級・他校通級）】高校通級指導

【キャリア活動Ｃ】進路体験活動

活用生徒の単位修得率やキャリア意識・進路実績を分析することで、より効果的な運営方法の提案、活動内容の精選、改善ができ、その成果を広く発信する。

【２つの研究テーマによる学習効果の向上】

通信制における「ＩＣＴを活用した『主体的・対話的で深い学び』の実践」スクーリングでは、多様な背景を持つ生徒が、「問い」に対する他者の意見を得た上で、自分の考えを深めることができる。また、レポートのルーブリック評価を自ら行うことで、学習に見通しと意欲が持てるようになる。

「キャリア・ポート(高校通級指導)」「キャリア活動Ｃ」では、生徒が自己理解を深めることによって、自信を持って社会参加できるようになる。

また、自己表現と応答の繰り返しにより、学習意欲が高まり、学習内容が「わかる」ことの楽しさを求めて「トライ教室」「架け橋教室」に通い続けるという好循環が生まれる。まさに「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な学習効果が期待される。

## ３　調査研究の内容・方法・実施体制

### ①調査研究の内容・方法

共通

〇実施場所

・校内教科会・校内研究チーム会合（毎週木曜日定例ミーティング 16:00～17:00）
　本書Ｐ．８に会合の様子を掲載

・校内企画会議・職員会議

（１）通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信

〇教育課程上の位置付け 令和３年～令和５年

・新学習指導要領新規開講 40 科目のレポートとスクーリング内容改訂

・レポートに提示するための、深い学びにつながる問いや探究的な問いを教科で開発する。

・探究的な問いに対する学習の見通しが立てやすくなるよう、評価基準《目標の達成度》
　（ルーブリック評価）を検討し、レポート観点別評価「思考・判断・表現」に入れ込む。

・レポート１冊目の教科試作（７月）研究チームの検討（７月）企画会議（８月）

〇協力機関等との役割分担

・ＩＣＴを活用した様々な学習支援体制の整備のために教員３名とＩＣＴ支援員１名が協働する。

（２）　横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」改善普及

| 学習コミュニティ | 教育課程上の位置づけ | 実施場所 | 協力機関等 |
|---|---|---|---|
| 【トライ教室】<br>学びなおし 補習 | 月水木⑤⑥限<br>自由参加 | 本校 UD 教室 | 教員８名<br>学習支援ボランティア<br>（ＹＳＫサポーター）８名 |
| 【架け橋教室】<br>外国生徒への学習<br>支援・生活支援 | 火水木 11～14 時<br>教科「国際」<br>科目「日本語」２単位 | 本校 社会学習室 | 教員３名<br>多文化ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ１名<br>会計年度任用職員１名<br>学習支援員３名 |
| 【高校通級指導】<br>自校通級<br>他校通級 | 月①木④<br>隔週日④⑤<br>「自立活動ｷｬﾘｱ･ﾎﾟｰﾄ」<br>35 時間１単位 | 本校 UD 教室 | 教員 10 名<br>（高校教育課２名<br>総合教育センター１名） |
| 【キャリア活動】<br>進路体験活動 | 火⑤⑥限<br>「キャリア活動Ｃ」<br>２単位 | 本校 UD 教室 | 教員８名<br>湘南・横浜サポートステーション職員２名<br>キャリアアドバイザー４名 |

※UD 教室：本校学習環境のユニバーサルデザイン集「修悠館スタンダード」に則り、天吊りプロジェクターと大きなスクリーンのほか、黒板の周りに掲示物のない、生徒が集中できる教室。

**②調査研究の実施体制**

本校に在籍している多様で多数の生徒に対し、図１・図２(本書Ｐ．９～10)のような実施体制で２つの視点から調査・研究を進める。

（１）通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信

日々のレポート学習、スクーリングの工夫・実践を積み重ねることにより、卒業後に変化の激しい社会に対応するための力をどのように育成していくのかについて研究する。その際、レポートにおいては新学習指導要領に向けた深い学びにつなげる「問い」の設定や、学びの方向性を示す「ルーブリック評価」の設定など、通信制における「主体的・対話的で深い学び」のあり方について学習モデルを構築していく。スクーリングにおいては、ＩＣＴの効果的な活用により生徒の学びを促進させる方策を検討したり、通学型の「平日講座」での出席票の工夫により、レポートの補完だけにとどまらないスクーリングのあり方を検討する。また、通信制の特性を活かした「電子図書館」の体制構築・運用方法の検討を行うことにより、いつでも・どこでも図書資料に触れる環境を提供することにつながり、レポートやスクーリングとの連携も期待できる。

（２）横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」改善普及

本校の協働的な学びが生徒の学習活動や進路意識に与える影響について定性的・定量的に分析し、効果の検証を行う。その際、学校資源だけでなく、外部の教育資源も有効に活用することで社会につながり、それぞれのニーズに応じた個別最適な支援が実現できるものと考えられる。また、これらの「学びのコミュニティ」プログラムを全国に発信することにより普及を図る。

**４　効果測定等の方法**

（１）通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信

《定量的指標》

・レポートの提出総数が前年比でどのように推移したか。
・スクーリングの出席回数が前年比でどのように推移したか。
・試験受験者数が前年比でどれだけ推移したか。
・科目による単位修得率が前年比でどれだけ推移したか。
・生徒の意識の変容をみるためのアンケートを実施する。

《定性的指標》

・県実施 生徒による授業評価（８項目４段階）年２回
・教科会での成績単位修得考察 年２回
・校内職員意識アンケート
・「問い」が生徒の深い学びにどのような影響を与えたか。生徒の学ぶ意欲にどのような効果をもたらしたか。
・生徒が、レポートの探究的な問い（「思考・判断・表現」の部分に主に設定）に取組むに当たっての見通しが立つルーブリック評価を設定することによって、生徒の学びの質の向上にどのような影響を与えたか。
・深い学びにつながる「問い」について、職員の検討を積み重ねた結果、職員の意識にどのような変容が見られたか。

（２）　横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」改善普及

《定量的指標》

・全体を通して、アンケートや学習の進み具合を数値的に測ることにより、これらのコミュニティの運営方法について検討し、より効果的な学習プログラムを構築していく。

《定性的指標》

・トライ教室（学び直し・補習教室）の活用によって生徒のレポート完成にどのような効果をもたらしたか。

・架け橋教室（外国につながる生徒支援）の活用によって生徒の日本語能力、レポート完成にどのような影響を与えたか。

・キャリアポート（通級指導）において生徒の自立に向けたスキルや意識はどのように変容したか。

・キャリア活動Ｃ（進路講座）において生徒の職業観や就労に対する意識はどのように変容したか。

【１班「通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信」会合の様子】

【２班「横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及」会合の様子】

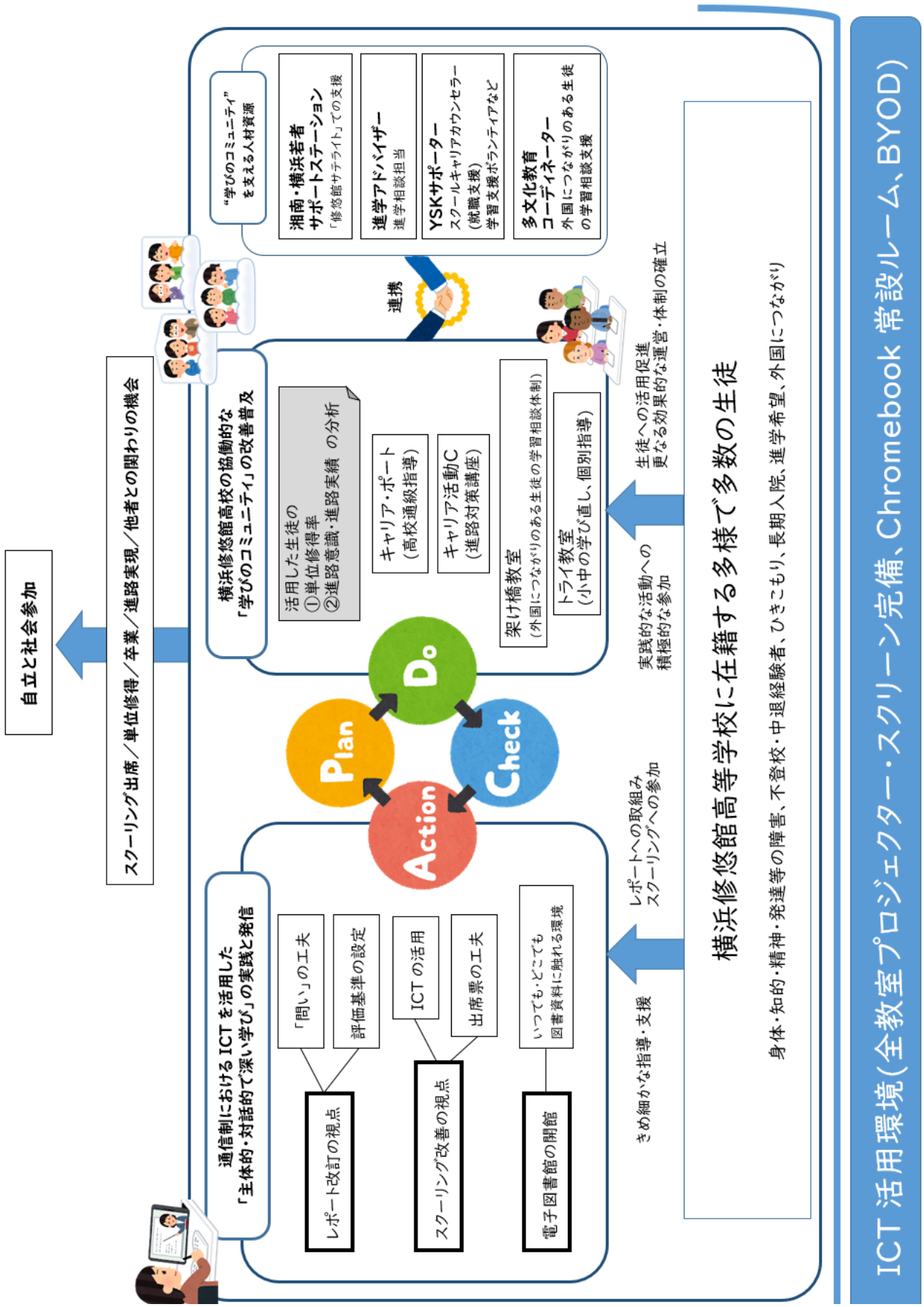

ICT 活用環境(全教室プロジェクター・スクリーン完備、Chromebook 常設ルーム、BYOD)
横浜修悠館高等学校に在籍する多様で多数の生徒
身体・知的・精神・発達等の障害、不登校・中退経験者、ひきこもり、長期入院、進学希望、外国につながり
生徒への活用促進
更なる効果的な運営・体制の確立
実践的な活動への
積極的な参加
レポートへの取組み
スクーリングへの参加
きめ細かな指導・支援
通信制における ICT を活用した
「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信
「問い」の工夫
評価基準の設定
レポート改訂の視点
ICT の活用
出席票の工夫
スクーリング改善の視点
いつでも・どこでも
図書資料に触れる環境
電子図書館の開館
Plan
Do
Check
Action
横浜修悠館高等学校のコミュニティ「学びのコミュニティ」の改善普及
活用した生徒の
①単位修得率
②進路意識・進路実績 の分析
キャリア・ポート
(高校通級指導)
キャリア活動C
(進路対策講座)
架け橋教室
(外国につながりのある生徒の学習相談体制)
トライ教室
(小中の学び直し、個別指導)
連携
"学びのコミュニティ"
を支える人材資源
湘南・横浜若者
サポートステーション
「修悠館サテライト」での支援
進学アドバイザー
進学相談担当
YSKサポーター
スクールキャリアカウンセラー
(就職支援)
学習支援ボランティアなど
多文化教育
コーディネーター
外国につながりのある生徒
の学習相談支援
スクーリング出席／単位修得／卒業／進路実現／他者との関わりの機会
自立と社会参加

**図1　研究概要図**

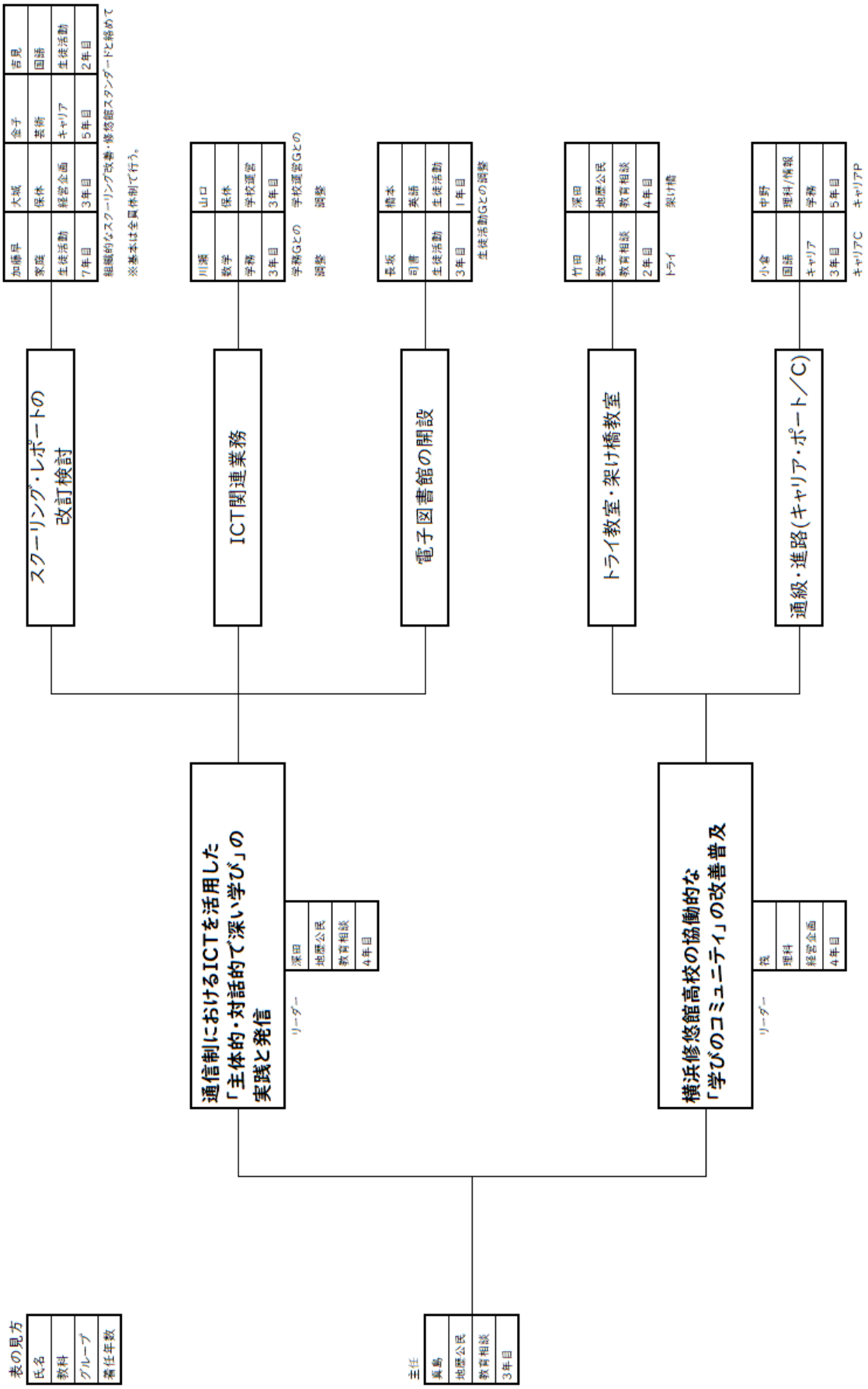

表の見方
氏名
教科
グループ
満任年数
主任
真島
地歴公民
教育相談
3年目
通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信
リーダー
深田
地歴公民
教育相談
4年目
横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及
リーダー
筏
理科
経営企画
4年目
スクーリング・レポートの改訂検討
加藤早
家庭
生徒活動
7年目
大城
保体
経営企画
3年目
金子
芸術
キャリア
5年目
吉見
国語
生徒活動
2年目
組織的なスクーリング改善・修悠館スタンダードと絡めて
※基本は全員体制で行う。
ICT関連業務
川瀬
数学
学務
3年目
山口
保体
学校運営
3年目
学務Gとの調整
学校運営Gとの調整
電子図書館の開設
長坂
司書
生徒活動
3年目
橋本
英語
生徒活動
1年目
生徒活動Gとの調整
トライ教室・架け橋教室
竹田
数学
教育相談
2年目
深田
地歴公民
教育相談
4年目
トライ
架け橋
通級・進路(キャリア・ポート/C)
小倉
国語
キャリア
3年目
中野
理科/情報
学務
5年目
キャリアC
キャリアP

**図2 校内体制図**

## Ⅳ　通信制高等学校の学びの仕組みと横浜修悠館高等学校の重層的支援

### １　通信制高等学校の学びの仕組み

全日制高等学校・定時制高等学校の授業に相当するのは添削指導（レポート）、面接指導（スクーリング）で、教科ごとにそれぞれ標準数が定められている。

【例】

「地理総合」（２単位）　：　添削指導回数　６、面接指導時数　２

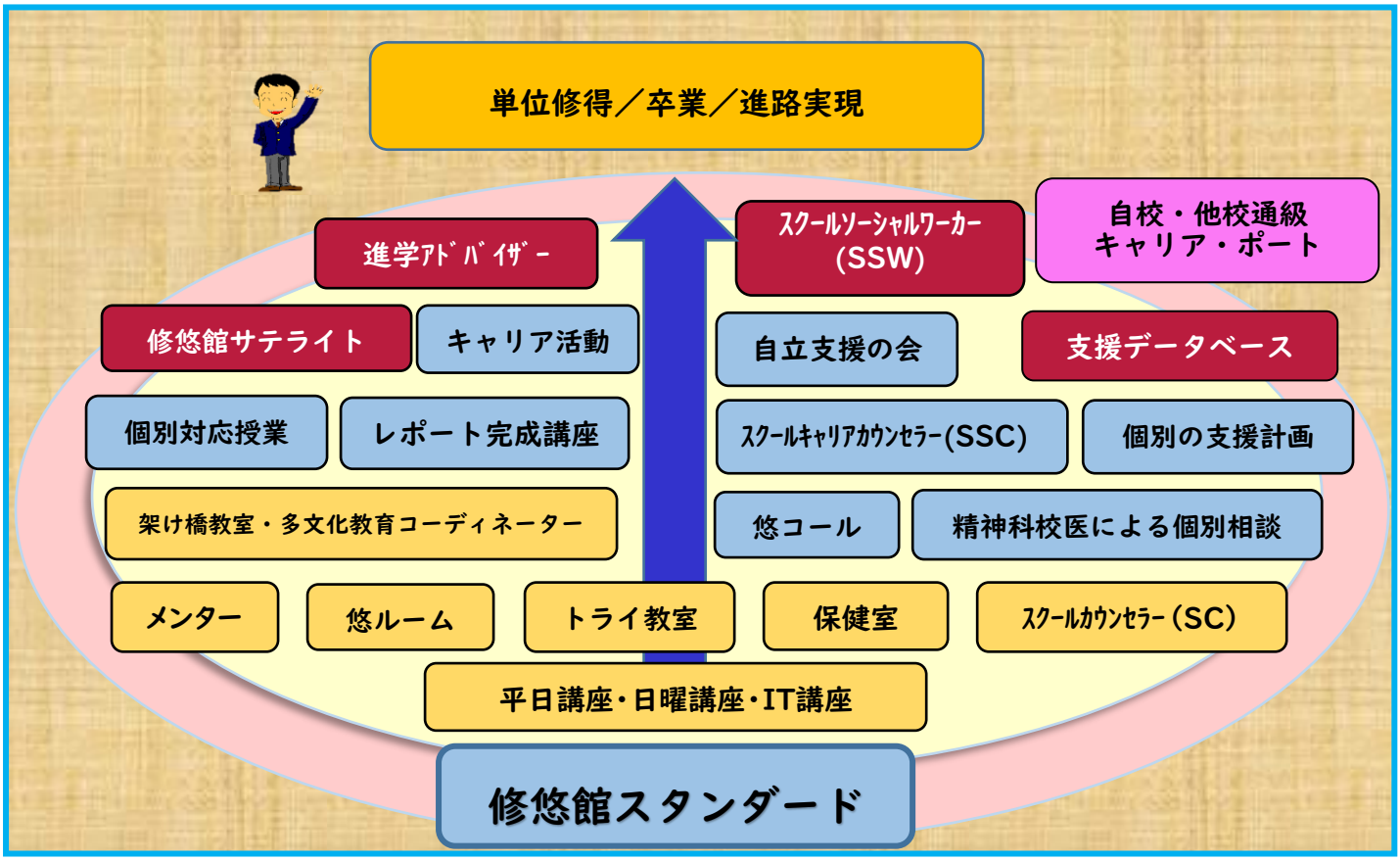
「数学Ⅰ」（４単位）　　：　添削指導回数　12、面接指導時数　４

通信制高等学校では、添削指導、面接指導及び試験の実施により教育活動が行われているが、「自学自習」を基本とする従来の通信制高等学校の仕組みの中で 74 単位以上を修得して卒業を目指すには、あきらめずに粘り強く勉強を続ける、強い気持ちが必要となる。

### ２　横浜修悠館高等学校の重層的支援

本校は通信制教育の特性を生かしつつ、様々な課題を有する生徒にきめ細かな指導を行い、社会的自立と円滑な社会参加を図るため、「日曜講座」に加え、「平日講座」と「ＩＴ講座」も展開し、生徒を支援する様々な支援システム・資源を活用している。

**横浜修悠館高校の重層的支援（イメージ）令和４年３月現在**



## ３　横浜修悠館高等学校の重層的支援（解説）

重層的支援とは、様々な支援プログラムが少しずつ横にずれながら階段状の階層構造をなし、各支援担当者が情報を共有する中で、プログラムにつながった生徒が自ら行動できるようになることを目指す本校の支援システムを示す。

本校開校時からの支援システム

平成 21～22 年度の文部科学省「特別支援教育総合推進事業」、及び、平成 24 年度～26 年度文部科学省指定研究開発学校への取組みを通して構築された支援システム

平成 27～29 年度の文部科学省「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」において構築、充実された支援システム

令和２年度からスタートした支援システム

（１）本校開校時からの支援システム

①平日講座・日曜講座・ＩＴ講座

平日講座は、公立の通信制高等学校では類例のない、平日に登校する機会を増やし、丁寧でよりきめ細かな面接指導を行う講座。スクーリング設定回数が多い。日曜講座は、従来の通信制の面接指導にあたる講座。ＩＴ講座は、インターネットを活用して、自宅を中心に学習を進める講座。入院や引きこもり状態にある生徒にも学習の機会を提供する。

②メンター

担任以外で相談したい教職員を生徒が指名し、登録する制度。第１回目の相談は、メンターから生徒へ連絡をすることになっている。

③悠ルーム

集団が苦手な生徒の空き時間の居場所として常設。教職員が交代で常駐している。

④トライ教室

補習教室。月・水・木の５、６校時に実施。「レポート完成講座」に出席する（教室に入る）こと自体がハードルとして高い生徒等が、学習支援ボランティア（ＹＳＫサポーター）や教職員からマンツーマンのアドバイスや支援を受けることができる。

⑤保健室

養護教諭１名と非常勤養護教諭（29 時間／週）とで運営されている。生徒にとって、　よろず相談の場所、心を落ち着かせる場所、学校に来たらまず立ち寄る場所となっている。また、必要に応じて各支援へとつなげる役割を担っている。生徒の時間割が様々なため、すべての時間帯において利用生徒がいる。例として、令和３年５月の利用者数は 795 名（内訳：内科 37、外科 52、こころ 422、その他 284）。

⑥スクールカウンセラー（ＳＣ）

開校時より、拠点校としての配置を受け、週に１日来校している。

⑦架け橋教室・多文化教育コーディネーター

外国につながりのある生徒の総合的な相談支援に対応している。

（２）平成 21 年度～26 年度に構築された支援システム

⑧悠コール

生徒、保護者の悩みに対する専用電話。教職員が電話相談に対応する。

⑨精神科校医による個別相談

本校精神科校医が、個別の相談に対応する。

⑩個別対応授業

スクーリングに参加しているが、なかなかレポートが進まない生徒について、本人・保護者・学校・相談機関等が連携し、本人と保護者の承諾の基に、「個別の指導計画」を立てて指導を行う。

⑪レポート完成講座

平日の補習講座。月・木の５校時に実施。レポートでつまずいた時や平日講座に出席できなかったときに、個々に教員からの指導を受けることができる。

⑫スクールキャリアカウンセラー（ＳＣＣ）

令和元年度から、キャリアアドバイザーからスクールキャリアカウンセラーと名称を変更し、産業カウンセラー有資格者が、ＹＳＫサポーターとして、キャリアガイダンスルームＡに複数名常駐し、就職支援を行う。

⑬個別の支援計画

校内での支援体制づくりと関係機関と連携した支援実施のため、生徒、保護者の了解を得て支援シートを作成し、就業体験や卒業後の就労等へ結びつける。

⑭自立支援の会

参加希望の保護者の勉強会。学習会や見学会を通して、特別な支援を要する生徒の自立と社会参加を視野に、各種支援制度や相談機関、福祉サービス活用の仕方等について保護者に情報提供を行う。

⑮キャリア活動

学校設定教科「キャリア」における学校設定科目。希望者を募り実施している。

・キャリア活動Ｃ：一般就労支援のための講座

・キャリア活動Ｋ：特別な支援を要する生徒の自立と社会参加を目指した通級的指導講座
（令和３年度よりキャリア・ポート開講に伴い廃止）

・キャリア活動Ｊ：外国につながりのある生徒の総合支援としての講座

⑯修悠館スタンダード

「発達障がいの生徒にとってないと困る支援は、すべての生徒にとって、あると便利な支援となる」をコンセプトに、スクーリング、レポートのユニバーサルデザイン化、環境調整を行い、学校生活におけるすべての生徒が困難に感じていることを取り除く試み。

（３）平成 27～29 年度において構築、充実された支援システム

⑰修悠館サテライト

「湘南・横浜若者サポートステーション」との連携で設置した相談室。若者支援専門の相談員が、働くことやコミュニケーション等に自信のない生徒の相談に対応し、各種セミナーを実施。

⑱進学アドバイザー

キャリアガイダンスルームＢで、進学に関する相談等を担当している。

⑲スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）

困難を抱える生徒に対して、「環境への働きかけ」や「関係機関とのネットワークの構築」などを行い、問題行動の未然防止や早期解決に向け、週２回程来校し対応している。

⑳支援データベース（DB）

生徒の状況を的確に把握することによって、より適切な支援へとつなげるために、入学時に提出された情報や入学後の本校支援システム利用状況に基づく情報等を、一元化することを目的としたシステム。

（４）令和２年度からスタートした支援システム

㉑キャリア・ポート

通級による指導。自校通級と他校通級に分けられる。学習上または生活上の困難を改善・克服するため「自立活動」に相等する特別の指導を行っている。本校では、生徒個々の実態に応じ、教室で行う学習活動と校内外におけるさまざまな体験活動を行っている。

## Ⅴ　令和３年度調査研究事業の内容及び成果と課題

### １班　通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信

### １　全体概要

令和４年度より、新学習指導要領に基づく科目の実施とそれに伴う３観点での統一した観点別評価が導入されることを受け、通信制のレポート学習やスクーリングにおいても、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた改善を進め、その成果を発信していくことを目的に研究を行った。昨年まで、第４期文科省研究事業の中の「ＩＣＴを活用した多様な学習指導」を中心として本校のＩＣＴ環境の整備と利活用が進められてきた。それを土台とし、今回の５期文科省研究事業の１班では生徒が主体的に取組むことができるレポート、スクーリングおよびＩＣＴ環境、図書館の一層の充実を図った。研究にあたっては、今年度を準備、次年度を実践、最終年度を改善とまとめという計画のもと、次の３つを軸に研究を進めた。

（１）スクーリングの改善

通信制のスクーリングにおいて、深い学びにつながる問いや探究的な課題への取組みを通じ、多様な背景を持つ生徒が自分の考えや他者への理解を深めることにつながるスクーリングの実現に向けた検討を行った。

（２）レポートの改善

新学習指導要領に向けたレポートの作成・運用において、すべての教科で「探究的な問い」を検討し、新レポートの中に設定した。また、通信制の生徒が学習に見通しと意欲をもって取組めることを目的としたルーブリック評価の検討と設定をした。

（３）電子図書館の開設

新たに電子図書館の開設等を進め、学校全体で進めてきたＩＣＴ環境の一層の充実化を図り、生徒の特性や学習環境の多様化に応えることを目指した。

| 月 | 今年度の主な流れ |
|---|---|
| ５月 | 本研究の企画・立案と全体周知 |
| ６月 | 全体計画の立案 |
| ７月 | 新学習指導要領に基づくレポート１通目素案の作成 |
| ８月 | 新学習指導要領に基づくレポート１通目素案の検討会<br>「LibrariE」（紀伊国屋書店）リモート説明会 |
| ９月 | １通目素案の修正と２通目以降の作成(～令和４年１月 16 日まで) |
| 10 月 | 文科省研究事業担当者打合せ、レポート作成 |
| 11 月 | 文科省研究事業担当者打合せ、職員スクーリング見学と研究協議<br>校内 Google 活用研修①②　　「LibrariE」トライアル利用と申し込み |
| 12 月 | 文科省研究事業担当者打合せ、校内 Google 活用研修③④ |
| １月 | 令和４年度レポート案の完成、文科省研究事業担当者打合せ<br>校内 Google 活用研修⑤、「LibrariE」開設 |
| ２月 | 文科省研究事業担当者打合せ |
| ３月 | 文科省研究事業担当者打合せ<br>検討会議 |

## ２　各研究の成果と課題

**本校の授業改善にかかる基本的な取組み（修悠館スタンダードとＩＣＴ環境の整備）**

（１）修悠館スタンダードについて

「修悠館スタンダード」は、通信制高校のユニバーサルデザインを基にした学習支援の方法を教職員全体に呼びかけるものであり、単位修得率向上を目指してスタートしたユニバーサルデザイン化が様々な面での変化をもたらしている。「修悠館スタンダード」の重要なコンセプトは「（発達障がいの生徒に対する）ないと困る支援」が、「（すべての生徒にとって）あると便利な支援」になることである。また、教育技術の改善、レポートの体裁や添削の工夫、学習形態や支援体制の工夫、教職員の意識改革にもつながるものであるが、強制力はなく、提案されたものをどこまで実践するかは各担当に委ねられている。そして、「修悠館スタンダード」は、教職員が日々の実践と相互のスクーリング見学の積み重ねの中で気づいたことや改善したことを反映させてバージョンアップを図ってきた。以下は「修悠館スタンダード」で実践している一例である。

①ユニバーサル・デザインを意識したＩＣＴ利活用例（一部）

ＩＣＴ活用１：日常的に気軽に安全に使える（教室への機器の常設）

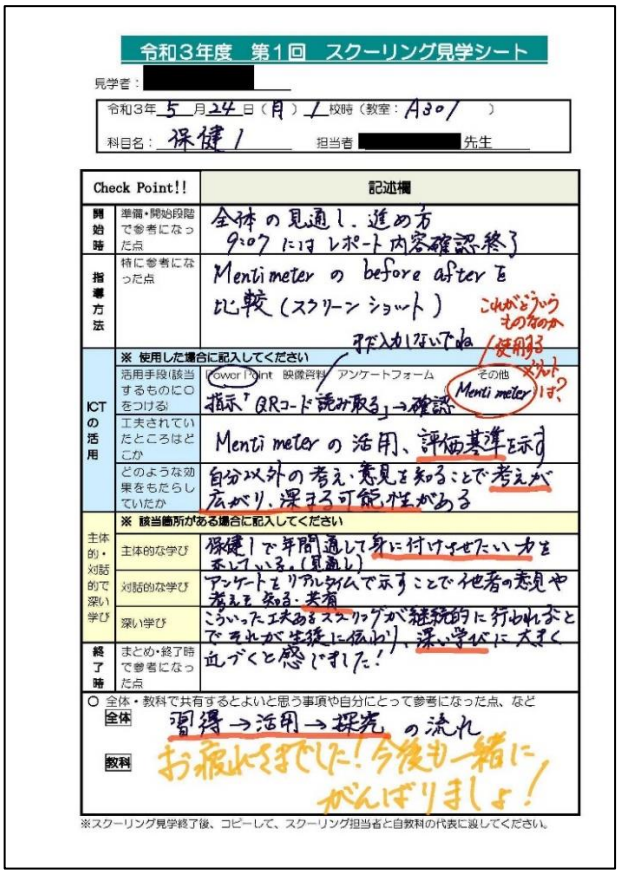
ＩＣＴ活用２：視覚に訴えて、「わかる！」（視覚情報の活用）

ＩＣＴ活用３：学習経験の不足を補うための追体験

ＩＣＴ活用４：授業がもっとよくなるプロジェクターの活用法と、黒板との使い分け

②スクーリング見学による授業改善の成果と課題

本校では年間２回の教職員間によるスクーリング見学を行っている。今年度は主体的・対話的で深い学びの実践とＩＣＴの活用に向け、スクーリング見学シートを用いてスクーリング見学の中で気づいた点や参考になる点について各教科で協議をおこなった。その結果を、次年度の「修悠館スタンダード」の改善に反映させていく。本年度は、主体的・対話的で深い学びの実践に向け、スクーリング中の生徒に対する「問い」をピックアップして貰った。成果としては、教科横断的にスクーリング見学を行うことで、幅広い視野を持つことができた。また、「問い」に着目することで、普段は気づかない視点で見学を行うことができた、等が挙げられる。一方、課題として、通信制のスクーリングシステムにおいて「対話的な学び」の実践は難しいという意見があった。しかし、「対話的な学び」として、ＩＣＴを用いて生徒の意見を集約し全体に提示することで、教員や生徒間で直接的な「対話」がなくても相手の考えに触れる機会をつくることができていた。



令和３年度　第１回　スクーリング見学シート

見学者：[redacted]

令和3年 5 月 24 日（月）1 校時（教室：A301 ）

科目名：保健1　担当者 [redacted] 先生

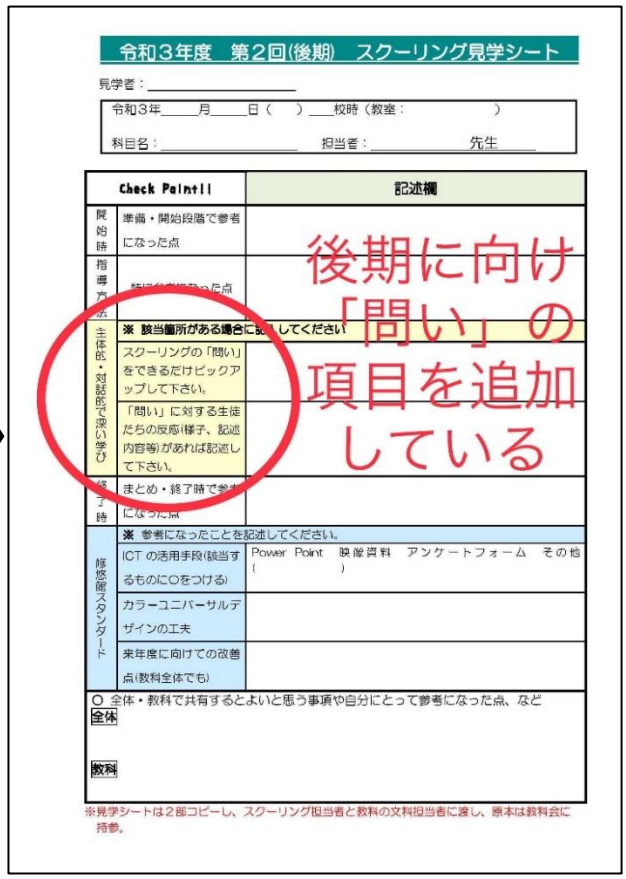
| Check Point!! | | 記述欄 |
|---|---|---|
| 開始時 | 準備・開始段階で参考になった点 | 全体の見通し、進め方<br>9:07 にはレポート内容確認終了 |
| 指導方法 | 特に参考になった点 | Menti meter の before after を比較（スクリーンショット）<br>これがどういうものなのか<br>まだ入力しないでね<br>使用する文ルトは？ |
| ICTの活用 | ※ 使用した場合に記入してください | |
| | 活用手段(該当するものに○をつける) | Power Point　映像資料　アンケートフォーム　その他 Menti meter |
| | 工夫されていたところはどこか | 指示「QRコード読み取る」→確認 |
| | | Menti meter の活用、評価基準を示す |
| | どのような効果をもたらしていたか | 自分以外の考え・意見を知ることで考えが広がり、深まる可能性がある |
| 主体的・対話的で深い学び | ※ 該当箇所がある場合に記入してください | |
| | 主体的な学び | 保健1で年間通して身に付けさせたい力を示している。(見通し) |
| | 対話的な学び | アンケートをリアルタイムで示すことで他者の意見や考えを知る・共有 |
| | 深い学び | こういった工夫あるスクリーングが継続的に行われることでそれが生徒に伝わり、深い学びに大きく近づくと感じました！ |
| 終了時 | まとめ・終了時で参考になった点 | |

○ 全体・教科で共有するとよいと思う事項や自分にとって参考になった点、など

全体　習得→活用→探究 の流れ

教科　お疲れさまでした！今後も一緒にがんばりましょ！

※スクーリング見学終了後、コピーして、スクーリング担当者と自教科の代表に渡してください。



令和３年度　第２回(後期)　スクーリング見学シート

見学者：

令和3年　月　日（　）　校時（教室：　）

科目名：　担当者：　先生

| Check Point!! | | 記述欄 |
|---|---|---|
| 開始時 | 準備・開始段階で参考になった点 | |
| 指導方法 | 特に参考になった点 | |
| 主体的・対話的で深い学び | ※ 該当箇所がある場合に記入してください | |
| | スクーリングの「問い」をできるだけピックアップして下さい。 | |
| | 「問い」に対する生徒たちの反応(様子、記述内容等)があれば記述して下さい。 | |
| 終了時 | まとめ・終了時で参考になった点 | |
| 修悠館スタンダード | ※ 参考になったことを記述してください。 | |
| | ICT の活用手段(該当するものに○をつける) | Power Point　映像資料　アンケートフォーム　その他 (　　) |
| | カラーユニバーサルデザインの工夫 | |
| | 来年度に向けての改善点(教科全体でも) | |

○ 全体・教科で共有するとよいと思う事項や自分にとって参考になった点、など

全体

教科

※見学シートは２部コピーし、スクーリング担当者と教科の文科担当者に渡し、原本は教科会に持参。

後期に向け「問い」の項目を追加している

スクーリング見学シートを用いた実践例
（保健１のスクーリング見学）

後期のスクーリング見学に向け「問い」の項目を追加している。

修悠館スタンダードを意識した「主体的・対話的で深い学び」の取組み

深い学び１：生徒に考えさせるような問いかけ

ⅰ）生徒に問いかけて、やり取りしながらスクーリングを進めていく。

ⅱ）２択や３択にして挙手させる。

ⅲ）「○」「×」のプレートを配って上げさせる。

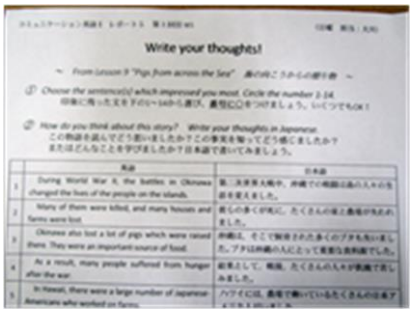
深い学び２：生徒の考えを集約し、フィードバックする。

ⅰ）出席票や補助プリントに質問を載せて、生徒に書かせる。

ⅱ）Google フォームを用いてスマートフォンや Chromebook で生徒の考えを提出させる。

【Google フォームで意見共有】

【出席票による問い】



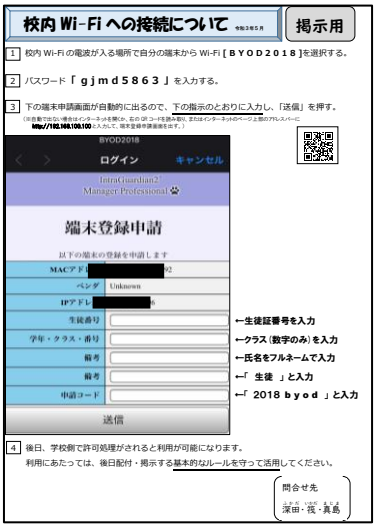

【補助プリントによる問い】

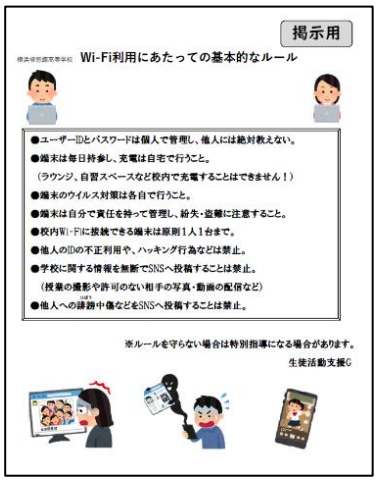
（２）ＩＣＴ環境の整備に向けたこれまでの取組み

探究的な学びを支援するため、新たに電子図書館の開設を進め（P.53～55 参照）、これまで学校全体で進めてきたＩＣＴ環境のさらなる充実とＩＴ講座の多様な学習支援の検討、Google（Chromebook）の利活用に主眼をおいて整備に取組んだ。成果については、取組みごとに報告をする。

①ＩＣＴ環境

多様化する生徒の教育的ニーズに応じるため、ＩＣＴ活用に係る施設整備とスクーリング及びレポート改善に関する取組みを行った（教科欄 P.21～52 参照）。この取組みは、はからずもコロナ禍の状況において求められた新しい生活様式に基づくスクーリング及びレポートにも適応するものであった。これまでの具体的な取組みと成果は、次の通りである。




ＢＹＯＤ（Bring Your Own Device の略）の環境整備が進み、接続マニュアルと基本ルールの徹底を基に年度当初から生徒利用を開始したことで生徒自身がＩＣＴを気軽に活用できるようなった。また、データ量に縛られることなく動画コンテンツの閲覧も可能になったため、生徒が自習時間で動画を活用する機会も増え、多様な生徒への支援に役立てることができた。また、Chromebook を常設した教室を３教室つくり、全生徒に Google アカウントを配付して、Chromecast を全教室に整備した。これにより、スクーリング中に生徒が調べ学習などに取組むことも可能になった。また、Google フォーム等を活用して生徒の意見をリアルタイムでスクーリングに反映させることで、意見交換や多様な価値観に触れ合う機会を設け対話的な内容を取り入れることができた。

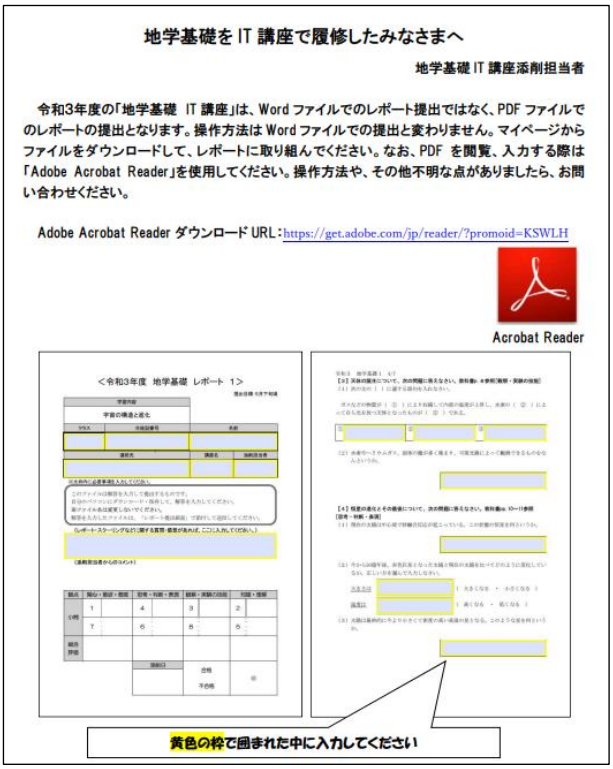
②ＩＴレポート

仕事・子育てや病気療養で頻繁に登校することが難しい生徒に対する学習支援であるＩＴ講座では、横浜修悠館マイページ（以下、マイページという）を介してＩＴレポートの提出・返却を、Word 形式ファイルでやり取りしてきた（一部の科目を除く）。しかし、Word 形式だと、手軽にレポートを作成できるが、いくつかのデメリットも生じた。例えば、Word のソフトのバージョンや生徒が使用している Word の設定により、フォントなどの体裁が崩れることが見られた。また、解答の枠をレポート作成の時点で設定しているが、実際には枠外にも自由に入力できてしまうため、本来あるべきではない場所に回答が入力されていたケースもあった。さらに、ＰＣに Microsoft Office 製品をインストールする必要があるためコストがかかること、スマートフォン上での Word の操作が容易ではないことも、デメリットとして挙げられる。

ここでは、Word 形式ファイルのＩＴレポートについて、これまでの課題を解消するために、ＰＤＦ形式ファイルでのＩＴレポートを作成し、添削やマイページ上でのやり取りを実践した。これまでの具体的な取組みは次の通りである。

ｉ）ＰＤＦ形式ファイルの運用

今年度は理科の地学基礎のＩＴ講座（講座登録者９名）において、JUST PDF ３[高度編集]を用いて、ＰＤＦ形式ファイルを作成して運用した。生徒からの提出、教員による添削とレポート返却を実際に行った。




ⅱ）講座登録者向け資料の作成

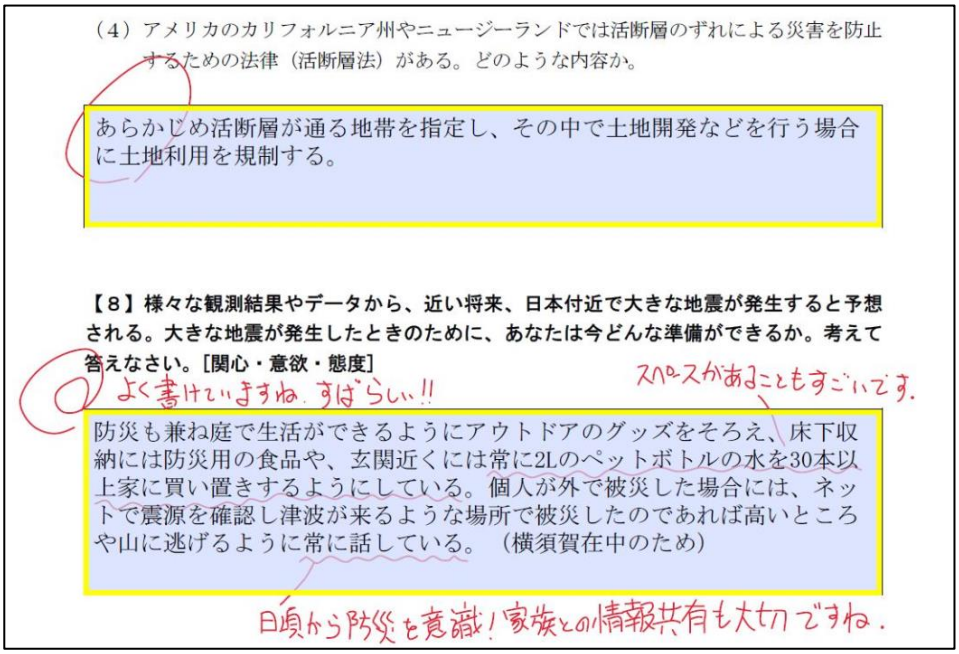
ＰＤＦ形式ファイル添削を行うため、生徒対象の説明資料を作成した。内容はＰＤＦ形式ファイルを扱う上での注意事項と、実際にＰＤＦ形式ファイルに入力するために必要なソフトである[Adobe Acrobat reader]のダウンロードの案内を記載した。作成した資料は生徒に配付し、マイページ上の地学基礎のページに掲載した。

ⅲ）液晶タブレットを使用したＰＣ上での手書き添削

従来のＩＴレポートの添削はＰＣ上でファイルを開き、マウスとキーボードを使いコメントの入力等を行っている。そのため、紙レポートの添削と比較して自由度が低く、機械的な添削しかできなかった。今回、液晶タブレットを添削に活用して、ＩＴレポート添削を実施した。

液晶タブレット(wacom 製)

【ＩＴレポート添削例】


（4）アメリカのカリフォルニア州やニュージーランドでは活断層のずれによる災害を防止するための法律（活断層法）がある。どのような内容か。

あらかじめ活断層が通る地帯を指定し、その中で土地開発などを行う場合に土地利用を規制する。

【８】様々な観測結果やデータから、近い将来、日本付近で大きな地震が発生すると予想される。大きな地震が発生したときのために、あなたは今どんな準備ができるか。考えて答えなさい。[関心・意欲・態度]

よく書けていますね．すばらしい!!

スペースがあることもすごいです．

防災も兼ね庭で生活ができるようにアウトドアのグッズをそろえ、床下収納には防災用の食品や、玄関近くには常に2Lのペットボトルの水を30本以上家に買い置きするようにしている。個人が外で被災した場合には、ネットで震源を確認し津波が来るような場所で被災したのであれば高いところや山に逃げるように常に話している。（横須賀在中のため）

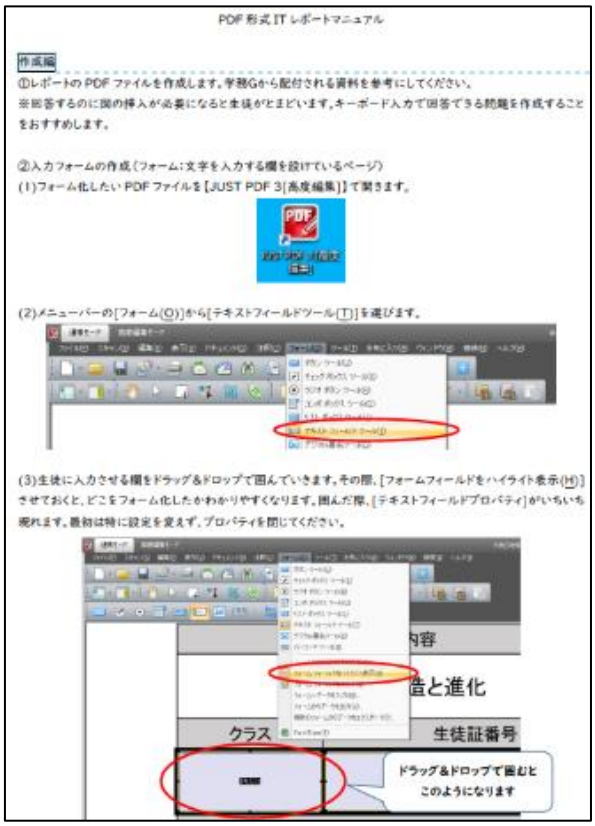
日頃から防災を意識！家族との情報共有も大切ですね．

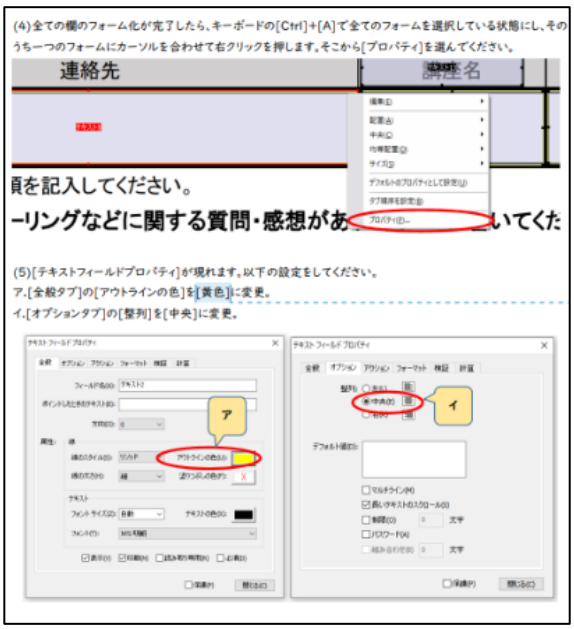
ＩＴレポートの改善について以下の成果が得られた。１つ目は、体裁の崩壊や予想外の場所への解答入力など従来の word 形式ファイルのデメリットが解消されたことである。ＰＤＦ形式ファイルではそういった問題が解消し、添削する側としては非常に扱いやすいレポートとなった。

２つ目は、より通常の添削に近い柔軟な添削方法が可能となったことである。ペンタブレットを使用した手書き添削によって、問題文に直接線を引いたり、従来ではできなかった赤丸を実際につけたり、数式を書いたり、生徒の解答に直接コメントを加えたりなど直観的な添削、言い換えれば普段の添削に近い感覚での添削が可能となった。

ＰＤＦ形式ファイルの有用性が示されたことから、次年度に向けては、マイページ上で提出・返却をしているすべてのＩＴ講座（16 科目）で実施することとした。それに向けてＰＤＦ形式で対応するためのＩＴのマニュアルを作成し、職員間で作成方法とペンタブレットの使用方法の研修を実施した。

今後は、紙媒体で添削をしているＩＴ講座にもＰＤＦ形式ファイルの導入を検討していく。ここで課題となるのが、数学や理科など解答に数式やグラフを用いる教科である。これらは、生徒がＰＤＦ上に解答を入力する際、数式ツールが機能しないため入力が困難となる。そのため、数式は「^, /」などを用いた入力マニュアルを作成し、グラフは描画ツールの利活用を検討していく必要がある。将来的には液晶タブレットを所定の場所に設置して、スタイラスペンを生徒自身が操作をして、数式やグラフを記入すればこの課題も解決されると思われる。



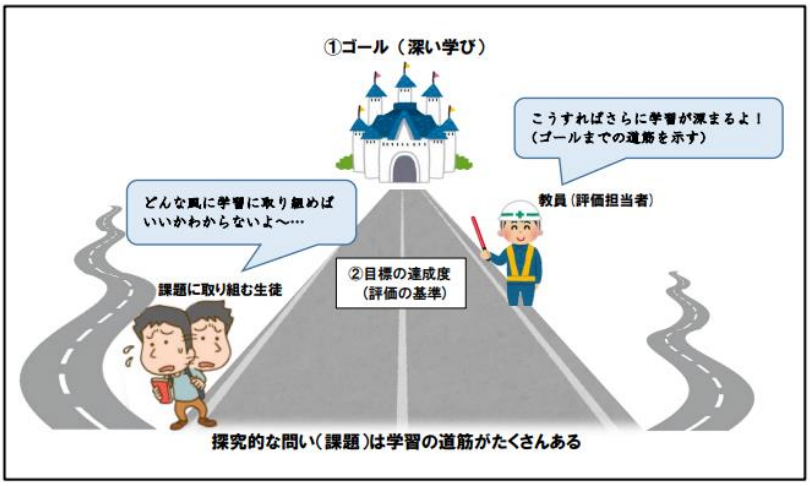




【ＩＴレポートのマニュアルの例】

## スクーリングおよびレポートの改善

（１）全教科での共通認識

令和４年度からの新学習指導要領に基づく「通信制における主体的・対話的で深い学び」の研究にあたって、今年度作成する新レポートにおいて探究的な問いを各教科で検討の上、盛り込んだ。探究的な問いは、学習の道筋や解答が多様である場合も多いため、そうした問いに「目標の達成度（評価の基準）＝ルーブリック」を明示する（※右の図）ことで、生徒にとって学習の見通しが立てやすいレポートづくりを目指した。このレポート改善の取組みと、ＩＣＴを活用した「通信制における主体的・対話的で深い学び」に向けたスクーリング改善を本年度より全教科で連携して実施し、本年の取組みを土台として令和４年度以降の研究につなげることを目指した。



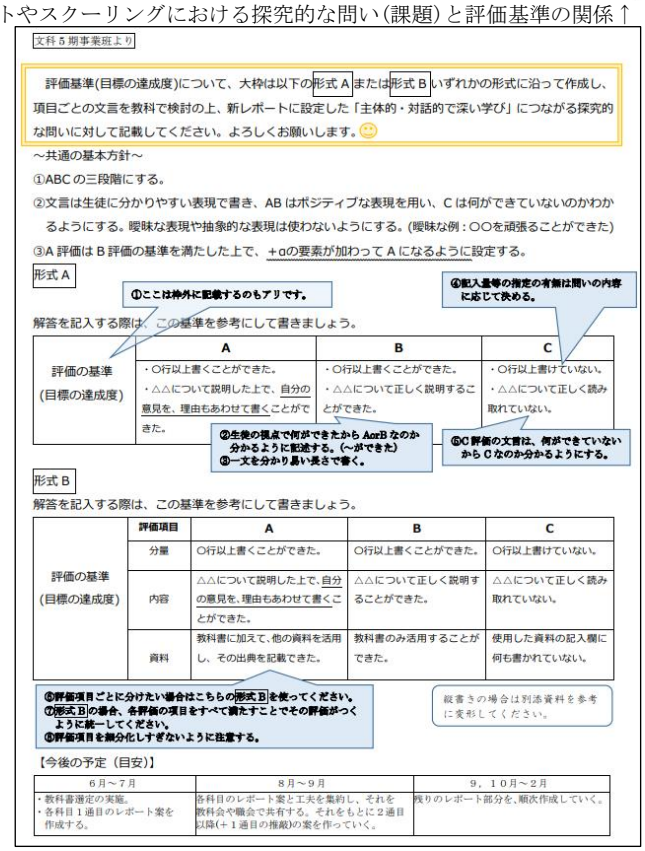

レポートやスクーリングにおける探究的な問い（課題）と評価基準の関係↑

本研究ではルーブリックについて次の３つをねらいとして想定した。

①「目標の達成度（評価の基準）としてのルーブリック」を明示することで、生徒は解答の手立てや求められる力が明確になり、学習の見通しが立てやすく、モチベーションの向上（＝主体性）につながる。結果として深い学びの実現につながると期待される。

②探究的な問いの添削に際して、職員が基準を添削の都度確認できるので添削がしやすい。また、添削や採点の時の基準が明確なので複数担当で持っている科目でも評価基準が統一されることが期待される。

③上記①②により、「主体的・対話的で深い学び」を、スクーリングや添削を含むレポート学習の中でも実現できる。



文科５期事業班より

評価基準(目標の達成度)について、大枠は以下の形式Ａまたは形式Ｂいずれかの形式に沿って作成し、項目ごとの文言を教科で検討の上、新レポートに設定した「主体的・対話的で深い学び」につながる探究的な問いに対して記載してください。よろしくお願いします。

～共通の基本方針～

①ABC の三段階にする。

②文言は生徒に分かりやすい表現で書き、AB はポジティブな表現を用い、C は何ができていないのかわかるようにする。曖昧な表現や抽象的な表現は使わないようにする。(曖昧な例：○○を頑張ることができた)

③A 評価は B 評価の基準を満たした上で、＋αの要素が加わって A になるように設定する。

形式Ａ

①ここは枠外に記載するのもアリです。

④記入量等の指定の有無は問いの内容に応じて決める。

解答を記入する際は、この基準を参考にして書きましょう。

| | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 評価の基準（目標の達成度） | ・○行以上書くことができた。<br>・△△について説明した上で、自分の意見を、理由もあわせて書くことができた。 | ・○行以上書くことができた。<br>・△△について正しく説明することができた。 | ・○行以上書けていない。<br>・△△について正しく読み取れていない。 |

②生徒の視点で何ができたから AorB なのか分かるように記述する。（～ができた）
③一文を分かり易い長さで書く。

⑤C 評価の文言は、何ができていないから C なのか分かるようにする。

形式Ｂ

解答を記入する際は、この基準を参考にして書きましょう。

| | 評価項目 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|
| 評価の基準（目標の達成度） | 分量 | ○行以上書くことができた。 | ○行以上書くことができた。 | ○行以上書けていない。 |
| | 内容 | △△について説明した上で、自分の意見を、理由もあわせて書くことができた。 | △△について正しく説明することができた。 | △△について正しく読み取れていない。 |
| | 資料 | 教科書に加えて、他の資料を活用し、その出典を記載できた。 | 教科書のみ活用することができた。 | 使用した資料の記入欄に何も書かれていない。 |

⑥評価項目ごとに分けたい場合はこちらの形式Ｂを使ってください。
⑦形式Ｂの場合、各評価の項目をすべて満たすことでその評価がつくように統一してください。
⑧評価項目を細分化しすぎないように注意する。

縦書きの場合は別添資料を参考に変形してください。

【今後の予定（目安）】

| ６月～７月 | ８月～９月 | ９，１０月～２月 |
|---|---|---|
| ・教科書選定の実施。<br>・各科目１通目のレポート案を作成する。 | 各科目のレポート案と工夫を集約し、それを教科会や職会で共有する。それをもとに２通目以降(＋１通目の推敲)の案を作っていく。 | 残りのレポート部分を、順次作成していく。 |

なお、ルーブリックの設定にあたっては、県内で先進的に研究を進めている県立光陵高等学校にご協力いただき、工夫点などについて助言をいただいた。本校生徒が自宅で学習に取組む際にも活用できることも念頭に置き、学校全体で文言の統一基準を定め、各教科の特性に応じて詳細な設定を検討した。次年度以降は、初年度に探究的な問いに生徒がどのように（どの程度）取組んだか、その際に生徒および教員がどのように（どの程度）ルーブリックを活用したか、その成果はどうかを検討した上で、スクーリングやレポートの改善結果を発信していく。

## 各教科の今年度および次年度に向けた取組みの成果と課題

### 国語科

（１）今年度の取組み

①スクーリング時における出席票の活用

通信制のスクーリングは、毎回参加者が異なり、ともすれば教師からの一方的な教授が中心となりがちである。そこで、「主体的・対話的な学び」に近づけるため、出席票を活用した取組みを行った。本来、出席票はスクーリング時の出席確認のためにスクーリングの冒頭で回収されることが多いが、それを以下の２つの観点で活用した。

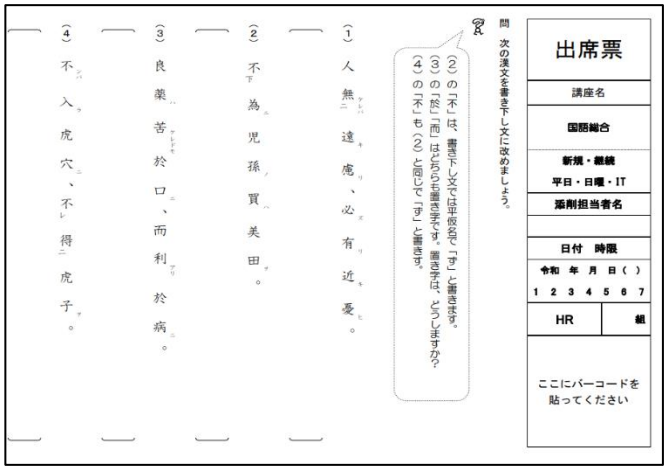
ｉ）本時の目標を意識させ、その時間の最後に振り返る。

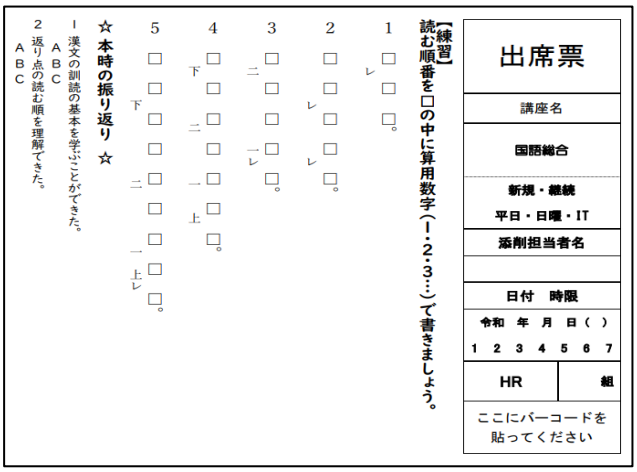
スクーリングの最初に提示する「本時の目標」はスライドで提示するので、スクーリングが進むと、生徒の目からは見えなくなってしまう。そのため、レポートの課題に取組む時も、その問いがどの目標とリンクするのかを気付くように声掛けをして、折に触れて目標も再提示した。

スクーリングの最後に、本時の内容を全体で振り返り、その後、個人で出席票に「Ａ／Ｂ／Ｃ」の３段階で自己評価させた。文章を書くことに苦手意識を持つ生徒も多く、しかも国語のスクーリングでの記述となると生徒のハードルは上がると考え、記述ではなく記号で振り返るようにした。目標は２つを基本とし、「～を理解する」だけではなく「～を考えようとする」など姿勢を問う目標も入れるようにした。

ⅱ）知識を確かなものにし、発展的な学習に取組む。

レポートの課題では、基本的な問題に取組むことを主としているので、知識の定着や発展的な内容の学習という点においては十分ではない。そこで、出席票に練習問題や応用的な問題を載せ、更に学習に取組みたいという生徒には活用させた。




②スクーリング時における図書館の活用

国語科のスクーリングは普通教室で行われてきたが、レポートの課題に「お薦めの本を紹介する」というものがあり、図書館で活動を行った。

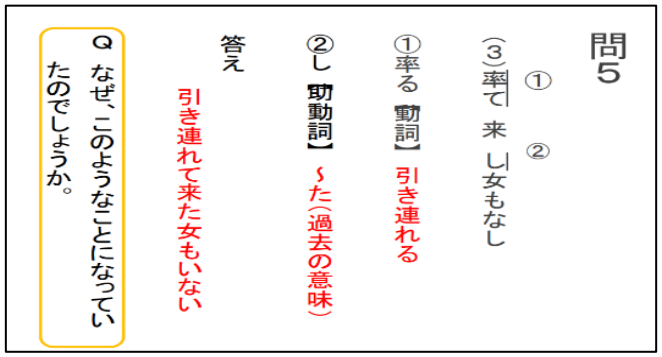
年度当初に「図書館利用案内（オリエンテーション）」が開催されていたが、コロナ禍で人数制限を設けざるを得ず、例年に比べ参加者は少なかった。そのような事情もあってか、「初めて図書館に入った。」「行ってみたいと思っていたが一人ではなかなか行けなかった。」という生徒も少なからずいた。

③スクーリング時におけるスライドの活用

スライドから得られる視覚情報が豊富になるので、生徒にとっては想像しにくい場面や様子も、実際の写真や絵巻などを用いて、理解を深められるようにした。

また、スライドを活用することで、レポートにはない、女性の身分を考えさせるなど主題と関わるような問いを投げかけ、考えさせることができた。机間指導で個別に声を掛けて、答えを確認した。慣れてくると、全体で発表する生徒も出てきた。

**授業で使用したパワーポイントの例（『伊勢物語』「芥川」）**



④新教育課程に向けたレポートの新規作成

令和４年度からの新教育課程科目のうち、必履修科目となる「現代の国語」及び「言語文化」のレポートを新たに作成した。

現行のレポートは、必履修科目「国語総合」における随想や小説の単元で、生徒の感想として作品の「印象に残った点」を記入させる作りになっていた。しかし、「印象に残った点」であれば、何を書いてもよいとなると、逆に何を書けばよいのか迷ってしまい、その設問で手が止まってしまう生徒が毎年少なからず見受けられた。スクーリングに参加している生徒には、教員がヒントを出しながら記述の指導が可能であるが、家庭からの自学自習でレポートを提出してくる生徒には、記述指導がやりづらいという課題があった。そこで、「現代の国語」と「言語文化」の新レポートでは、生徒の感想や考えを記述させる問いに対しては、ルーブリック評価を明示することにした。学習の道筋がつきやすくなるため、通信制における生徒の「主体的」な学びにつながることが期待できる。

（２）成果

①スクーリング時における出席票の活用

ⅰ）最初は戸惑う生徒もいたが、続けていくうちに、記述だけではなくコメントを書く生徒が出てきた。生徒の自己評価による振り返りではあったが、授業者がその評価を見てスクーリングを改善する契機となった。また、記述内容を読んで生徒に話し掛け、どこで躓いたのかを一緒に確認することもあった。生徒とのコミュニケーションが増え、コメントをきっかけにスクーリングの内容について話したり、ちょっとした相談にのったりすることもあった。

ⅱ）レポートと同じ問題でも、用紙が変わると解けなかったり、理解が不十分で進まなかかったりする生徒には、レポートを見るよう促したり、解説しながら個別指導した。一方、基本的な問題はスラスラ解き、積極的に難易度が上がる問題に取組む生徒もいた。また、躓いた箇所があっても、少しアドバイスをすることで、自力で進めることができた生徒の姿も見られた。

②スクーリング時における図書館の活用

担当者だけではなく、司書からも図書館の活用方法など話をしてもらった。教員からの話が終わると、すぐに席を立ち、本を探し始める生徒が多くいた。

また、早速司書に相談をし、本の探し方を教わっている生徒もいて、主体的に課題に取組んでいた。また、レポートの課題用だけではなく、個人の楽しみとして本を借りる生徒もいた。図書館でスクーリングをする以前は、レポートの記述がインターネットなどで検索したであろう粗筋や、ありきたりな紹介文も少なくなかったが、図書館で実際の本に触れることで、自力で紹介文を考えたり、一生懸命その本を読んだというのが伝わるような記述をしたりする生徒が増えた。

③スクーリング時におけるスライドの活用

例に挙げた『伊勢物語』「芥川」では、「露のようにはかなく消える」と言われても、生徒にとっては露そのものがピンとこない、あるいは本文に出てくる露を真珠と間違うということがイメージしにくい場合がある。それを視覚的に補うことで、古典といった生徒との距離感があるものでも、少しは身近なものとして感じてもらえている。

レポートにはない問いを与えることで、生徒は自分で答えを見つけようと試行錯誤する様子が見られた。本文全体が理解できていないと答えられないような問いでもあるので、自身の学習を振り返ることにも繋がっていった。本校の生徒は、人前で発言することを苦手とする生徒も少なくないが、教員からの声掛けや事前の確認によって自信をつけ、発表できるようになった生徒もいた。

④新教育課程に向けたレポートの新規作成

実際に、今年度作成した新レポートの紙面とルーブリック評価は以下のようなものである。

ルーブリック評価を用いることにより、生徒はスクーリング外での自学自習の際にも、設問に対して解答すべきポイントが明確にわかるようになる。また、教員としてもレポート添削の基準が明確となるため、担当者間の評価のずれが生まれる心配も少なくなる。

【新レポートの例「現代の国語」より】

解答のポイントを入れることで、家庭で自学自習を行う場合でも課題に取組みやすくした。

問13 「水の東西」のように、何か一つテーマを決め、それをインターネットや本を利用して調べ、「〇〇の東西」というタイトルで比較する説明文を四十五字以上で書いてみましょう。なお、原稿用紙は一マス目から空けずに、詰めて書きましょう。【思・判・表】

◆タイトル

〔　　の東西〕

105字　45字

**解答のポイント**

・例えば、「衣・食・住」の中から探すなど、生活に密着しているテーマを選ぶと書きやすいかもしれません。

・句読点などの記号も一字と数えます。

【問13　評価基準】

| | |
|---|---|
| A | 東西を比較しながら、テーマに沿って分かりやすい説明文を四十五字以上書くことができている。 |
| B | 東西を比較しながら、テーマに沿って説明文を四十五字以上書くことができている。 |
| C | 東西を比較する説明文を四十五字以上書くことができていない。 |

ルーブリック評価の文章はできるだけシンプルにして、
生徒の目から見て自分の到達度が分かりやすいようにした。

（３）次年度に向けて

現状は、レポートでも、スクーリングでも、生徒と教員の一対一の繋がりしかない。スクーリングで学校に足を運んできた生徒が、その教室に一緒にいる生徒たちと「主体的・対話的」に学ぶために、ＩＣＴ機器を活用し、その場で意見を入力し、それを基に交流していくようなスクーリングを展開していく。生徒たちは意見や考えを口に出すのは苦手でも、意見を持っていないわけではない。特に、「現代文」における小説や、古典の世界の登場人物の心情の読み取りなどは、選択肢に収まりきらない生徒の読みが期待できる。また、「国語表現」は生徒の表現が多く出てくるので、それらを共有・意見交換し、また自分の作品に活かすということが可能である。Google フォームなどを活用しながら、生徒同士の学びが深まるよう、スクーリングを改善していく。また、令和４年度から始まる新課程科目のレポートにおける探究的な問いへの生徒の取組み方を分析し、その結果を令和５年度から始まる残りの新課程科目のレポート作成作業に活かしていく。

また、図書館をより活用できるような課題設定を、上記の新しいレポートに盛り込むことで、生徒が新たな知識や情報に触れる機会を増やしていく。

**地理歴史・公民科**

（１）今年度の取組み

スクーリングでは、“通信制における”「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、レポート学習＋αの深い学びに繋がる取組みを、ＩＣＴ機器などを活用して以下のとおり実施した。

①毎回のアンケートフォームによる学習の振り返りの共有

②Google スプレッドシートを活用した生徒同士の「協働的な学び」の実現

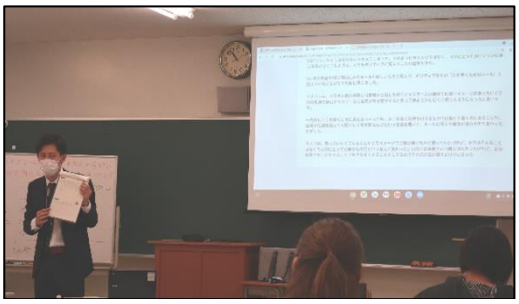
③生徒が自ら「問い」を設定し、探究する活動

④オンライン会議システムを利用した外部講師との連携

⑤校内の様々な資源の活用

（２）成果

①アンケートフォームの活用は、毎時の感想・意見の生徒間での共有とそれに対して教員からコメントをつけての返却、小テスト形式での授業の振り返り等が容易で、学習が深まる。また、年間を通じてのデータ蓄積が容易なため、「思考・判断・表現」の観点の変容を見取りやすい。本校のように、とりわけ発言や協働作業に苦手意識を持つ生徒の多い学校には親和性が高いと感じる。



【その場の共有・次回での振返りが容易】

②Google スプレッドシートをスクーリング内で活用するメリットの一つとして学習者同士の学びが「共有」しやすいことが挙げられる。通信制のスクーリングにおいては、「協力」「共有」などが難しいと考えられており実践例が乏しかった現状がある。それを受けて、今年度の後期には Chromebook やスマートフォンを活用しながら Google スプレッドシートでレポートの内容を生徒同士が「協力」し完成させるスクーリング実践を行った。教師主導による解説中心のスクーリングから、通信制における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、生徒自身が能動的に学習するスクーリングモデルの構築を行うことができた。スクーリング１時間の流れは次に示す。

【スクーリングの流れ】

❶今日の「問い」を確認し、見通しをもつ　［５分］

❷生徒同士「協力」しながら Google スプレッドシートでレポートの内容を完成させる　［15 分］

❸Google スプレッドシートの内容をレポートにまとめる　［５分］

❹スクーリング担当者がレポートのポイントを解説する　［10 分］

❺今日の「問い」に対する自分なりの答えを Chromebook やスマートフォンを用いて入力(Google フォーム)　［10 分］

❻今日のスクーリングの学びの振り返り、次回の予告　［５分］

★Google スプレッドシートを活用して生徒同士が「協力」しながらレポートの内容を学ぶスクーリングに対する生徒の声

・自分で考える、自分で調べることが多くなったから有意義なスクーリングになった。
・みんなで協力しながらやると共有できて楽しい。
・問題に対する疑問を考える時間が増えた。
・レポートにただ写すだけでなく、考えるようになった。

概ね、肯定的な意見を聞くことができた。はじめは以前のスクーリングの在り方との違いやＩＣＴ機器の扱いに戸惑う生徒もいたが、スクーリングの回数を積み重ねていくことで慣れていくことができた。

| | 解答はこちら | 教科書のどこをみればよいかな？ | 知っていること・調べたこと・疑問に思ったことなど情報を蓄積しよう！ |
|---|---|---|---|
| 設問７　Ａ　① | イギリス | P322 L4 | 貿易以外にも、経済的・文化的な影響を受けてきた |
| 設問７　Ａ　② | 中国 | P322　L7 | |
| 設問７　Ａ　③ | APEC | P322 L12 | 役割と目標、参加国間の貿易自由化・円滑化、経済・技術協力 |
| 設問７　Ａ　④ | 石炭 | p323l5 | |
| 設問７　Ａ　⑤ | ワーキングホリデー | p323l21 | 日本と協定国の異文化交流や相互理解を促進するために生まれたとても特別で自由度の高い海外留学制度 |
| | | | |
| 設問７　Ｂ　(1)1つ目 | 鉄鉱石 | P319 L6 | |
| 設問７　Ｂ　(1)2つ目 | 金 | P319 L6 | |
| 設問７　Ｂ　(2) | 掘り抜き井戸 | P321　L1 | 被圧地下水を組み上げるために掘られた井戸のこと |
| 設問７　Ｂ　(3)1つ目 | バター | P321　l14 | |
| 設問７　Ｂ　(3)2つ目 | チーズ | P321　L14 | 他にも羊毛、羊肉、牛肉も重要な輸出品 |
| 設問７　Ｂ　(4) | 北半球と季節が反対になっていて収穫時期が異なるため、端境期に市場の価格変動を抑える役割をもっている | | |
| | 季節、端境期ってキーワード入れられますか？ | | |
| ★ここからは指示があるまで操作しないでください！ | | | |
| | スマホで入力する人はこちら | Chromebookでの入力はこちら | |

【スクーリングで実際に使用したスプレッドシートの一例。生徒と教師のやり取りもこのシートで行われる。】

③高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説地理歴史編によると、主体的・対話的で深い学びを実現するためには課題(問い)を設定する活動の必要性について記載されている。深い学びにつなげるために、問いを立て自分なりの答えを導こうとすることが求められている。問いは教師から与えられるものにとどまらず、生徒の素朴な疑問をもとに構築していくことが大切であると考え、年間を通して「問い」の設定に着目したスクーリングを行った。レポートにも「問い」についての設問を設定することで生徒も「問い」を探究することについての意識の向上、有意義な学びを実感することができた。

**設問１**　レポート１通目(教科書Ｐ.５～26)をまず一度読み、学習していくうえでの「問い」を設定しましょう。[スクーリングに出席すると担当から提示されることもあります。]
※なかなか思いつかなかったら、教科書を読んでの「疑問」でもかまいません。

**問いの例**：日本の人口減少を食い止める最善の策はなにか。
ＥＵの政策で最も成功したものはなにか。
ＡＳＥＡＮが東南アジアにもたらしたものはなにか。などなど… ≪関心・意欲・態度≫

↓

**設問８**　１通目のレポート(教科書Ｐ.５～26)の学びを振り返りましょう。その際、次の点に注意して書きましょう。≪思考・判断・表現≫
① 設問１で立てた「問い」に対する自分なりの答えを書いてみましょう。
② ５行以上目指して書いてみましょう。(未記入は評価Ｃで再提出です。)
③ 参考にした本やインターネットサイトがあったら、記入しましょう。

★地理Ｂ12 通目(単元：ラテンアメリカ、オセアニア)で生徒が作成した「問い」の一例

・ラテンアメリカ各国で日本人が住みやすいのはどの国だろうか？
・スラム街で実際に暮らしている人のメリットは何か？
・オーストラリア大陸はほかに珍しい動物は増えるのか？

★「地理のレポート・スクーリングを通じてどのような力が身につきましたか？」というアンケートの生徒の声(スクーリング最終回実施)

・気になった事をすぐ調べようとする力
・日本と世界を比べてどのような違いがあるのか考える力
・世界の多様な文化や気候などを総合的に照らし合わせて見る力
・何事にもなぜ？と疑問を持つ力
・海外に関心を持つようになりスクーリングを通し学びにいく力
・地理の知識が増えて、テレビを見ていても地理で学んだことと関連させて理解する力
・色々な事に問い(疑問)を持つ力。その答えに辿り着こうとする力
・自分で問いを考えそれをもとに推理する力

④オンライン会議システムは Zoom や Google Meet を用いて容易に行うことができるため、生徒との画面共有や外部講師によるオンライン講義、入院中の生徒への学習支援など、幅広い活用が可能である。とくにオンライン講義は、専門的な知識を持った方の協力や海外との連携なども比較的簡単で、新しい「主体的・対話的で深い学び」の可能性を感じることができた。ただし、対生徒のやり取りを Google Classroom で行っている場合は Google Meet のほうが利用しやすいが、相手側が Google を用いていない場合も多く、そうした時にいつもと違うアプリケーションを使うと生徒が混乱したり、当日の接続トラブル等の原因になるため、その点は注意が必要であると感じた。

【外部講師との連携の様子（Zoom を使用)】

⑤校内の様々な資源を活用することで、学習の幅を広げる工夫も行った。教室から環境を変えることで集中力が継続し、学習内容をイメージしやすくすることで記憶にも定着する。また、実物に触れることで体験的な学習となり、学びが深まった。具体的には、作物を用いた体験学習、そして、図書館や美術室を利用しての学習活動を取り入れた。一年の振り返りを行うと、やはりほとんどの生徒がこうした体験活動が最も楽しく、記憶に残ったと回答した。計画・準備には時間がかかるが、費用をあまりかけずに実践できる点がよい。

【キャリアポートの畑を借りての作物と世界史の関係に関する学習の様子】

【校内で栽培した綿を摘む体験学習の様子】

（３）次年度に向けて

レポート改善に関して、知識・技能をみる短答形式の問いを維持しつつ、それらを精選し、活用することで解答できる記述形式の問いを「思考・判断・表現」として各通に設定し、レポート学習とスクーリングが両輪となって深い学びにつながるようにしていく研究を、教科全体で進めた。また、こうした問いに生徒が取組む際に目標を設定することができるように、基準を明確にしたルーブリックを検討し、提示した。次年度以降、新学習指導要領に基づくスクーリングの中で生徒がこうした問いに取組む際、ルーブリックが生徒の学習に際して機能するか、また、レポート改善が出席にどのように影響し、学習成果へとつながるか、検証していく。

◎公共

**課題6**　**コロナ禍と基本的人権の保障**　　［主体的に学習に取り組む態度］

コロナ禍の影響で、飲食店などは、営業の自粛、営業時間の短縮などを強いられ、個人の私的生活もさまざまな制約を受けている。

このことについての次のコラムを参考にして、守るべき人権と制約を受ける人権にはそれぞれどのようなものがあるか、あなたはそのどちらを尊重すべきと考えるか、簡潔に書きなさい。

コラム・解答欄は省略

**評価の観点**

| A | B | C |
|---|---|---|
| 両方の人権にふれて自分の意見をしっかり書いている。 | 人権についての記述が不十分であるが、自分の意見は書いている。 | 説明が不十分で，自分の意見も書いていないか、明確ではない。 |

◎地理総合

令和4　地理総合１　7/7

**設問7**　**1通目のレポート(教科書P.5~42)に関する①~③の問いから一つ選び、自分なりの答えを書いてみましょう！　《思考・判断・表現》**

あなたの選んだ問い

**①時差が私たちの生活に与える影響は何か？**
**②あなたはGISをどのように活用していくか？**
**③外国人観光客におすすめする日本の世界遺産はどこか？**

**記入する上での注意点・ポイント**

**その一：インターネットで調べたことを書き写すだけでなく、自分の考えや意見・理由も交えて書いてみよう！**
**その二：答えは一つでなかったり、そもそも答えがないものもあります。大切にしてほしいのは様々な知識を活用して答えのない問いについて考え続けることです。**
**その三：下に評価基準を設定しています。自分の記入状況を確認し、一つでも上の評価を目指して記述してみよう！**

1
2
3
4
5
6

**書ききれなかったら次のページの【メモ】に記入してください。**

【 設問7の評価基準(目標の達成度) 】

| A | B | C(再提出) |
|---|---|---|
| 「問い」に対する答えに**自分の考えや意見・理由を交えて5行(黒線)を超える分量**で書いている。 | 「問い」に対する答えが書かれている。 | **未記入**<br>または、明らかに問いに対する答えになっていない。 |

◎歴史総合（※歴史総合の実施は令和５年度～）

令和５　歴史総合１　6/7

**問6《思考・判断・表現》**

**①教科書を読んで次の文章を完成させ、【歴史的事実★☆】を学習しましょう。**

教科書 41 ページ右下

★江戸幕府は、様々なルートを通じて世界の情報を得ていた。オランダ船や中国船がもたらす（A）によって海外情報を得た。

★（B）戦争の情報や、1852 年にはアメリカが日本に（C）を派遣したという情報も伝達した。

★そのほか、幕府は海外に漂流したのちに帰国した者からも情報を聞き出した。

| A | | B | 戦争 | C | |
|---|---|---|---|---|---|

教科書 77 ページ１～13 行目

☆(B)戦争に関する情報は、オランダを通じて日本にも伝えられた。

☆（D）が敗れたことに江戸幕府は強い衝撃を受け、それまでの対外強硬方針を変更して、（E）を緩和させた。

☆1853 年、(C)の率いるアメリカ艦隊が浦賀沖に現れた。(C)はアメリカ大統領の国書を提出し、江戸幕府に開国(開港)を求めた。

| D | | E | |
|---|---|---|---|

**②江戸幕府の鎖国政策とその変化について、ここまでの【予想】と【歴史的事実★☆】をもとに、次のリード文にしたがって【考察】の書き方を学習しましょう。**

①【歴史的事実】の星マーク部分から、自分が重要だと思うところをそれぞれ選び、要約して記入しよう！

江戸幕府は鎖国をしつつも、〔★☆　　〕などから情報を収集しており、実際に幕府が得た情報のうち、私は〔★☆　　〕が歴史的に

自分が重要だと思った理由を、歴史用語を使って書けるとよい。記入欄が足りなければメモページを活用しよう。

重要だと考えます。その理由は、〔　　〕からです。

| 評価基準（目標の到達度） | A(よくできている) | B(できている) | C(もう少し) |
|---|---|---|---|
| | ①について完成した上で、②について、★☆に加えて歴史用語を用いて最後の理由まで書けている。 | ①について完成した上で、②の★☆の部分を記述できている。 | ①の解答に誤りが複数個ある。<br>②の★☆の部分が書けていない。 |

～次回以降の目標～
＊自分で予想をたてて、その理由を述べられるようになる。
＊教科書の指示された部分以外からも情報を集められるようになる。
＊考察の中で新たな課題(または疑問)をみつけられるようになる。

歴史総合の上段は知識の習得で、下段がその中から、自分が重要だと考える情報を抽出して、理由を述べる構成。

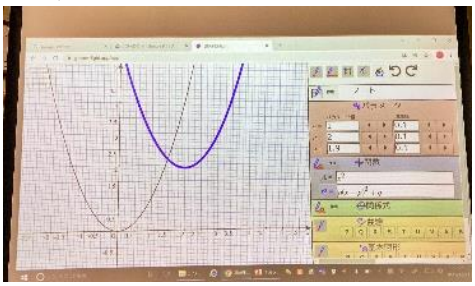
## 数学科

（１）今年度の取組み

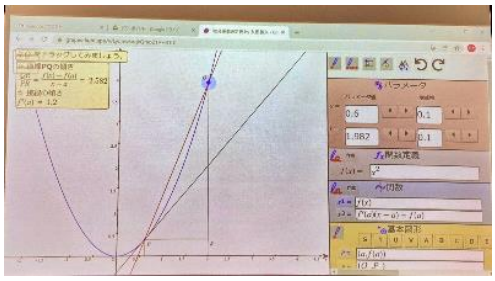
数学科におけるＩＣＴ機器の活用方法と通信制における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、レポート学習と通信制の出席票を活用しての深い学びに繋がるスクーリングを、以下のとおり実施した。

①「関数グラフソフト GRAPES ⅰ)～ⅲ)」～「Studyaid D.B.数学プレゼンⅳ)～ⅴ)」による視覚的な学習

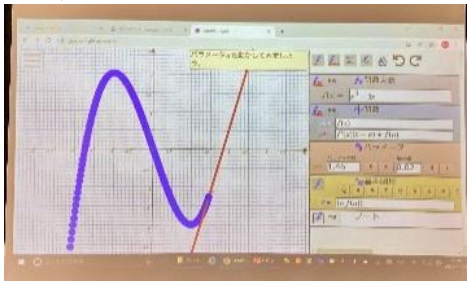
ⅰ）



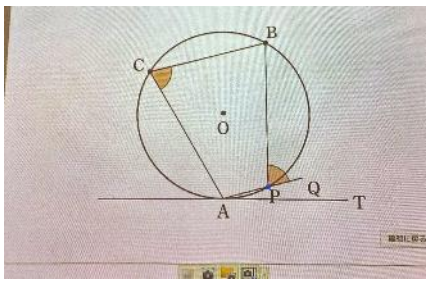
ⅱ）



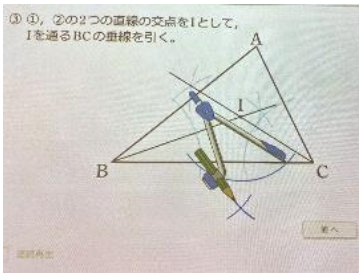
ⅲ）



ⅳ）

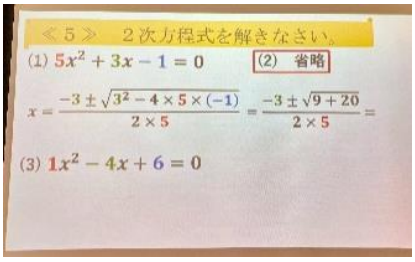


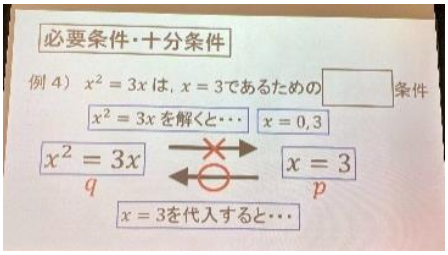

ⅴ）

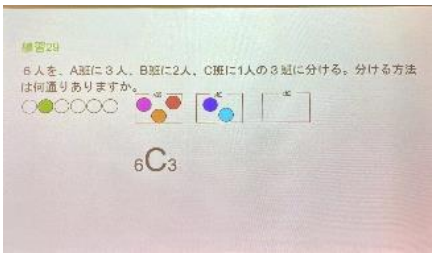



ⅰ）数学Ⅰ：平行移動の概念　ⅱ)数学Ⅱ：平均変化率の図形的意味　ⅲ)数学Ⅱ：微分係数の図形的意味
ⅳ)数学Ａ：円に内接する四角形と方べきの定理の関係　ⅴ)数学Ａ：作図の補助

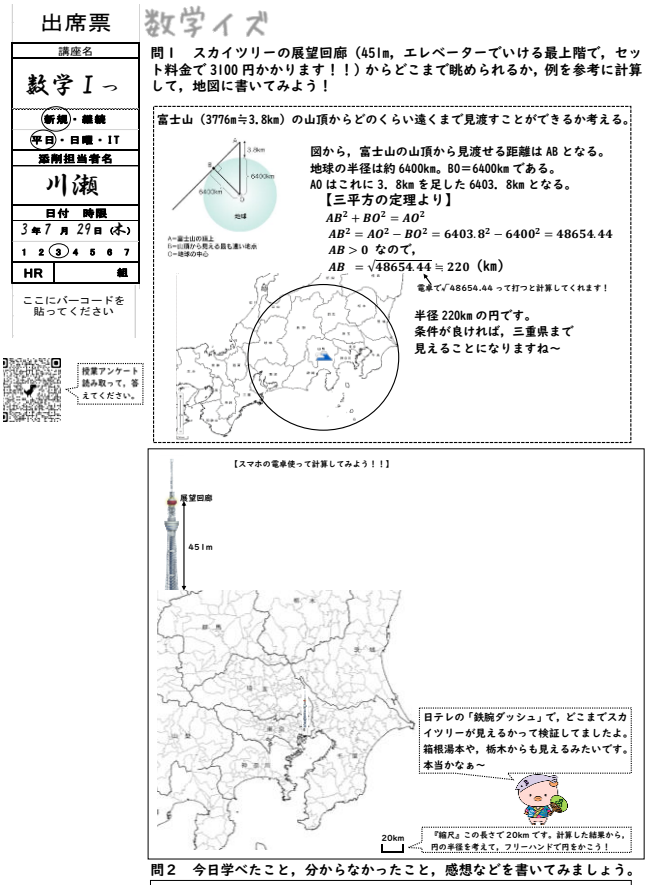
②「Microsoft PowerPoint」「Google スライド」を用いたスクーリング展開（数学ⅠⅡＡで実施）

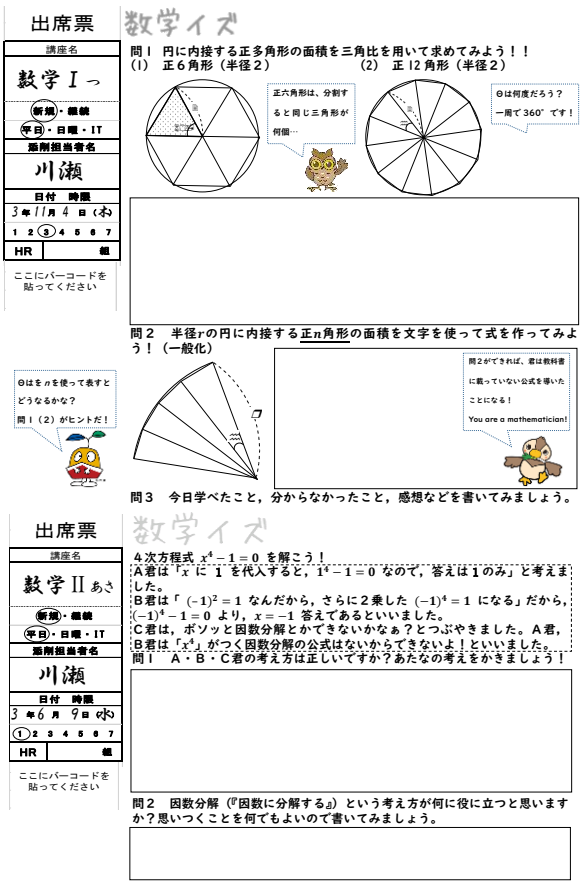




③既習事項を活用しての出席票による応用問題とその解答の共有による「主体的・対話的で深い学び」の実践（数学ⅠⅡで実施）



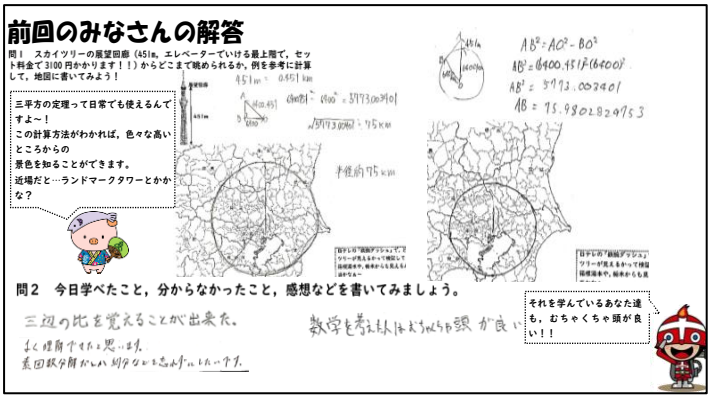



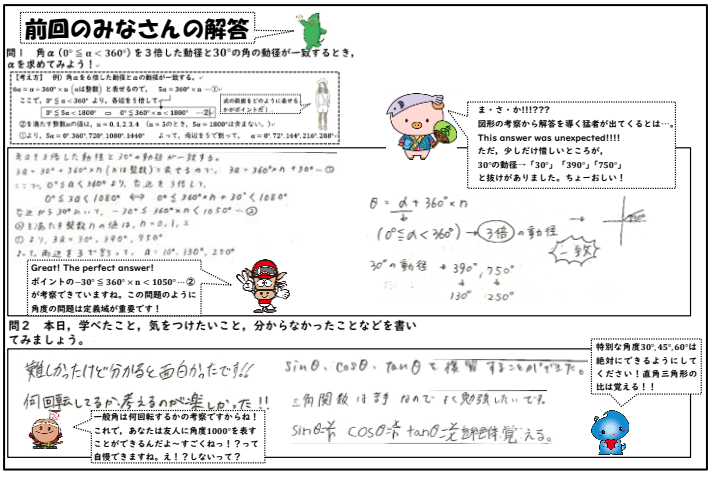

（２）成果

数学ⅠⅡは、GRAPES を用いることで関数について視覚的に理解を深めることができたと感じた。ただ、見ただけではその場だけの理解になるため、生徒自身が操作して、関数の係数がどう関係しているかなど考察させる取組みが必要であると感じている。

数学Ａの図形指導では、Studyaid D.B. 数学プレゼンテーションシステムを用いることで、その場で角度や点の位置を動かすことができるため、理解を促しやすかった。

スライドの活用では、展開すべて（数学Ａ）、用語の説明やレポート問題の解説補助（数学ⅠⅡ）として、活用することで板書の時間の削減ができ、その分を机間指導にあてることができたため、数学が苦手な生徒への対応に時間をかけることができた。ただ、すべてをスライドで展開すると、既習事項や例題の振り返



りが容易でなかった。スライド資料の配付等で対応したが、やはり例題などは板書を残して、一目で振り返りができた方が良いと感じた。

出席票の取組みでは、生徒自身が立式、法則を考える、文章からの間違いを読み取る、応用問題等多岐にわたる問題設定をして、その解答を次のスクーリングで共有する試みを年間通して行った。

その結果として、

- 「自分ではやったことのないような難しい問題が多かったです。答えが思いつかなかったところではみんなの解答を見て、そういう考え方なのかと、とても参考になりました。数学は理解できたり、どうして解けないのかという原因に気づく面白さがすごく感じられたので、受験では使わないだろうけど、もっと学んでいきたいと思いました。」
- 「まだ知らなかった解き方を知ることができたり自分が間違った解答をしていたらほかと比べることが出来たのでよかった。もっと難しい問題や入試問題に挑戦したいという意欲もわいた。」
- 「自分が持っている知識や、今まで解いた問題をもとに考え、答えを導く力が身についたと思います。また、他の人の意見と比べて、より良い解き方を学ぶことができるようになりました。」

等、肯定的な感想が多かったため、継続して行ったことに効果があったと思われる。ただ、考えの共有がリアルタイムにできていないため、数式などの共有の仕方が今後の課題となる。

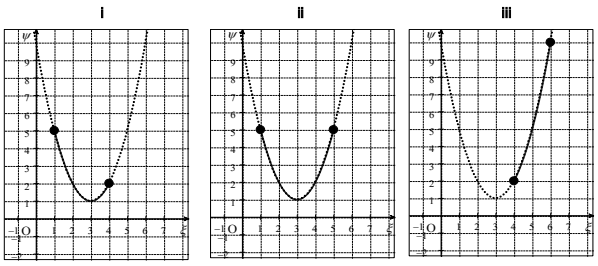
（３）次年度に向けて

レポート改善として、より「思考・判断・表現」を深める記述式の問いなど、新たな評価基準(ルーブリック)も用いて設定する。また、グラフはChromebookでWeb版GRAPESを用いて、生徒自身に考察させるなどのＩＣＴのさらなる活用を考えていく。

**《５》２次関数　$y=(x-3)^2+1$ について次の問題を解きなさい。**

【思考・判断・表現】

**（１）　定義域が次の3つの場合についてそれぞれ最大値を調べよ。**




ⅰ　y は $x$ ＝[　　]で　最大値［　　］をとる。

ⅱ　y は $x$ ＝[　　]で　最大値［　　］をとる。

ⅲ　y は $x$ ＝[　　]で　最大値［　　］をとる。

**（２）ⅰⅱⅲの定義域と最大値の関係について，「放物線の軸」という単語を用い説明しなさい。**

| 評価基準（目標の達成度） | A | B | C |
|---|---|---|---|
| | すべての場合の定義域で最大値が求められており，定義域と最大値の関係も正しく説明されている。 | 最大値を求められている定義域が２つ以上ある。 | 最大値を求められている定義域が１つ以下である。 |

**《15》次の問いに答えよ**　　**【思考・判断・表現】**

ある人物Ａさんには45の知り合いがおり、またＡさんの知り合いも、45の知り合いがおり、Ａさんの知り合いと重複しないと仮定する。

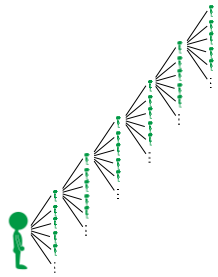
このように、重複しない知り合いをそれぞれが45持っているとき、Ａさんから６人知り合いをたどると、何人の人にたどり着くことができるでしょうか。立式し答えを求め、その答えよりどのような仮説が立てられるか。考えを述べなさい。

仮説を立てるにあたり、日本の人口を1.2億人、中国の人口を14億人、世界の人口を78億人として、いずれかの情報を用いて考察しましょう。

式

答え

仮説



・重複順列の考え方を用いましょう。
・計算は計算機等を使用してかまいません。
・ヒント　「六次の隔たり」を調べてみましょう。

| 評価基準（目標の達成度） | A | B | C |
|---|---|---|---|
| | 立式し答えを導き、仮説をたてることができる。 | 立式し答えを導き、仮説をたてることにおいていずれか２つできている。 | 立式し答えを導き、仮説をたてることにおいていずれか１つができている。またはできていない。 |

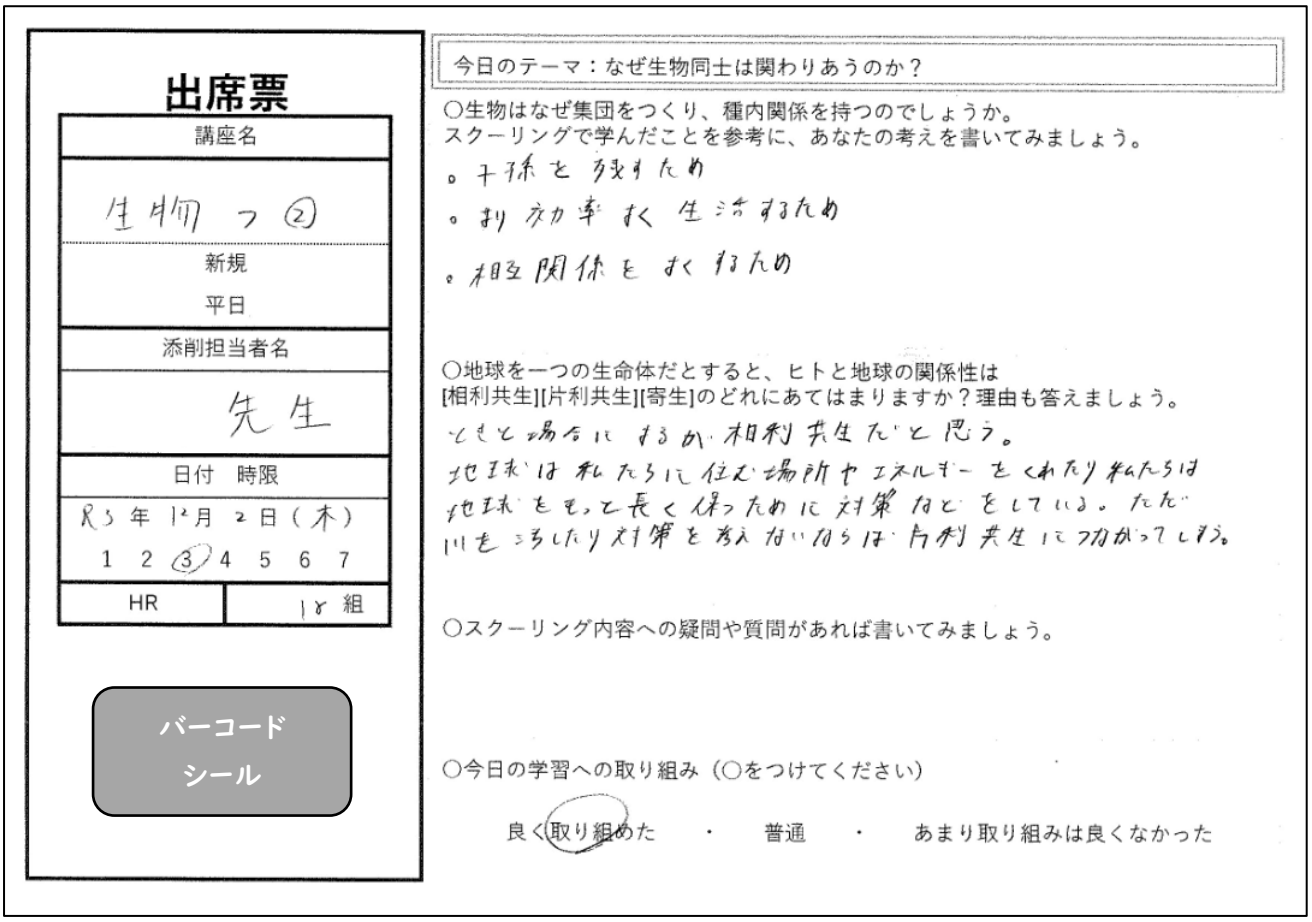
**理科**

（1）今年度の取組み

①スクーリング時における出席票の活用

通信制高校において、生徒に「主体的・対話的で深い学び」を実現させるために、いくつかの科目で出席票を活用した取組みを行った。

出席票に、「重要語句の確認」、「テーマについて自分の考えを書く」、「スクーリングを受ける前と受けた後の意識の変化を書く」、「見せた動画の感想やスクーリングの感想・要約など」などを加えることにより、スクーリングへの主体的な参加を促すとともに、生徒からの考えや新たに生まれた疑問を引き出そうと試みた。



出席票

| 講座名 |
|---|
| 生物 つ ② |
| 新規 平日 |
| 添削担当者名 |
| 先生 |
| 日付　時限 |
| R5 年 12 月 2 日（木） 1 2 ③ 4 5 6 7 |
| HR　1 組 |

バーコードシール

今日のテーマ：なぜ生物同士は関わりあうのか？

○生物はなぜ集団をつくり、種内関係を持つのでしょうか。
スクーリングで学んだことを参考に、あなたの考えを書いてみましょう。

。子孫を残すため
。より効率よく生活するため
。相互関係をよくするため

○地球を一つの生命体だとすると、ヒトと地球の関係性は
[相利共生][片利共生][寄生]のどれにあてはまりますか？理由も答えましょう。

ともと場合にるか相利共生だと思う。
地球は私たちに住む場所やエネルギーをくれたり私たちは
地球をもっと長く保つために対策などをしている。ただ
川を汚したり対策を考えないならば片利共生につながってしまう。

○スクーリング内容への疑問や質問があれば書いてみましょう。

○今日の学習への取り組み（○をつけてください）

良く取り組めた　・　普通　・　あまり取り組みは良くなかった

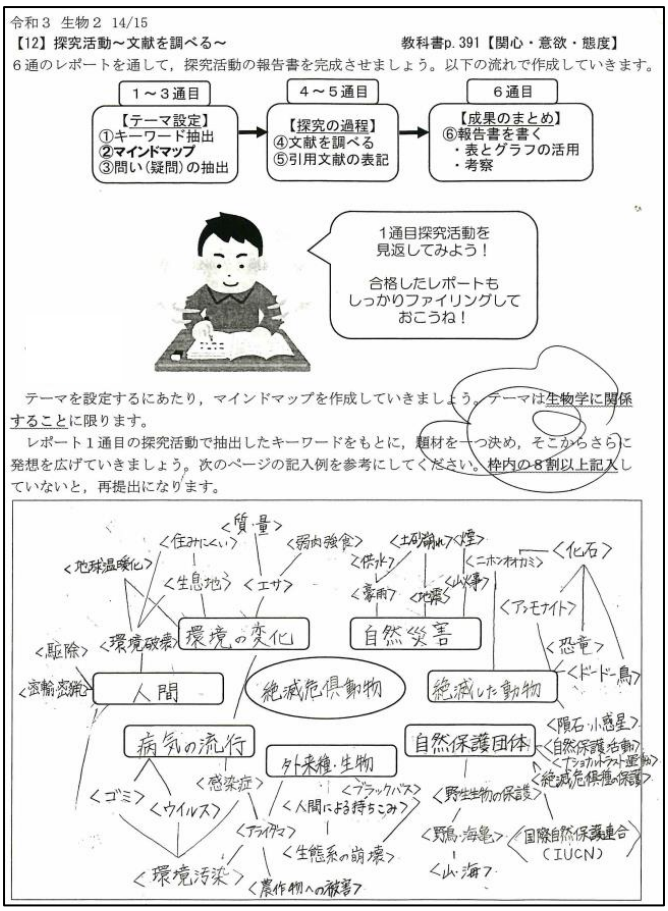
【出席票の一例「生物」】

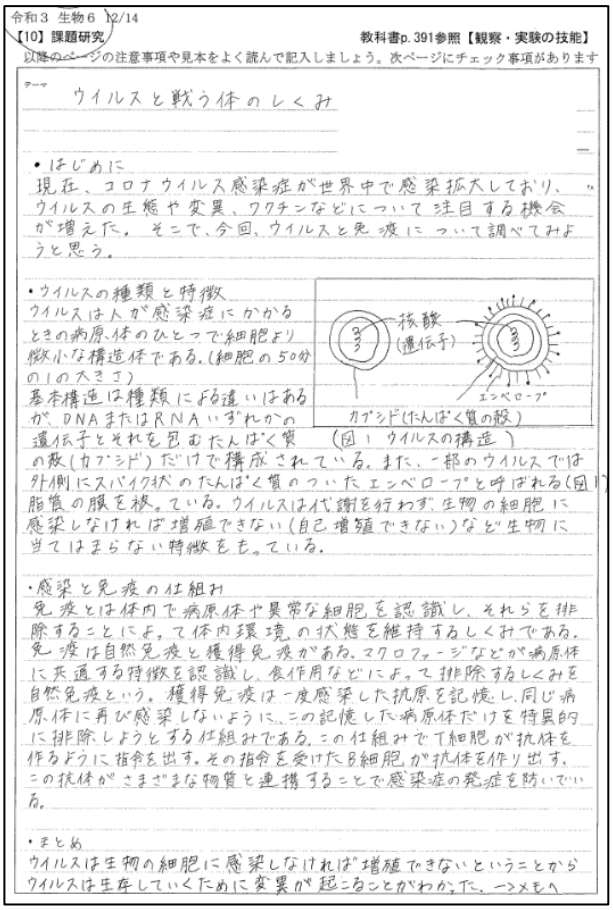
テーマに沿った「問い」に取組むことで深い学びにつなげようとした。

最後にはスクーリングに対する自己評価も記入できるように工夫した。

②課題研究型問題の設定

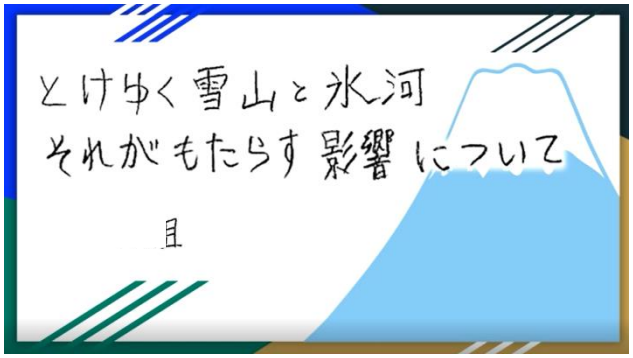
理科の科目の中には、最終レポートに課題研究が設定されているものがある。科目によってテーマを指定しているものもあるが、生徒の興味・関心に合わせ、各自でテーマを設定し主体的な学習を促すとともに、資料の集め方や情報をまとめて他人に伝える方法についても学ぶことができる。

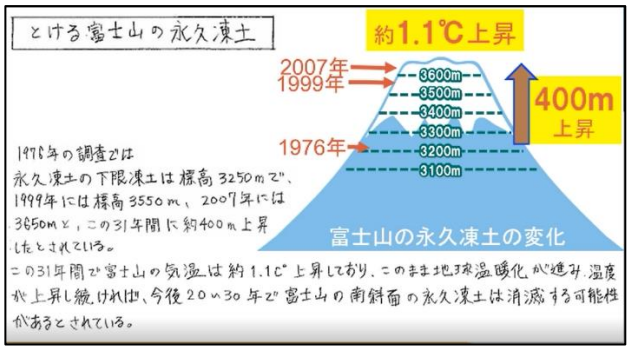



【課題研究型問題「生物」の例】　レポートを通して探究活動ができる仕組みになっている。

テーマ設定は生徒の興味関心に委ねている。生徒は「絶滅危惧動物」や「ウイルス」など自分の生活や現代の問題に関するテーマを設定している。



学校設定科目「くらしと環境」の探究活動を生徒がまとめたもの。県の「探究的学習発表会」で発表した。また、本校文化祭での発表も行った。

（２）成果

①スクーリング時における出席票の活用

地学基礎の講座では、出席票に付属した記述欄への記入は、年間で平均７～８割程度であった。小・中学校でグループワークなどを経験し、自分の意見を発表できる生徒も増えてきていると考えられる。ただし、自分の意見をまとめられない、表現できない生徒も中にはいるので、どのような意見でも受け入れるスクーリングの雰囲気作りも必要である。

②課題研究型問題の設定

スクーリング日数の設定が少ない通信制において、深い学びにつなげるための課題研究型問題の設定は有効である。自宅等で時間をかけて調べたり、まとめたりすることが可能だからである。意見や考えを持っていてもなかなか表出できない生徒もレポートにまとめる際には非常に興味深い作品を仕上げてきた。教員には思いつかなかったアイディアを提案する生徒もいた。また、生徒が思うように探究活動ができていないと担当教員が判断した際は、レポート添削を通じて参考資料や調べ方のヒントを提示した。生徒はその参考資料を基に探究活動の見通しをたてることができ、最終レポートに探究活動の成果をまとめることができていた。

（３）次年度に向けて

①スクーリング時における出席票の活用

生徒の中には、自分の意見を紙に書くということに抵抗がある者もいる。そこで、現状の紙の使用に加えて、Google フォームを活用して意見を集約することも検討する。生徒個人の端末から、入力してもらうことにより、心理的ハードルを下げることが期待でき、データで集約することで、リアルタイムで意見を募ることや、統計的な調査に用いることもでき、双方向的な意見のやり取りもできる。

②課題研究型問題の設定

今年度の取組みに加え、次年度のレポートには生徒の学習の見通しが立ち、深い学びにつなげるためのルーブリック評価の設定も行う。

**（３）今後，あなたがリサイクルに取り組んでいきたい物（ガラス瓶，プラスチック製品，紙，ペットボトル，アルミニウム缶など）を書きなさい。また，何故そのリサイクルに取り組んでいきたいのか，自分の生活と関連付けて，理由を書きなさい。**

| リサイクルに取り組んでいきたい物 | 理由（自分の生活と関連付けて） |
|---|---|
| | |

| A | B | C |
|---|---|---|
| ・リサイクルに適した物を書くことができた。<br>・リサイクルに取り組んでいきたい理由を，**自分の生活と関連付けて**書くことができた。 | ・リサイクルに適した物を書くことができた。<br>・リサイクルに取り組んでいきたい理由を書くことができた。 | ・リサイクルに適した物が書けていない。<br>・リサイクルに取り組んでいきたい理由が書けていない。 |

## 保健体育（保健）

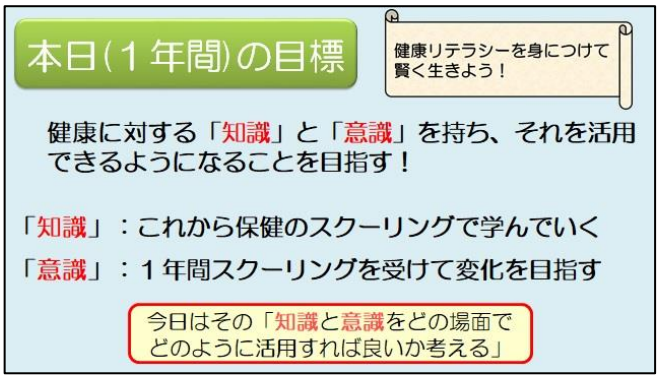
（１）今年度の取組み

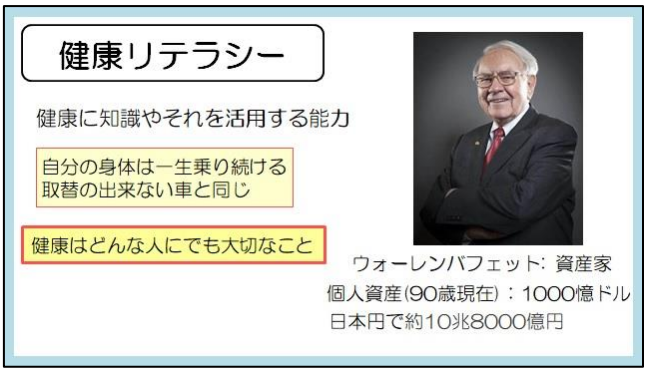
①スクーリング

今年度は「主体的・対話的で深い学び」の実践に向け、１年間のスクーリングのテーマを「健康リテラシーを身につけて賢く生きよう」として、知識の習得に加え、生活の中で実践できる力を身につけることを目指し、生活習慣、睡眠、食生活、ストレス対処法を学んだ。本校における保健のスクーリングでは、日常生活に直結する内容を扱いながらも、知識を活用してリテラシーを身につける学習は行われることが少なかった。その背景としてレポートの完成を目指しスクーリングが展開されているため、レポートの範囲外をどの程度スクーリングで扱えば良いかという問題が挙げられる。しかし、新学習指導要領の改訂に鑑み、レポート改訂が行われることで、スクーリングの改善も並行して行いやすくなった。また、ＩＣＴを通して「対話的」な学びを実践することで、通信制においても Google フォームや Mentimeter を活用して感染症予防策など、他者の考えを知る機会を設け、自分の考えを見つめ直すより深い学びを目指す。

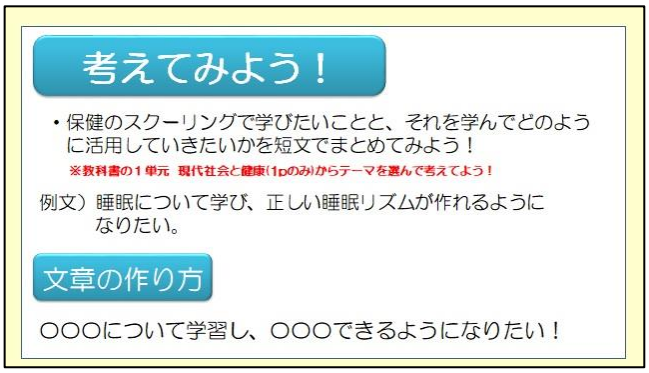
以下は、保健１の「健康リテラシー」を身につけるために行ったスクーリングと「対話的」な学びの実践例である。

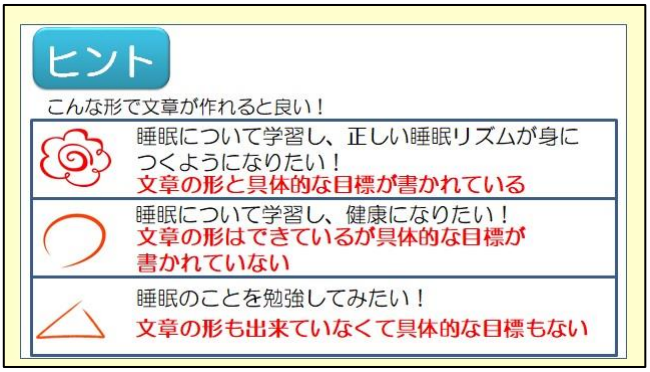
【１年間の保健のテーマを掲げることで見通しを持ったスクーリングの展開】



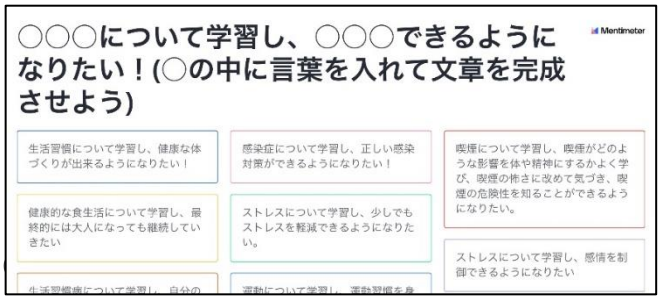




【保健の学習をどのように生活に活用したいか「対話的」な学びによる考えの共有】




【Mentimeter を用いた生徒の意見集約】




【スクーリングの風景】

上記のスクーリングの取組みを基に、令和４年度の新学習指導要領の実施に向けレポートの作成に取組んだ。「主体的・対話的で深い学び」の実践に向け、スクーリングのテーマとしても掲げた「日常生活における保健の知識の活用」を目標に、レポートの中で「自分や家族の生活習慣の振り返り」「喫煙や飲酒、薬物乱用などの危険性に対する対処」などの内容で課題を設けた。その際、評価基準を提示し、課題の到達目標が明確になるようにした。以下はレポートの課題例である。

【各レポートにおける課題例と評価基準】

**１通目のレポートを振り返り、自分や家族の生活習慣を振り返りましょう。　　【思・判・表】**

**【評価基準】**を参考にして、自分または家族の生活習慣における**課題**を、日常生活を例にあげ、それに対する**改善方法**を考えましょう。

改善方法を考えるヒント
・教科書のP.21、23、25のkeywords
・レポートP.４～５

現在、私(家族)の生活習慣における課題は・・・

です。

評価基準

| 評価 | A | B | C（再提出） |
|---|---|---|---|
| 文章の内容 | 課題をあげ、<br>それに対する改善方法が<br>日常生活を例にあげて書けている。 | 課題をあげ、<br>それに対する改善方法が<br>書けている。 | 課題または<br>改善方法のどちらかが<br>書けていない。 |
| 書いた量 | 改善方法が40字以上 | 改善方法が20字以上 | 改善方法が20字に達していない |

（２）成果

年間を通してスクーリングの中でテーマを伝え「健康リテラシー」を意識させることで、生徒が日常生活の中に学習内容を落とし込んで学ぶことができた。また、「対話的」な学びの実践として、生徒が主体的に考える時間や、他者の考えに触れる機会を設けた。通信制のシステム上、なかなか他者と触れ合う機会が少ない生徒にとってＩＣＴを活用した「対話的」な学びは必須項目であると感じた。レポートの改善に向けては、新学習指導要領の実施に向け教科全体で協議を行うことで共通認識を持って取組むことができた。

（３）次年度に向けて

課題としては、必ずしも毎回スクーリングに出席するわけではない通信制のシステムの中で「主体的・対話的で深い学び」の実践をレポートにどう落とし込むのか来年度以降も検討を続ける。また、スクーリングでは、Google フォームや Mentimeter を活用して「対話的」な学びの中で、他者の考えに対して、生徒がフィードバックできるような環境が整えられるとより深い学びに繋がっていく。

## 保健体育（体育）

（１）今年度の取組み

本校生徒の傾向として、身体のコントロールが思うようにいかず、その結果、運動への苦手意識が強い生徒が多い。

「できない、わからない」→「運動が嫌い」の思考から

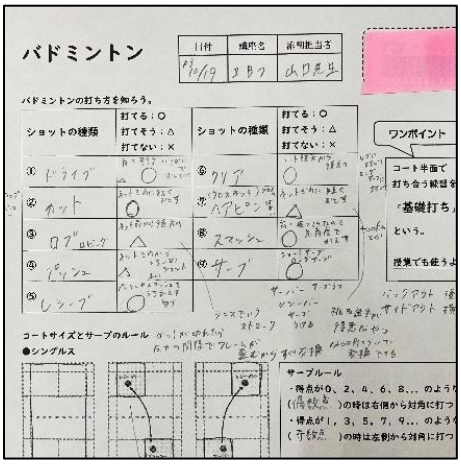
「できない、わからない」→「できるかもしれない」→「やってみよう」と生徒が取組めるようにスクーリングを計画した。

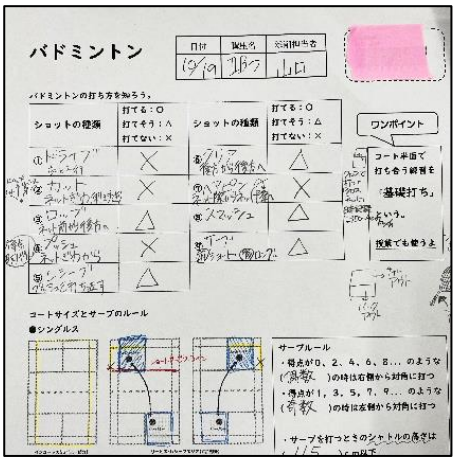
①事前アンケートで自分のできることの把握。

②運動の特性を考えながら体を動かし、自身の体と対話しながら理解を深める。

（２）成果

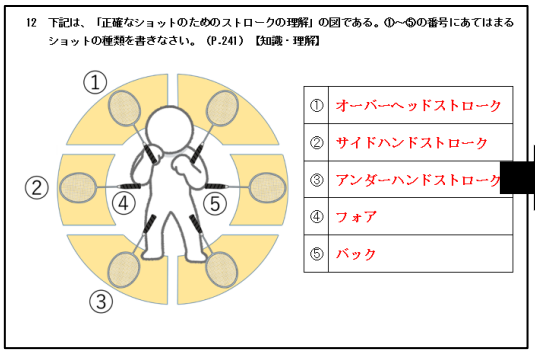
種目を実施する前に、その種目について動画を見ながら解説し、アンケート結果から「できること」と「できないこと」を把握した。実際に体を動かす場面になると、何ができないのかがわからないといった生徒も多いため、アンケートを通じて自分の**できること・できそうなこと**に目を向けさせることができた。また、できない動きやスキルを事前に教員が知ることで、生徒に寄り添ったスクーリングを展開できた。



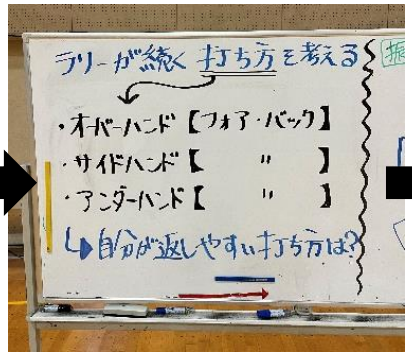




【○：打てる　△：打てそう　×：打てない　で自己分析】

実技のスクーリングにおいては、ウォーミングアップの内容に、体の調子を整えてコントロールする動きを取り入れた。静的ストレッチと動的ストレッチと区別し、ただ伸ばすだけではなくその動きが運動にどういった影響があるのかを考えながら行い、かつ種目の動きとの関連性を持つようにした。コロナ禍において自宅で過ごすことが多いことも考慮し、狭い空間でもできるストレッチや跳躍運動を中心にウォーミングアップを展開した。スクーリング中は、図や見本を通じて飛んでくるもの（ボールやシャトル）の特性を考えて打ち返しやすいポジショニングをすることで、生徒は安定してラリーが続けられるようになった。




【レポートで打ち方を知る】

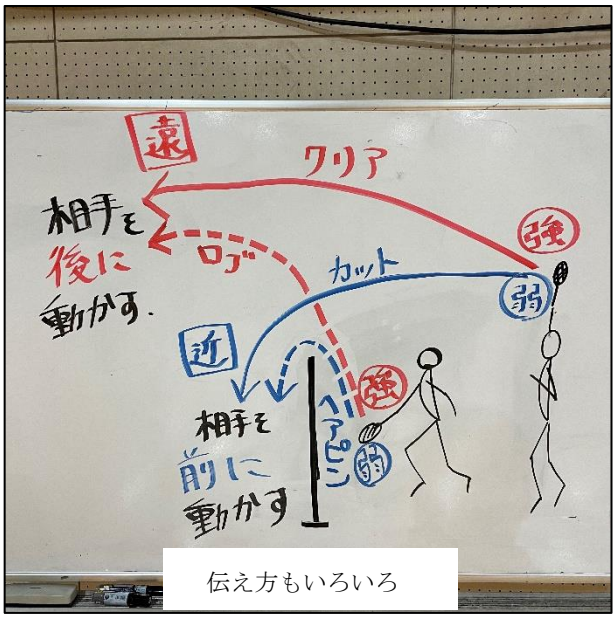



【スクーリングで実践する】

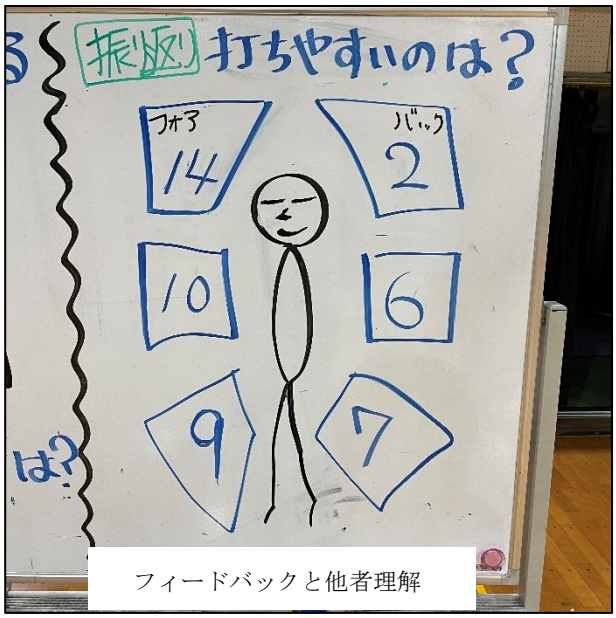
【実践して気づく】

また、１つのスキルについてもショットの名前と打ち方、軌道、イメージや感覚など感じ方がいろいろあることを配慮し、いろいろな角度からの声掛けや指導をした。遠くに飛ばそうと意識するとできなかった生徒が、打つ時に「強く当てよう」と意識を変えることでショットが安定する場面などがあった。

各種目の基本的な技術や用語は、レポートで学び、授業で実際に見本を示し、自ら実践するといった流れでより理解が深まるようにレポートが活用されている。スクーリングの振り返りでは、生徒が打ちやすい場所を挙手することでお互いの特徴を理解し合い、安定してラリーを続けるためにはペアの生徒への理解が大切であると学ぶことができた。



伝え方もいろいろ



フィードバックと他者理解

（３）次年度に向けて

レポートを通じて、運動やスポーツとのかかわり方を学べるように改善する。スクーリングでは教員からの問いかけを大切にし、目標に向かってどうすればできるかを生徒自身が考えながら実践できるように目標の設定もスモールステップで示せるようにする。

また、生徒自身が目標設定をして課題を発見し取組むために、〇〇ができればこの種目が楽しめる、理解が深まる。といった〇〇を生徒自身が考え実践することが「主体的・対話的で深い学び」につながると考える。

【レポートで、スポーツとのかかわり方は「する」だけではないことを学ぶ】

**①スポーツ文化への多様なかかわり方を語群から選び、それぞれ答えなさい。**

【語群】　「する」・「みる」・「支える」・「知る」

| スポーツ文化へのかかわり方 | 具体的なかかわり方など |
|---|---|
| スポーツを（　　） | 実際に身体を動かし、スポーツに取り組む。 |
| スポーツを（　　） | スタジアムや競技場に行ったり、TV番組などで試合を観戦する。 |
| スポーツを（　　） | スポーツ大会のボランティアに参加する。 |
| スポーツを（　　） | インターネットや本などで詳しく調べる。 |

**②自分に合うスポーツ文化へのかかわり方を①の語群から１つあげ、その理由を答えなさい。**

自分に合うスポーツ文化へのかかわり方は・・・スポーツを（　　）ことです。

**そのように考える理由は・・・**

15
30
45
60

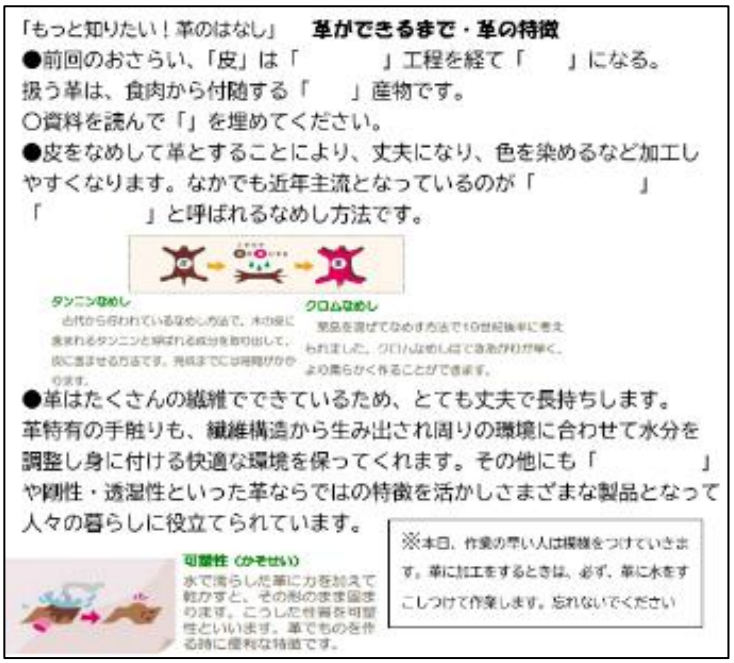
**芸術科**

（1）今年度の取組み

①ルーブリックを用いた評価への取組み

工芸科では、革などの素材について始業チャイムまでの５～10 分間、出席票の表裏を用いてプリントワークをおこなった。解説には素材を取り扱う団体の教育用ホームページを活用した、主体的な取組みを促すために、ルーブリック表を用いて制作の進捗状況を確認し取組み意識が向上することを意識した。

【素材についてのプリントワーク】




【素材を取り扱う団体の教育用ホームページを活用】

① 出席表ワーク　自己評価　印に○をつける。

| 目標 | ◎ | ○ | △ |
|---|---|---|---|
| 「革になるまで」「革の特徴」を見て制作に使用していく素材を理解する。 | 自ら進んで「」をすべて埋めることができ解説を聞き理解することができた。 | 解説を聞いて「」をすべて埋めることができ理解することができた。 | 「」に空欄ができ理解することができなかった。 |

② 制作について　自己評価　A・B・Cに○をつける。

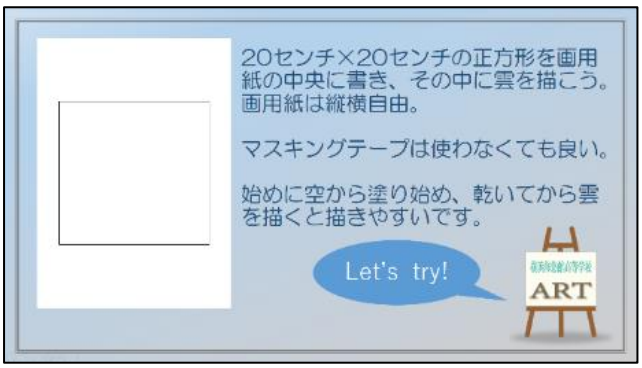
| 目標 | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 植物の模様を考え革に写して、加工作業に進めることができる。 | 植物の模様を考え革に写して、加工作業に進めることができた。 | 植物の模様を考え革に写すことができた。 | 植物の模様を考え途中か、考え終わった。 |

**※Cの人は月曜日５校時工芸室でのレポート完成講座をすすめます。**

【ルーブリック例　進度に応じて補講の案内も付記している】

②ＩＣＴ機器の活用

美術科では、本年度より本格的に PowerPoint を用いて教材を作成し、活用することで、「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けたスクーリング改善に取組んだ。教材を作る際の注意点としては、わかりやすさを第一に考え、視覚的に訴えるように色、バランスを工夫した。レポート内容に沿った有名画家の作品を参考作品として見せ、生徒が主体的に作品制作に臨める手引きとなることを目指した。




【風景画の PowerPoint 資料】

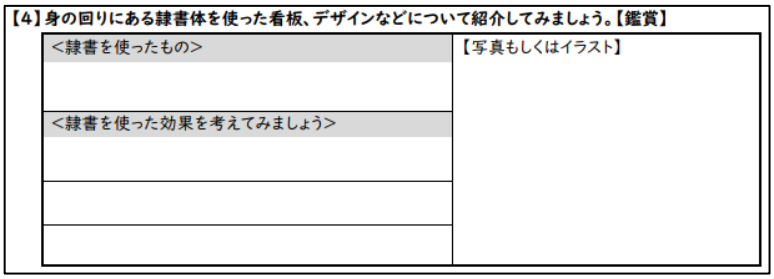
【雲を描いてみようの PowerPoint】

音楽科では、鑑賞において演奏映像を見せることで、楽器や編成の理解を深めることに努めた。

オーケストラ曲「ボレロ」では、「ボレロ」のリズムをスネアドラムのスティックで机を叩いてから、実際の楽器スネアドラムを順番に叩いた。その後、知識を得て、曲を聴き、教員による説明を加えながら、バレエ音楽「ボレロ」のバレエの映像を見ることで、より曲に対する理解を深めた。

③思考力・判断力・表現力の育成

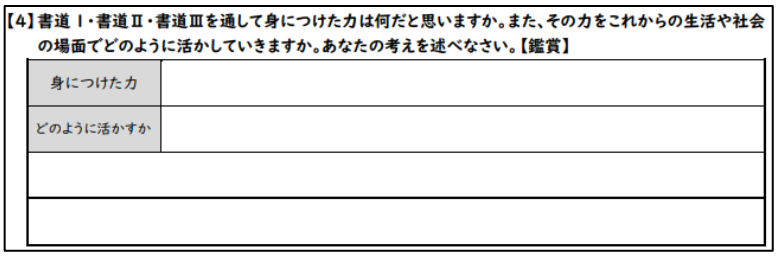
書道科では、生徒の思考力・判断力・表現力の育成のため、スクーリングやレポートで学習した書の歴史や知識等を日常生活にどのように生かすかをテーマにレポート課題を作成した。「書道Ⅱ」の２通目において、隷書体を学習したのち、身の回りにある隷書体を使用した看板やデザインを見つけ、隷書体を使った効果を考えて記述するという課題を設定した。また、「書道Ⅲ」の６通目では、３年次の生徒が受講することからこれまで書道を学んだことで身につけた力とそれを今後の生活でどのように生かすかを述べさせた。



【4】身の回りにある隷書体を使った看板、デザインなどについて紹介してみましょう。【鑑賞】

| <隷書を使ったもの> | 【写真もしくはイラスト】 |
|---|---|
| <隷書を使った効果を考えてみましょう> | |
| | |
| | |

【「書道Ⅱ」２通目のレポート】



【4】書道Ⅰ・書道Ⅱ・書道Ⅲを通して身につけた力は何だと思いますか。また、その力をこれからの生活や社会の場面でどのように活かしていきますか。あなたの考えを述べなさい。【鑑賞】

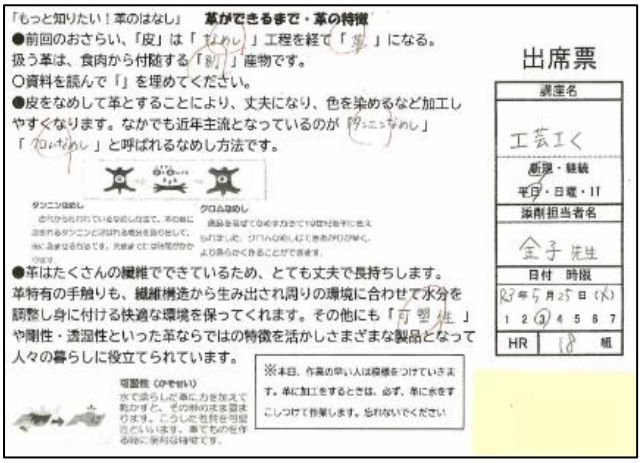
| | |
|---|---|
| 身につけた力 | |
| どのように活かすか | |
| | |
| | |

【「書道Ⅲ」６通目のレポート】

（２）成果

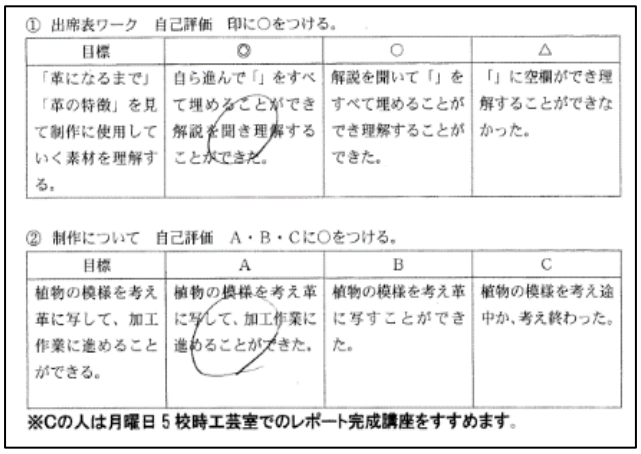
①ルーブリックを用いた評価への取組み

本校のスクーリング間の移動時間は 15 分で、生徒は早めに入室を済ませるため 10 分ほどの待ち時間となる。プリントワークを行う以前は、スマートフォンなどを見て、時間をつぶす生徒が多かったが、今回の取組みで、スマートフォン等を使いながら、素材について学習することで制作している作品に愛着やこだわりを持たせることができた。また、ルーブリックでの自己の進捗状況を知ることで、生徒の意欲や取組みの意識を高め、遅れている生徒には、レポート完成講座に繋げることができた。


「もっと知りたい！革のはなし」　革ができるまで・革の特徴
●前回のおさらい、「皮」は「なめし」工程を経て「革」になる。
扱う革は、食肉から付随する「副産」産物です。
○資料を読んで「」を埋めてください。
●皮をなめして革とすることにより、丈夫になり、色を染めるなど加工しやすくなります。なかでも近年主流となっているのが「タンニンなめし」「クロムなめし」と呼ばれるなめし方法です。
タンニンなめし
クロムなめし
●革はたくさんの繊維でできているため、とても丈夫で長持ちします。革特有の手触りも、繊維構造から生み出され周りの環境に合わせて水分を調整し身に付ける快適な環境を保ってくれます。その他にも「可塑性」や剛性・透湿性といった革ならではの特徴を活かしさまざまな製品となって人々の暮らしに役立てられています。
可塑性（かそせい）
※本日、作業の早い人は模様をつけていきます。革に加工をするときは、必ず、革に水をすこしつけて作業します。忘れないでください

出席票
講座名
工芸工く
断課・継続
平日・日曜・IT
添削担当者名
金子 先生
日付　時限
23年5月25日（火）
1 2 3 4 5 6 7
HR　18　組

【素材についてのプリントワーク】


① 出席表ワーク　自己評価　印に○をつける。

| 目標 | ◎ | ○ | △ |
|---|---|---|---|
| 「革になるまで」「革の特徴」を見て制作に使用していく素材を理解する。 | 自ら進んで「」をすべて埋めることができ解説を聞き理解することができた。 | 解説を聞いて「」をすべて埋めることができ理解することができた。 | 「」に空欄ができ理解することができなかった。 |

② 制作について　自己評価　A・B・Cに○をつける。

| 目標 | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 植物の模様を考え革に写して、加工作業に進めることができる。 | 植物の模様を考え革に写して、加工作業に進めることができた。 | 植物の模様を考え革に写すことができた。 | 植物の模様を考え途中か、考え終わった。 |

※Cの人は月曜日５校時工芸室でのレポート完成講座をすすめます。

【実際に記入されたルーブリック評価】

②ＩＣＴ機器の活用

スライド資料を活用することで、視覚的でわかりやすく、生徒の手助けとなり、実際の作品制作の場面において、以前よりスムーズに取り掛かることができた。また、参考作品を見ることで生徒の理解が進み、以前より完成度の高い、深みのある作品が多く提出された。

③思考力・判断力・表現力の育成

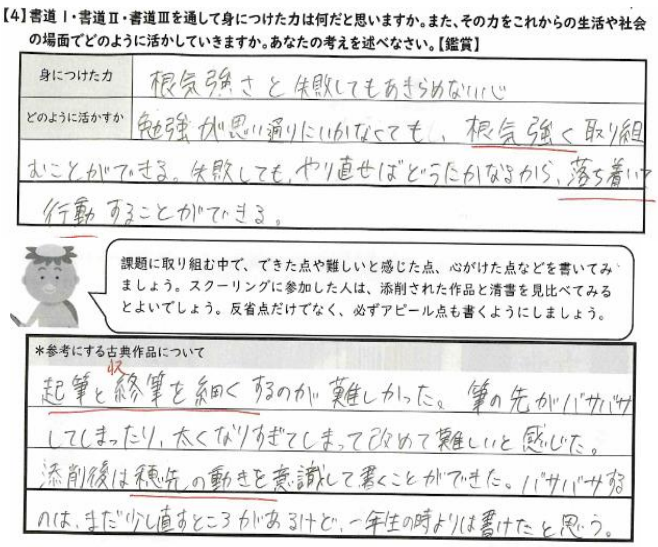
書道Ⅱの２通目の隷書体を使った効果については、新聞の題字や化粧品、飲料のパッケージを選び

・「昔からある化粧品なので、隷書体を取り入れることで古風な印象を与える」
・「隷書を使うと日本の和を感じさせ、お茶に高級感が出て、おいしく見える」「歴史を感じさせる」

などの意見があった。また、書道Ⅲの６通目では、

・「とめ、はね、はらいを意識するようになった。これからの生活で大事な書類を書くときに意識していきたい」
・「観察力が身についた。培った観察力を仕事に活かしたい」

と述べられていた。このことから、毛筆による表現活動だけでなく、学習した知識や経験と日常生活の関わりに気づくことや、社会の中でどう活かすかという視点を持つことができたと考える。



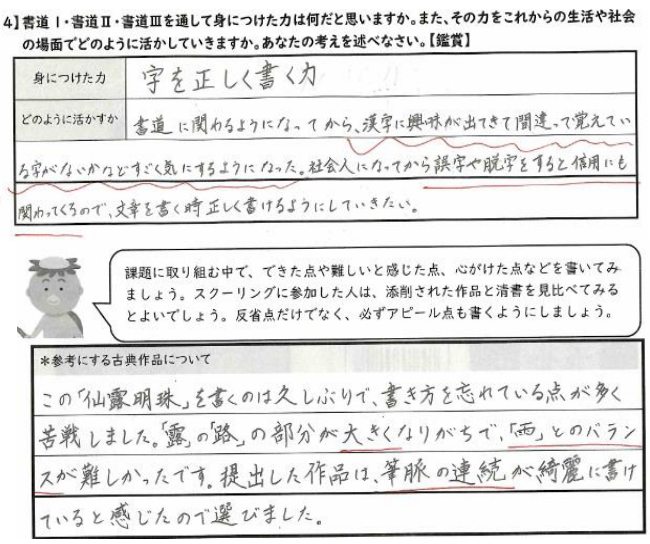
【4】書道Ⅰ・書道Ⅱ・書道Ⅲを通して身につけた力は何だと思いますか。また、その力をこれからの生活や社会の場面でどのように活かしていきますか。あなたの考えを述べなさい。【鑑賞】

| | |
|---|---|
| 身につけた力 | 根気強さと失敗してもあきらめない心 |
| どのように活かすか | 勉強が思い通りにいかなくても、根気強く取り組むことができる。失敗しても、やり直せばどうにかなるから、落ち着いて行動することができる。 |

課題に取り組む中で、できた点や難しいと感じた点、心がけた点などを書いてみましょう。スクーリングに参加した人は、添削された作品と清書を見比べてみるとよいでしょう。反省点だけでなく、必ずアピール点も書くようにしましょう。

＊参考にする古典作品について

起筆と終筆を細くするのが難しかった。筆の先がバサバサしてしまったり、太くなりすぎてしまって改めて難しいと感じた。添削後は穂先の動きを意識して書くことができた。バサバサなのは、まだ少し直すところがあるけど、一年生の時よりは書けたと思う。



【4】書道Ⅰ・書道Ⅱ・書道Ⅲを通して身につけた力は何だと思いますか。また、その力をこれからの生活や社会の場面でどのように活かしていきますか。あなたの考えを述べなさい。【鑑賞】

| | |
|---|---|
| 身につけた力 | 字を正しく書く力 |
| どのように活かすか | 書道に関わるようになってから、漢字に興味が出てきて間違って覚えている字がないかなどすぐ気にするようになった。社会人になってから誤字や脱字をすると信用にも関わってくるので、文章を書く時正しく書けるようにしていきたい。 |

課題に取り組む中で、できた点や難しいと感じた点、心がけた点などを書いてみましょう。スクーリングに参加した人は、添削された作品と清書を見比べてみるとよいでしょう。反省点だけでなく、必ずアピール点も書くようにしましょう。

＊参考にする古典作品について

この「仙露明珠」を書くのは久しぶりで、書き方を忘れている点が多く苦戦しました。「露」の「路」の部分が大きくなりがちで、「西」とのバランスが難しかったです。提出した作品は、筆脈の連続が綺麗に書けていると感じたので選びました。

【書道Ⅲレポートのまとめ】

（３）次年度に向けて

次年度から芸術Ⅰでは、新教育課程による学習となる。レポート課題においては、ルーブリックが本格的に導入され、主に鑑賞の部分において用いられる。生徒の思考力・判断力・表現力の育成のために制作作品の素材の知識や作られた時代背景など鑑賞活動での学びを表現活動に生かしていく。短い時間でのスクーリングだが前後の学びを意識した教材の作成、発問、生徒一人ひとりに合わせた指導方法を検討していくことで、生徒自身が達成感を得られ、主体的に学習に取組めるようにしていく。

## 外国語科

（１）今年度の取組み

外国語科におけるＩＣＴ機器の活用と通信制における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ＢＹＯＤを使いインターネットサイトを通しての生徒参加型の授業を多く取り入れた。生徒は自分のＩＣＴ端末を用いることを基本とし、自分の端末を持っていない生徒には学校の Chromebook を貸し出した。主に「Kahoot!」「Quizlet」「Google フォーム」の３つを利用した。

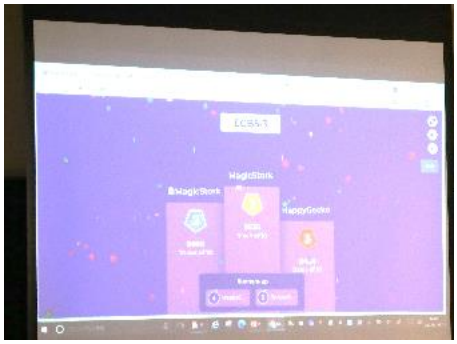
①Kahoot!

主に文法学習に使用した。問題の形式はいくつかあるが、多くの問題は４択クイズである。前面のスクリーンに問題が表示され、その問題を読みながら自分の端末で回答する。そのため、問題文や選択肢の文章を長くすることができるため、文法学習により適していると考えた。最後には、自分の正答数とポイントが表示される。獲得ポイントを上げるために瞬間的に答えようとするなど、解答のスピードを上げさせることにも役に立つ。

【問題文と選択肢をスクリーンに表示】

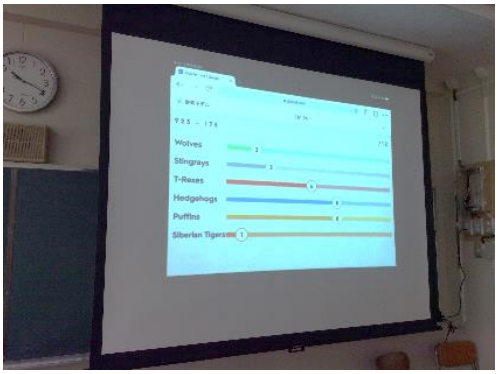
【生徒は手元の端末で、前に表示された問題の回答を行う】

【その場で解答と各選択肢の選ばれた数が出るため、即時フィードバックが可能】


【獲得したポイントの１～３位までが最後に発表される】

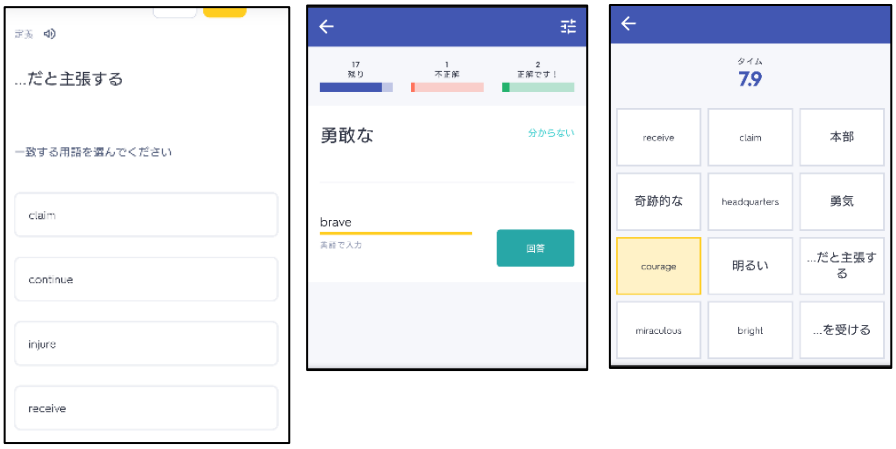
②Quizlet

主に単語学習に使用した。授業では、「live」の機能を使い、４択クイズ約 12 問を誰が一番早く答えられるか、という対戦型のクイズを行った。不正解だった場合にはその場で答えが出るため、各々で習得度の確認ができる。また、授業プリントに Quizlet の二次元コードを貼り付けることにより、自学自習が行えるようにした。様々な形式で復習することができる。

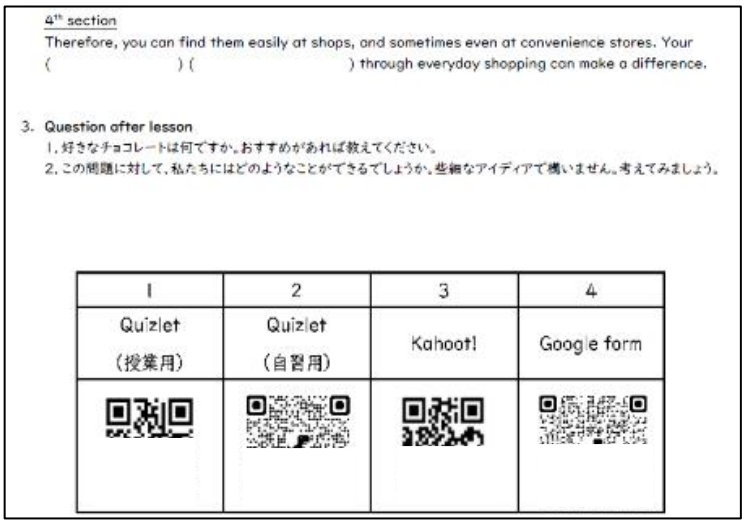


【前面のスクリーンには、参加者の誰がどこまで進んでいるかを表示】

【生徒の手元の端末には、一人一人問題が表示されており、タップして解答】



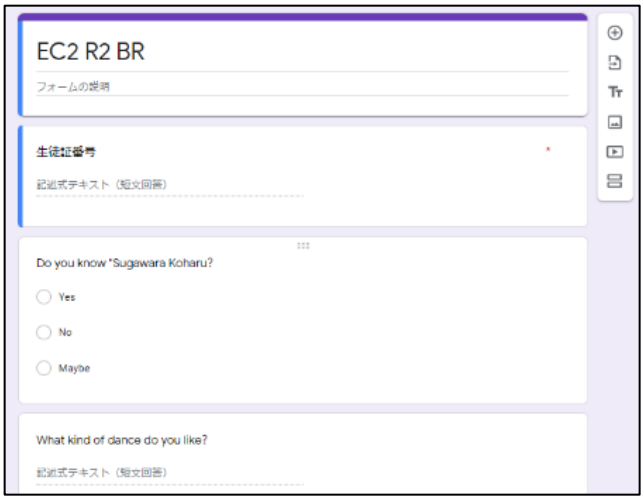

【一人でも様々な形式でクイズを行えるため、自主的な学習が可能】



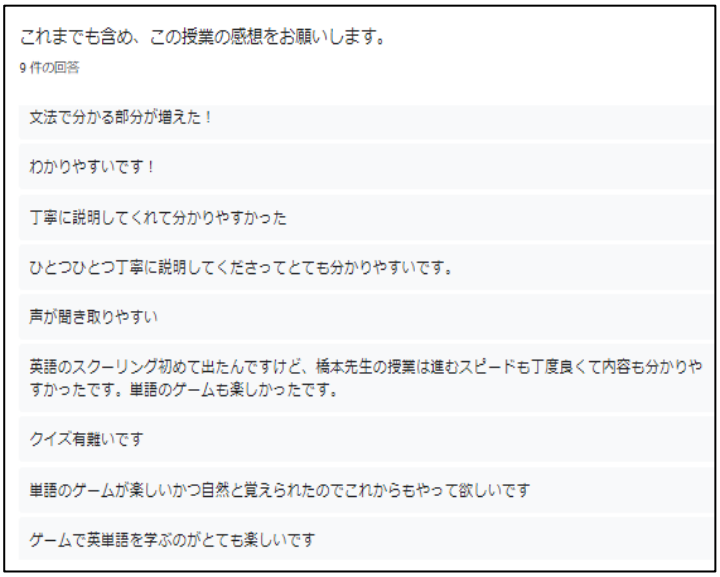

【プリントに QR コードを記載】

③Google フォーム

主に生徒の意見を集める際に使用した。授業評価、ブレーンストーミング、各授業の達成度や、Lesson 毎の振り返り・感想等を集められる。また、その場で表示されるため教員も入力内容に対し、即時フィードバックが可能である。




【選択問題や自由記述など問題ごとに設定が可能】




【授業評価例　即時フィードバックが可能】

（２）成果

今年度の取組みは、外国語科におけるＩＣＴ機器の活用と通信制における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、好調な滑り出しだったと言える。

通信制である本校においては、スクーリングに出席する生徒が毎時異なる。また、人前で話しをしたり、中には１対１での会話を苦手とする生徒もいる。加えて、単位修得のために出席すべき回数が決まっており、継続的に出席する生徒も多くはないため、生徒同士の信頼関係が構築しづらく、ペアワークやグループワークなどを行うことが難しい。その中でも、「Kahoot!」「Quizlet」「Google フォーム」などを利用することで、匿名でグループを組むことや意見を発表する場を設けることができた。

（３）次年度に向けて

次年度では、ＩＣＴ機器のより効果的な活用を目指していく。「どのようなアプリやサイトを使うかを事前に知りたい」といった声もあるため、生徒たちの準備がしやすいようにしていく。

また、レポートにルーブリックを入れることで、スクーリングへの参加が少ない生徒に対しても、レポートを通して見通しの立てやすい「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指していく。

【次年度のレポートの一例】

［10］教科書129ページの Activity Step4 の例を参考にして、「あなたが海外の文化や社会を理解するためにできること」について英語で書きましょう。また、完成した各英文の意味も書きましょう。

［思・判・表］

※Tool Box を使っても構いません。
下の評価基準を参考に、
＊下線部①には、興味がある国を表す単語を入れてください。
下線部②には、知りたいことを表す英文を入れてください。
下線部③には、手段を表す英文を入れてください。
ただし、下の【例】と同じ語句を使わないこと。
＊さらに、完成した英文を声に出して読んでみましょう。

【例】

I'm interested in ①Vietnam. I'd like to know about ②the people's lifestyle there, so I want to ③search for information on websites.

I'm interested in ①＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿.

意味（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

I'd like to know about ②＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ there,

意味（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

So I want to ③＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿.

意味（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

| 評価基準［目標の到達度］ | A | B | C |
|---|---|---|---|
| | （ア）（イ）の条件を2つとも満たしている。 | （ア）（イ）の条件をどちらか一つ満たしている。 | （ア）（イ）の条件を一つも満たしていない。 |

（ア）「あなたが海外の文化や社会を理解するためにできること」について、Tool Box 以外の単語を自分で調べて使うことで、自分の考えを表現している。

（イ）正しい英語表現（単語・語句・文法等）が使えており、意思疎通において支障ない英語で表現している。

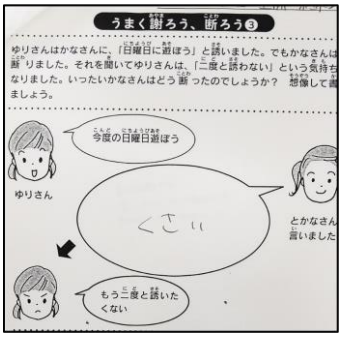
## 家庭科

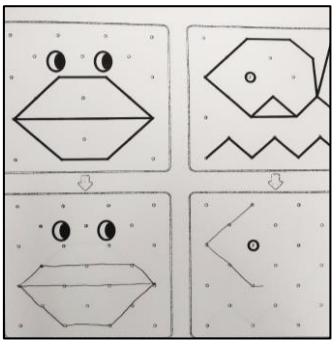
（１）今年度の取組み

担任を持つ家庭科教員のクラスでの SHR にて、試行的にコグトレ（認知機能トレーニングプリント）を週２回行った。「絵や図の模倣（板書）はできても、相手の気持ちを考える課題が苦手であり、言葉を生み出す（自由記述）問題が苦手。」という傾向が見られた。本校の生徒は不器用さが目立ち、自らの言葉で話し、自らの体を動かして作業することが苦手である場合が多い。家庭科としては、人と関わり生きていく科目であるので、[“主体的に動く家庭科”を諦めたくない]という思いにまとまった。

【ＳＨＲの様子】

【教科会の様子　使用教材を全員で検討】



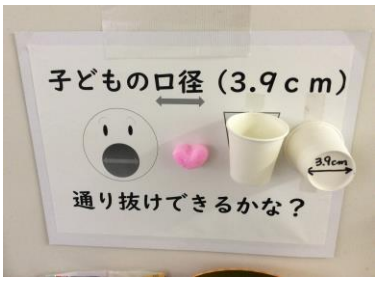
【実際の生徒の回答】

教科の目標として今年度は

① より一層視覚的な教材を取り入れる
② 生徒の自己表現を引き出す工夫をする　ことを共通認識とした。

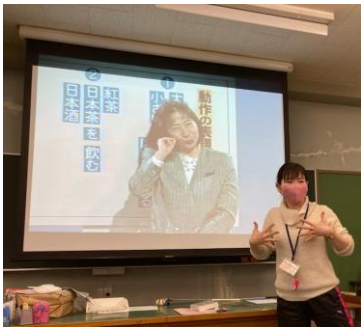
新型コロナ感染防止策として家庭科実習制限の中、生徒の安全を確保した実習は何か、実習を行わない課題に主体的に取組むにはどのような仕掛けが必要か、それぞれの担当でスクーリング改善に取組んだ。

《こどもの発達と保育》



【こどもの誤飲の具体的な大きさをイメージさせる。スクーリングの時間は限られるので廊下に展示】

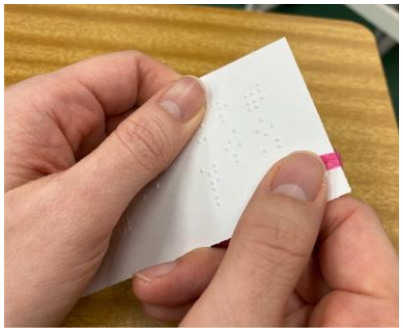
《生活と福祉》



【手話のレクチャー。一緒にやろう】

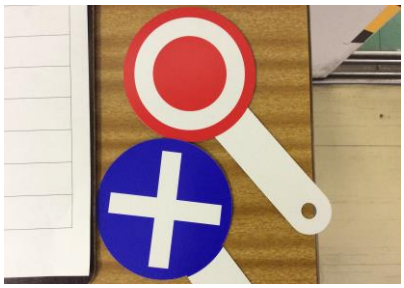
《くらしとデザイン》

【色の組み合わせカード】

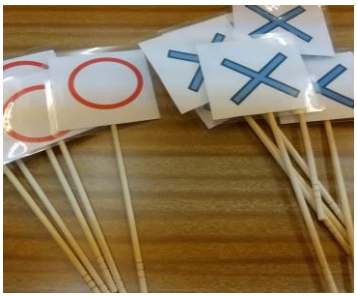


【点字に触れてみよう！】

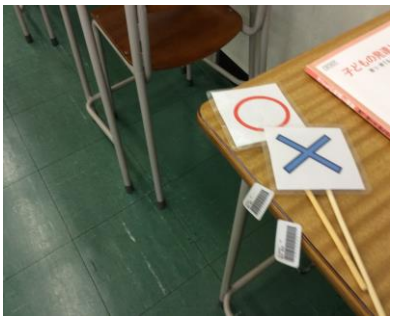
（２）成果



【市販のもの】



【作成した教材】



【一人分の準備】

【反応する生徒たち】

スクーリングのために作成した教材を教科全員で共有することで、教科の中で成果を検討し合うことができた。生徒の発言を促すための前段階としての〇×カードは、クイズ番組のように個人で挙手の代わりに用いる。発言することよりも負担感が少なく、反応する生徒が増えた。また、表裏で〇×になっている市販のものよりも、〇と×の２種類を持たせる方が生徒同士の意見がわかりやすく、スクーリングの展開に変化が生まれた。

また、「生活と福祉」で毎回取組んでいる手話も、“みんなできなくて当たり前”を合言葉にすることで「できなかったらどうしよう」「恥ずかしい」といった不安が解消され、ほぼ全員が実際に手を動かして参加した。

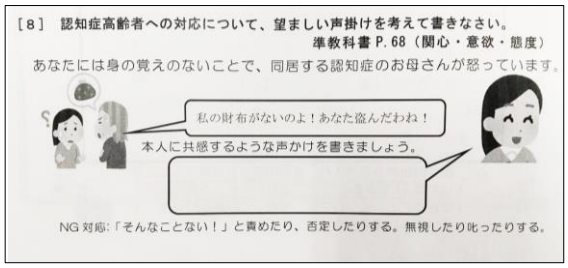
【○×カード】

【手話】

【生徒も赤ちゃん抱っこに参加！】

（３）次年度に向けて

新たな評価基準も用いながら、家庭科らしい自由記述問題も大切にしたレポートを作成する。スクーリングに出席した生徒とは、“家庭科で学んだことを自分なりに人生に生かしていくにはどうしたらよいか？”を共に考えていく。



［8］ 認知症高齢者への対応について、望ましい声掛けを考えて書きなさい。
準教科書 P. 68（関心・意欲・態度）

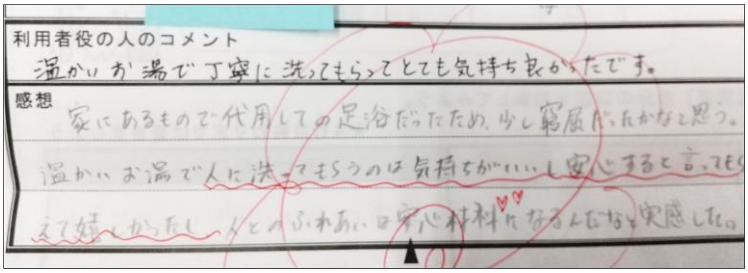
あなたには身の覚えのないことで、同居する認知症のお母さんが怒っています。

私の財布がないのよ！あなた盗んだわね！

本人に共感するような声かけを書きましょう。

NG 対応:「そんなことない！」と責めたり、否定したりする。無視したり叱ったりする。

【答えのない問い　自分だったら？を考える】



利用者役の人のコメント

温かいお湯で丁寧に洗ってもらってとても気持ち良かったです。

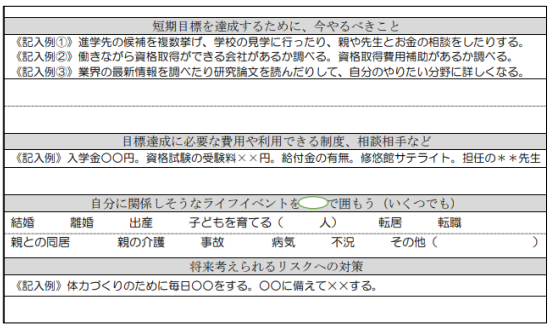
感想

家にあるもので代用しての足浴だったため、少し窮屈だったかなと思う。

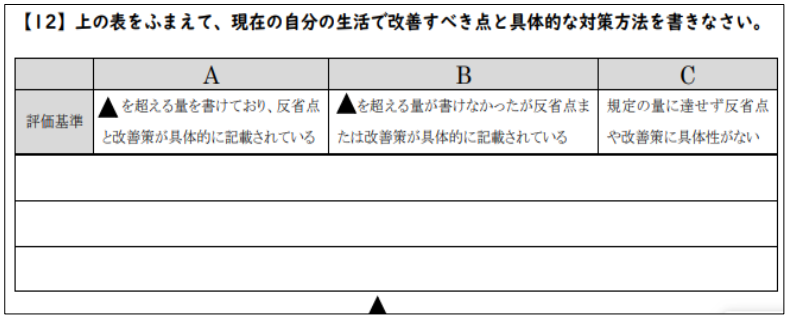
温かいお湯で人に洗ってもらうのは気持ちがいいし安心すると言ってもよ

えて嬉しかったし人とのふれあい[illegible]

【４通取組み終わるころには“相手の立場に立って考える”ように】



| 短期目標を達成するために、今やるべきこと |
|---|
| 《記入例①》進学先の候補を複数挙げ、学校の見学に行ったり、親や先生とお金の相談をしたりする。<br>《記入例②》働きながら資格取得ができる会社があるか調べる。資格取得費用補助があるか調べる。<br>《記入例③》業界の最新情報を調べたり研究論文を読んだりして、自分のやりたい分野に詳しくなる。 |
| |
| |
| 目標達成に必要な費用や利用できる制度、相談相手など |
| 《記入例》入学金〇〇円。資格試験の受験料××円。給付金の有無。修悠館サテライト。担任の＊＊先生 |
| |
| 自分に関係しそうなライフイベントを◯で囲もう（いくつでも） |
| 結婚　離婚　出産　子どもを育てる（　人）　転居　転職 |
| 親との同居　親の介護　事故　病気　不況　その他（　） |
| 将来考えられるリスクへの対策 |
| 《記入例》体力づくりのために毎日〇〇をする。〇〇に備えて××する。 |
| |



【12】上の表をふまえて、現在の自分の生活で改善すべき点と具体的な対策方法を書きなさい。

| | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | ▲を超える量を書けており、反省点と改善策が具体的に記載されている | ▲を超える量が書けなかったが反省点または改善策が具体的に記載されている | 規定の量に達せず反省点や改善策に具体性がない |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

【令和４年度新レポートとルーブリック】

**情報科**

（１）今年度の取組み

情報では、年間 12 回のスクーリングのうち、６回以上の出席が履修の条件となっており、全日制と比べると授業時間が圧倒的に少ない。このような学習環境下では、主体的な学習姿勢がとくに重要であるが、実際は自分自身で学習を進めていく事に困難を感じている生徒が多い。そこで Google 社の Classroom を利用して、学習の進捗管理を行い、レポート作成・提出の支援を強化した。

予定では夏休み明けから新しいパソコンが追加配備され、新しい環境でスタートする計画だったが、パソコンの納期が遅れたため、校内にあるパソコンの割り当てを調整し、学習環境を整えて 11 月からスタートすることができた。それまでの間は、後述の専用 web site を作成し、生徒のスマートフォンを活用した。

（２）成果

①Google Sites の活用

前期（５～７月）は学習後のレポート完成のために、Google Sites で Web ページを作成し、解説や補足を配信し、「振り返り」ができるようにした。当日出席しなかった生徒も、自宅で学ぶことができる。生徒のスマートフォンにブックマークさせ、いつでもアクセスできるようにして計画的な学習を促した。問題を何度も解き直しできる様に設定することで、自分のタイミングで学び直しが可能となる。

課題としては、このような web タイプの支援ではプッシュ型の通知ができないため、活用していない生徒に対してアプローチする手段がなく、全くアクションを起こさない生徒への支援ができなかった。

後期（10～12 月）は Google Classroom での運用を開始したので、個別の学習支援ができるようになった。

②Classroom を使ったレポート学習設計

ポイントは、スクーリング中の学習スライドに加えて、確認問題を設置し、学び直しができるようにした。また質問も問題ごとに受けることができるため、テキストでの質疑でも意思疎通ができた。

③Classroom を使った課題作成と提出

これまでパソコンを使用した課題作成は、指定された実習日に登校して課題作業を終えないとならなかった。そのため実習日に参加できないと別途学習機会を設ける必要があった。

今回電子データとしてクラウドに保管することで、場所や時間の制約がなくなり、操作が苦手な生徒も日数をかけて課題作成をできるようになった。

④視聴報告のオンライン化

視聴報告もオンラインで課題を完成するまで支援することにした。特に支援が必要な生徒は、課題の内容について多くのやり取りが必要となる。Google Classroom 上でやり取りを行い、報告内容に対する助言などを行った。視聴報告は、マイページを通じて提出する。

次年度は、各回のスクーリングに動画を利用して、計画的な視聴代替として、位置付けていきたい。

⑤運動障がいのある生徒の学習支援策

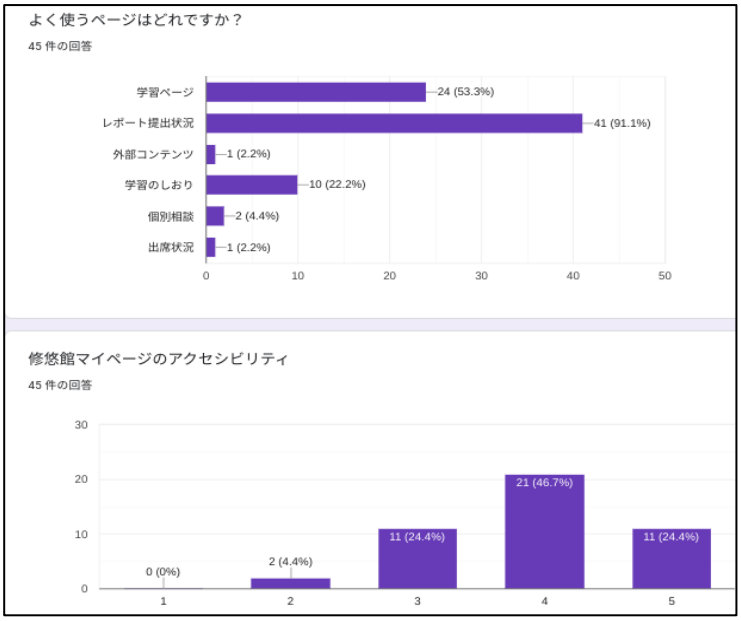
情報科の学習支援が最も重要と感じられたのは、怪我等も含めた事情により、筆記が困難な生徒や手や指が不自由な生徒への対応である。介助者がついて授業に参加するが、筆記用具による記述が難しいため、授業中に紙媒体のレポートへ記入し、仕上げることができない。フォームを用いて、解答をドロップボックスからの選択形式としたり、テキストボックスへのコピー&ペーストにより、文章を作成できるようにするなど、簡易 IT レポートを構築したことで、取組み易さが飛躍的に向上し、レポートの作成時間の短縮にも効果があった。

⑥アナログとデジタルの融合

このように、現状のシステムと Google のシステムを併用しながら運用することで、学習支援の機会を増やすことができたと感じている。自立した学習習慣が身につくまで、動画やチュートリアル型の学習教材に加えて、オンライン支援システムの構築が重要であると考える。

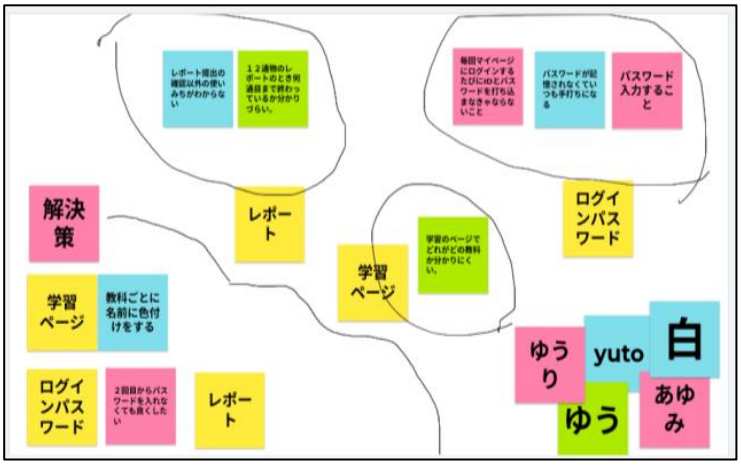
⑦ＩＣＴを利用した学習教材作り

ＩＣＴ機器を使用する事でスクーリングのやり方を改善できた。レポートを作成することを主としたスクーリング内容から、Chromebook を使用することで、思考ツールを使った深い学びを引き出すことや、ホワイトボードを使った対話的な学習ができるようになった。




⑧修悠館マイページのアクセシビリティをチェックからマイページの課題と改善策へ（ＫＪ法）

問題解決の章では、身近な課題を選んでピア・インストラクションにより課題の共有・設定を行い、オンライン上でＫＪ法を活用することで思考を深める事ができた。




⑨レポート提出率の変遷

下の表は年間のレポート提出率である。１回目から約６％ずつ提出率が下がって行く。１～３回目が web site。４～６回目が Google Classroom を利用した変遷である。

通信制高校でも新型コロナウィルス感染症の拡大防止対策による短縮スクーリングもあり、試行錯誤の繰り返しだった。このような状況下で Google Classroom を使用した５～６回目について提出率が大きく下がらなかった事はシステムの利用による支援の効果であったと考える。

生徒のレポート提出率（社会と情報）

平日講座

| 件数 | 非活動 | １回目 | ２回目 | ３回目 | ４回目 | ５回目 | ６回目 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 113 | 8 | 102 | 96 | 91 | 84 | 78 | 77 |
| 提出率 | 7.1% | 97.1% | 91.4% | 86.7% | 80.0% | 74.3% | 73.3% |

日曜講座

| 件数 | 非活動 | １回目 | ２回目 | ３回目 | ４回目 | ５回目 | ６回目 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 33 | 14 | 19 | 16 | 16 | 16 | 15 | 14 |
| 提出率 | 42.4% | 100.0% | 84.2% | 84.2% | 84.2% | 78.9% | 73.7% |

（３）次年度に向けて

年度途中からGoogle Classroomを使用したため、一部Google Classroomに参加していない生徒もいた。そのような生徒が出ないようにするために、年度当初の履修登録時に利用できる環境を整えたい。また計画的な学習を促すために、月毎にレポートの完成・履修（出席）を求めるアラートや、学習の動画の定期的な視聴と、計画的な視聴代替の利用などを考えている。

スクーリングを録画し編集・配信したものは、定型化されていないリアルな内容を配信できるので、連続した課題の取組みに有効活用できると考えられる。このようにして学習を計画的に完了させる事も目指す。

そして、学び合いなど、登校するからこそ可能な対面スクーリングにおける取組みを実現するために、ＩＣＴを活用した学習形態を整えていく。

**横浜修悠館高校　電子図書館開設**

（１）通信制高校と学校図書館

図書館は旧和泉高校から約３万冊の蔵書を引きつぎ、生徒の登校するスクーリング・テスト期間は毎日開館している。生徒は読むことに抵抗感が少ない傾向があり、自学のほか、読書する姿がよく見受けられる。貸出傾向として、読み物・レポート関連以外では、心の問題、障がいの問題、また、いかに生きるべきかという内容の本の利用が多い。義務教育段階から不登校気味で、学力不足、集団に馴染めない、人とコミュニケーションをとることに不安があるなど、本校は困難さを持つ生徒が多い。ゆえに、ひとりで悩んだり考えることが多くなるが、他者と話したり意見交換をする場を必要としているのは他校の高校生と変わりはなく、生徒の成長に資する活動も通信制高校図書館の役割の一つではないかと思われる。

（２）電子図書館開設のきっかけ

令和２年のコロナ禍において他校と同様に休校措置が取られ、その後も変則的な時程で運営された。多様な特性を持つ生徒が多く在籍する本校は他校に比べて感染防止にかなり配慮した。通常のスクーリングの内容の維持に努めながらも対面での活動が大幅に制限される状況になり、学ぶ意欲のある生徒にとって不満足なものだったのかもしれない。さらなる学びの機会の保証を考えたい、そのためにできることを模索したのが、電子図書館開設のきっかけだった。

（３）電子図書館開設の経緯

①情報収集・計画立案を本格実施

| 月日 | 内容 |
|---|---|
| 令和３年２月～ | ・図書館の管轄グループ（生徒活動支援グループ）と次期文科研究事業担当（予定）に主旨説明<br>・県内導入校（神奈川県立大船高校）より情報提供<br>・「Over Drive」（メディアドゥ）に資料・見積書請求 |
| ３月 10 日（水） | ・「Over Drive」（メディアドゥ）リモート説明会参加。次期文科研究事業担当（予定）同席。 |

②令和３年度開設に向けて

| 月日 | 内容 |
|---|---|
| | ・「Over Drive」（メディアドゥ）とのやり取り、状況整理<br>・関係者間の打ち合わせ、校内での意見収集 |
| ７月 20 日（火） | ・企画会議の議題にあげる→ペンディング<br>問題点<br>生徒の個人情報保護、ID/パスワード管理の煩雑さ、費用対効果、仕事の分担 |
| ８月３日（火） | ・県内導入校（神奈川県立藤沢清流高校）電子図書館見学 |
| ８月９日（月） | ・生徒活動支援グループ会議で以下を決定。<br>・生徒活動支援グループが主体となり担当。<br>・管理運営は、司書と図書係（通常の図書館運営に同じ）。 |

| | |
|---|---|
| | ・コンテンツ購入はリアル本と同様に司書が選書<br>→グループ回覧、問題のある時は話し合って決める<br>・その他電子図書館に関する実務は司書が担当。進捗状況や問題などはグループで話し合う。<br>・コンテンツ代が高価ゆえ費用対効果については納得いかないものの、やってみる。<br>・電子図書館を始めるにあたって保護者・生徒に周知する。<br>→修悠館通信同封物（図書館通信）<br>・メール登録は「ライデンメール」登録を参考に文書を配付する。<br>・費用は教育振興費から支出可能 |
| ８月 18 日（水） | ・「LibrariE」（紀伊国屋書店）が「Over Drive」（メディアドゥ）と金額的に変わらないことがわかり、検討することになる。<br>・県内導入校（私立向上高校）より情報提供 |
| ８月 23 日（月） | ・企画会議にて電子図書館開設に向けての状況を説明<br>費用対効果・予算・他校の利用状況・どんなイメージが成功と思っているか？など意見質問を持ち帰る。 |
| ８月 25 日（水） | ・「LibrariE」（紀伊国屋書店）リモート説明会参加。校長、生徒活動支援グループ図書係、文科研究事業校内担当同席 |
| ９月８日（水） | ・生徒活動支援グループ会議<br>業者を「LibrariE」（紀伊国屋書店）に決定。<br>選定理由<br>・画面の見やすさ、操作性の高さ（利用者・管理者）、コンテンツの新しさ豊富さ。<br>・月利用料がなく、コンテンツ代のみの支出のため予算に応じて持続可能。<br>・予約連絡のメールはなし。メール登録もなし。<br>・業者の対応が丁寧で、今後の進化が期待できる。 |
| 10 月５日（火） | ・企画会議にて開設決定 |
| 10 月 19 日（火） | ・職員会議にて開設報告、決定 |
| 11 月１日（月）～<br>14 日（日） | ・職員向け「LibrariE」トライアル実施 |
| 11 月 22 日（月） | ・「LibrariE」利用申し込み。開始予定日決定（令和４年１月４日（火））。 |
| 12 月３日（金） | ・「LibrariE」初期設定完了メールをもらい、開設準備スタート。 |
| 12 月５日（日） | ・非常勤学校司書（毎週日曜出勤）と以下の内容を相談。<br>・マニュアルを DL、読み込み作成物・ルール作り、起案。<br>・ホーム画面作成、お知らせ作成。<br>・利用規則決定。<br>・ID/パスワードを生徒証番号に決定。<br>・「LibrariE」使い方ガイド作成。<br>・NEW 利用者登録用紙作成と生徒登録。 |

| | |
|---|---|
| | ・リアル図書館登録者を全員電子図書館に登録。新規登録受付開始。<br>・コンテンツ購入　選書→グループ回覧→購入へ。 |
| 12 月 20 日（月） | ・コンテンツ購入のため、補正予算にエントリーする。<br>・図書館通信 67・68（同封物）にてお知らせ。<br>・校内インフォメーション作成お知らせ。 |

③導入

| 月日 | 内容 |
|---|---|
| 令和４年１月４日（火） | ・電子図書館開設<br>・教職員 ID/パスワードを配付。<br>・学校 HP に掲載。<br>・電子コンテンツ購入。 |

（４）利用状況・今後の課題など

利用開始時期が、生徒のレポート提出締切、期末試験に重なったこともあり、利用登録者が伸び悩んでいる。しかし、少ない登録数でありながら、アクセス数はじわじわ増えているので、一定数の需要はあると思われる。ただ、予算の関係でコンテンツ数が少ないので、一度に利用者が増えるとコンテンツ不足になるだろう。毎年一定数のコンテンツを確保して利用促進に努めることが大切である。

次年度以降は、テーマを決めてのコンテンツ紹介をする特集を作成し、リアル図書館と連携を図るなどの工夫をして読書の幅を広げたい。

**教員研修　Google（Chromebook）の利活用**

（１）研修のねらい

GIGA スクール構想が年次更新で進んでくる中、次年度から本格的に個別に端末を利用して学習してきた生徒が入学してくる。この新しい変化に対して複数の教員から研修の要望が上がり、Chromebook を使ったＩＣＴ活用研修を行うことになった。これまでChromebook やGoogle アプリケーションについては、校内で利用する機会が少なかったため、基本的な仕組みから実際に運用できる事を目標に、合計７回の研修会を計画した。教員が主体となり、研修内容を精査して協働学習を多く取り入れた。また、研修中は機器の操作やアプリケーションの使い方だけでなく、何のためにどんな使い方ができるのかについて考察を共有する時間を設け、自分自身のスクーリングや業務に対して応用ができることを目指した。前半はGoogle のアプリケーションを主に思考ツールなどＩＣＴの教育的な利用について、基本的な考え方・使い方について研修し、後半は次年度以降スクーリングで使えるように実践的なことを学ぶ研修とした。

テーマは次の通りである。

前半（60 分/回）
第１回　まずはやってみよう（Google？Chromebook？クラウドって今とどう違うの？）
第２回　学習資源の効果的な使い方（見せる教材から使う教材へ）
第３回　協働的な学び　まずは先生から（ＩＣＴを使った授業作り）
第４回　個別最適な学習　自分のペースで学ぶために（フィードバック型の教材への変換）
後半（90 分/回）
第５回　Classroom の設定と生徒のコンテンツの運用（表示・配付・回収など）
第６回　レポートと Classroom をリンクさせたクラウド型年間学習コンテンツへの転換
第７回　自分の授業を作ってみよう

（２）各回の目標と内容及び教員の反応

**第１回　まずはやってみよう（Google？Chromebook？クラウドって今とどう違うの？）　25 名参加**

目標

新しい電子教具について、これまでとどう違うのかを比べながらその可能性を考察し、実際に教具を使うことで、わくわくするような時間を作れることを体験する。

内容

・クラウドコンピューティングやGoogle と Chrome book についての基本事項
　Google システムの共有機能と Chromebook の安全性、管理のしやすさについて
　Google の教育利用アプリケーションおよび Google Workspace について
・基本的なアプリケーション機能の体験と感想の共有。ファイルの共有・情報の比較などを体験した。

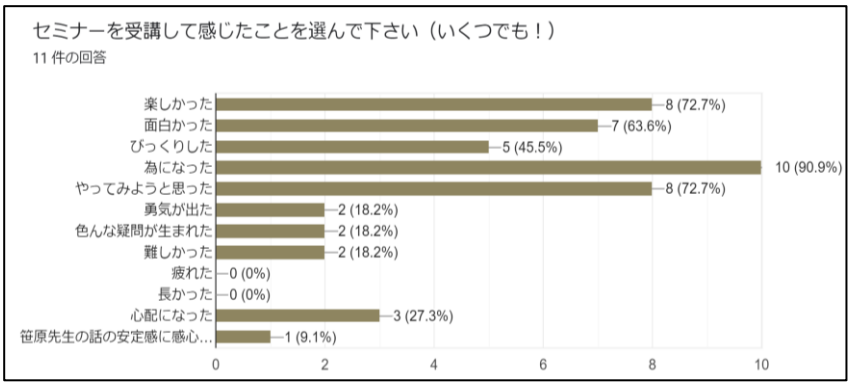
教員の反応

研修は参加者の積極的な取組みによって、充実したものとなった。コメントには「早速 Google keep をスマホに入れてみました」や「新しいアプリを探してみる」など、実践につながる回答が多かった。また次のコメントでは、今後の学校教育のあり方を知ることができる。

アンケートより

**「全体的に楽しかったです。雰囲気もすごくよかった。たぶん、今後、情報の共有や、協働的な学びができるかどうかは、リアルな対面スクーリングの雰囲気があの時間のように和やかであることが大事なのではないかと思いました。」**

ＩＣＴとは、ＩＴをコミュニケーションとして使う事で学習に最大のパフォーマンスを発揮する事ができる。素敵なフィードバックを全体に共有したい。




**第２回　学習資源の効果的な使い方（見せる教材から使う教材へ）　30 名参加**

目標

アプリケーションの共有化について、電子デバイスの利用方法と Google アプリの操作を体験し、その効果について考察し全体で共有する。

内容

Chromecast を使って、教員や生徒役の Chromebook の画面の転送・共有を体験した。また、事例スライドを参考にしてどんなスクーリングができるか話し合った。

Google スライドを共有しながら、ＳＤＧｓについてカードを作成し、協働作業の有効性について考察した。

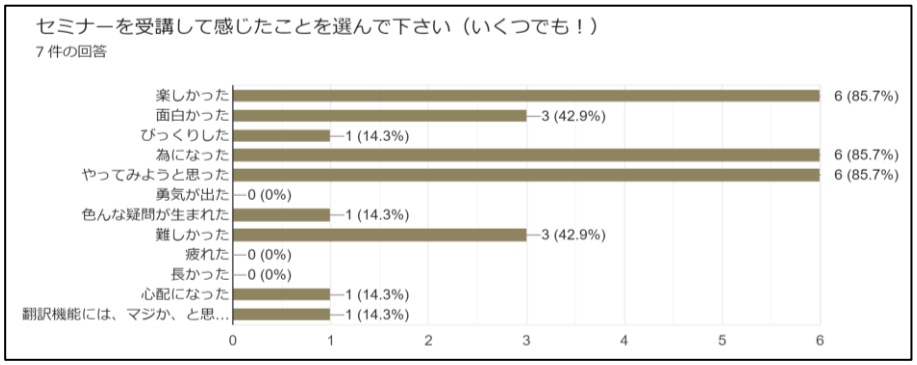
教員の反応

セミナー中のシェアタイムでは、１回目よりも積極的に話し合いが行われていた。Google スライドを共有しながらＳＤＧｓについてカードを作成した実習では、協働作業を通して、デザインや内容もコメント機能を有効活用しながら進めていた。また、Google の標準的な使い方を組み合わせることで、更に効果的な利用が可能となる事に感心する意見が多くあった。

アンケートより

**「セミナーで得たことは実践しないと身につかないと常々感じています。まずは自ら操作して今度はスクーリングで実践してみる。生徒の反応を見ながら難易度を調整していく。できることから積極的に取組んでスクーリングを進化させていきたいと思います。」**

ＩＣＴを使うことは、自分自身の教育活動に対してもリフレクションを起こす事ができる。新しい考え方や教え方を創造することを期待したい。



## 第３回　協働的な学び　まずは先生から（ＩＣＴを使った授業作り）　31 名参加

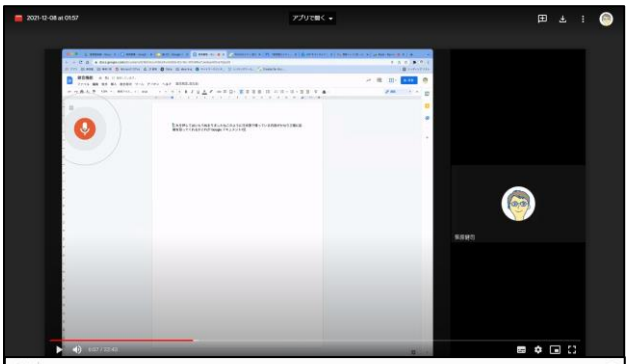
目標

クラウドアプリケーションを「深い学び」に利用するための使い方と体験。ジャムボードを使って課題解決型学習の実践と効果について考察を共有する。

内容

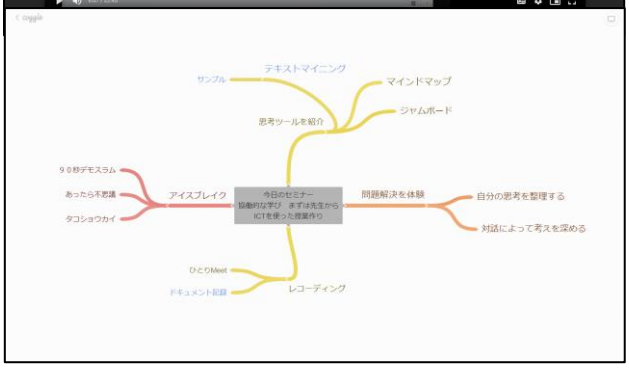
・Google Meet を使ったスクーリング動画作成

　これまで行ってきた研修を Google Meet を使って録画し、オンデマンドの動画を作成。アプリの録画機能を使うことで、簡単に動画を作成できる。オンデマンド動画は、効果的な学習教材となる。



・マインドマップを学習記録として利用する方法

　思考を可視化するツール。マインドマップを学習の記録に使ってみた。キーワードを記入し、自分の思考を見える化する事ができる。教科書をまとめたりすることにも有効である。また、このマップは共有可能なため、グループのアイディアもマップに整理することが可能である。実際に年度当初にマップを使った授業を行うと、それ以降のグループワークでノートの代わりに使ったり、意見集約に使われることが多い。

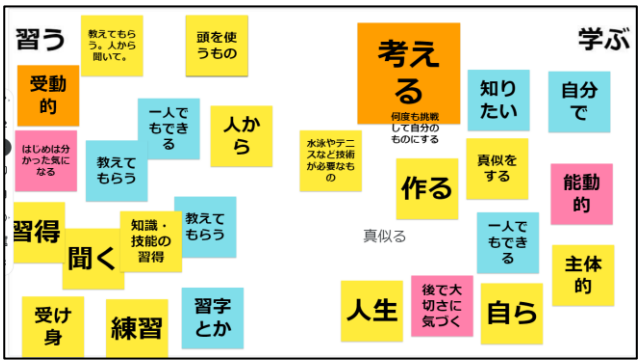



・ジャムボードを使った情報共有とＫＪ法

　ＫＪ法を使って自分達の日常課題にアプローチする。問題や課題そして改善策を協働作業で取組む事ができる。ＩＣＴの前は付箋を使って行ってきたが、クラウド空間で行えるため、校外からもファシリテート可能。

・高校生に必要な能力とは

　ジャムボードを使って、これからの高校生にとって必要な学習について考えてみた。現在の高校生が生きていく 10 年後の社会は、既存の仕事の半分が新しいものに変わると予想されている。予測不可能な時代に育てたい力は、新しく創り出す力、学び続ける力など、これまでの学習に加えて、発想やアイディアを生み出す創造力を養う学習について考えていく。この課題は、後半で継続して扱う。



教員の反応

新しいツールを多く扱ったため、未消化のツールもあったかもしれない。また、時間的に研修の振り返りまで到達できた教員が少なかった。しかし、実際のスクーリングで「思考ツールを使って年間の振り返りを行いたい」といった意見など、積極的な意見もあった。特にこれからの教育のあり方については、一瞬で多くの教員の意見がジャムボードに集まり関心の高さを感じた。

**第４回　個別最適な学習　自分のペースで学ぶために（フィードバック型の教材への変換）　28 名参加**

目標

個々の学習を電子的に記録する電子ポートフォリオ（Google Classroom）を使った学習の課題と進捗管理について体験する。また、配信する学習コンテンツ（主にフォーム教材）の作り方と効果について、アクティブラーニングの手法と併せて体験する。

内容

研修に使用している Classroom を参考にして、システムの作り方や有効な使い方を、教員自身が先生役・生徒役になって体験した。

Classroom で配信する学習フォームを作成した。また、フォームを使った動的な教材の効果について考察した。

教員の反応

教師役・生徒役を入れ替えながら、終始にぎやかに活動した。実際に利用する頻度が高いツールだけに、教員の関心は高かった。

フォームについては、アンケートなどで日常的に利用している事もあり、どのように思考を引き出すか。そのために「どのような問い」を立てるかに関心が集まった。

アンケートより

**「生徒と教師、生徒同士の「対話」を通信制でももっとできると思った。来年度はもっと Google Classroom や思考ツールを活用しながら生徒の学びを広げ、深めていきたい」**

長く通信教育に携わっている教員の「思い」を感じた。

（３）最後に

研修用の Classroom を何度も繰り返し利用している教員がいる。単に紙の教材をデータにするだけでなく、デジタルだからこそ可能な学習が創造できると感じた。

次年度に向けて、修悠館独自の修悠館マイページとシームレスに接続し、学校全体がスムーズに、積極的にＩＣＴを使える環境を整えることと、通信制の強みを活かした教育を実現するために教員研修を継続する。

## ２班　横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及

### １　全体概要

横浜修悠館高校がこれまで 14 年かけて構築してきた個別最適な学びを実現するための、外部の教育的人材を活用した協働的な学びの仕組み「学びのコミュニティ」について、事業１年目である本年度は、成果の検証方法の検討に注力した。

「学びのコミュニティ」プログラム
【トライ教室】小中学校の学びなおし　補習教室
【架け橋教室】外国につながりのある生徒の学習相談・生活支援
【キャリア・ポート（自校通級・他校通級）】高校通級指導
【キャリア活動Ｃ】進路体験活動

自由参加である「トライ教室」「架け橋教室」では、参加した生徒を対象にアンケートを実施し、参加したきっかけや、成果について聞き取った。また、対象となる生徒が多い「トライ教室」では、参加していない生徒を対象としたアンケートを実施し、普及に向けた改善点を検討した。

通年の講座である「キャリア・ポート」「キャリア活動Ｃ」では、各講座で使用しているワークシート内の振り返りの感想から、生徒の変容や学習成果を見取ることにした。

これらの成果の検証から、より効果的な運営方法や活動内容の検討を行い、次年度の研究で実践していくことにした。

## ２　各研究の成果と課題

### トライ教室

（１）プログラムの概要

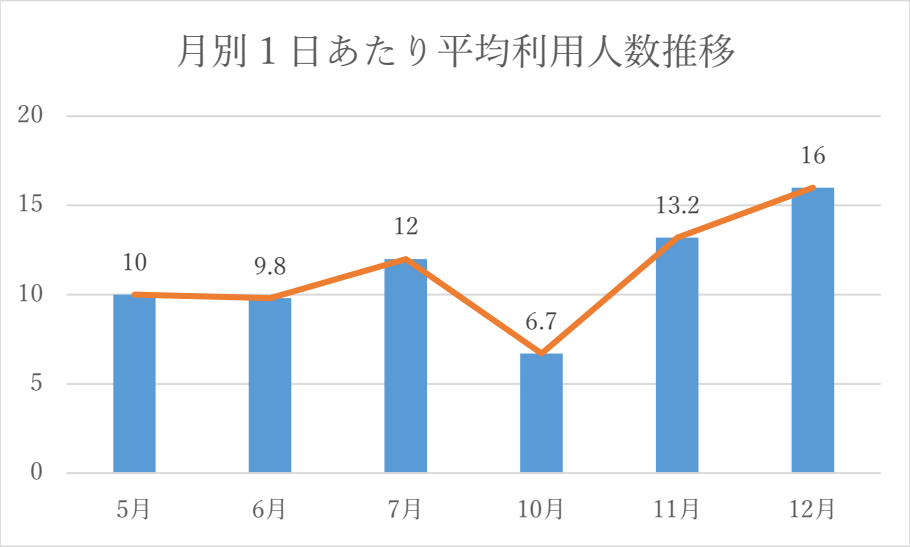
トライ教室とは、動画コンテンツやスクーリングだけでは思うように学習を進めることが難しい生徒を対象にレポートの完成、または中学校までの学習の学びなおしを目的とした本校独自の支援体制である。トライ教室はスクーリングがある週の月、水、木の週３回それぞれ５限から６限の２時間開講されている。学習支援には本校職員に加え、ＹＳＫ（横浜修悠館）サポーターと呼ばれる教員経験者を中心とするボランティアが携わっている。

【マンツーマンでレポート完成をサポート】

【落ち着いて取組めるよう環境整備】

（２）今年度の取組み

今年度の実施日は５月から７月の前期が 18 日、９月から 12 月の後期も 18 日の合計 36 日開講した。（９月は「緊急事態宣言」下にあり、生徒の安全・安心を確保するため、感染防止対策を強化・徹底しながら教育活動を行ったため、開講せず）参加生徒は合計 120 名、延べ 427 人で月別の平均利用人数は以下の図の通りである。

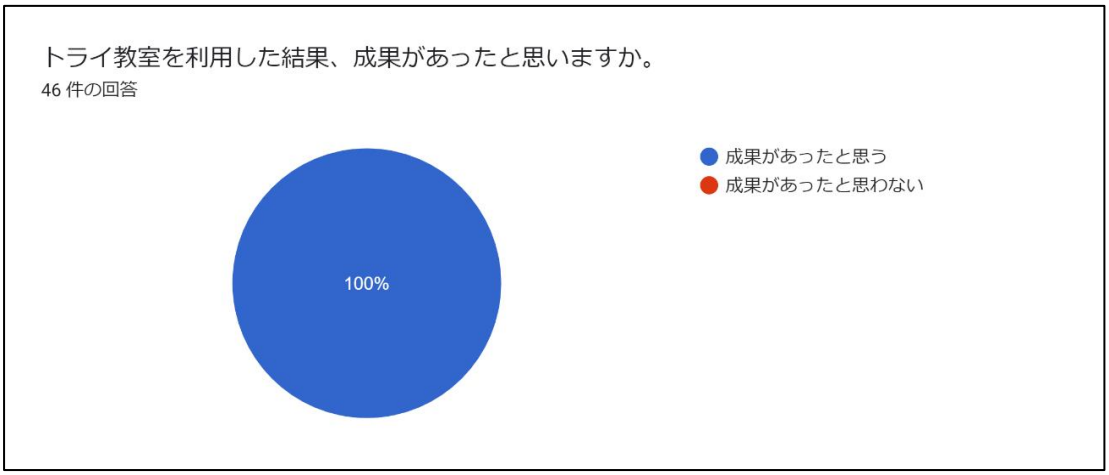



７月が中間試験を受験するためのレポート合格締切り月、１月の初めが期末試験を受験するためのレポート合格の締切りとなっているため利用人数も多く推移している。

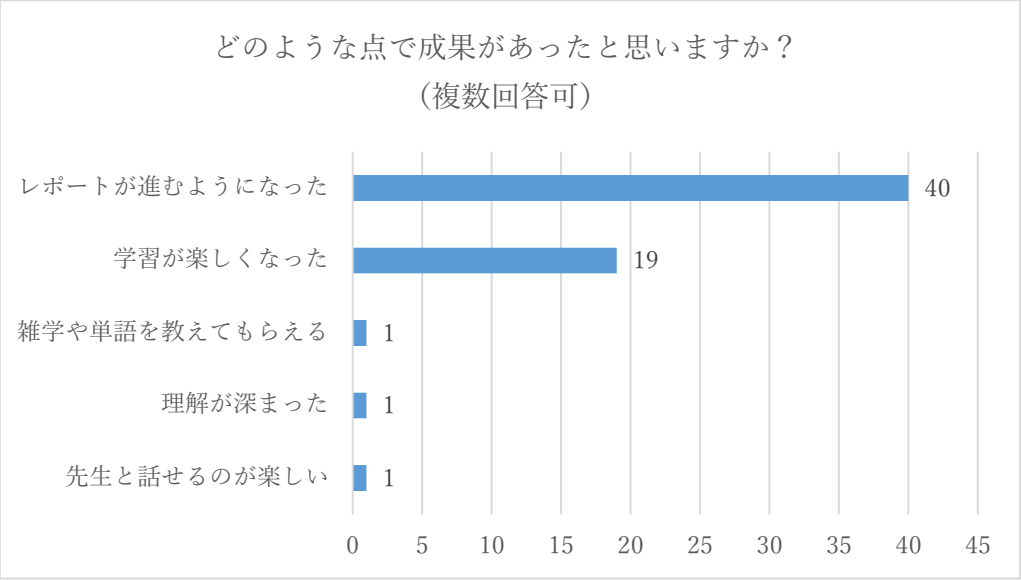
（３）成果

12 月上旬に、ＳＨＲに参加した生徒を対象にトライ教室に関するアンケートを行った。アンケートは Google フォームへの入力もしくはアンケート用紙に記入させ、トライ教室に参加したことのある生徒と参加したことのない生徒を分けた形で集計した。

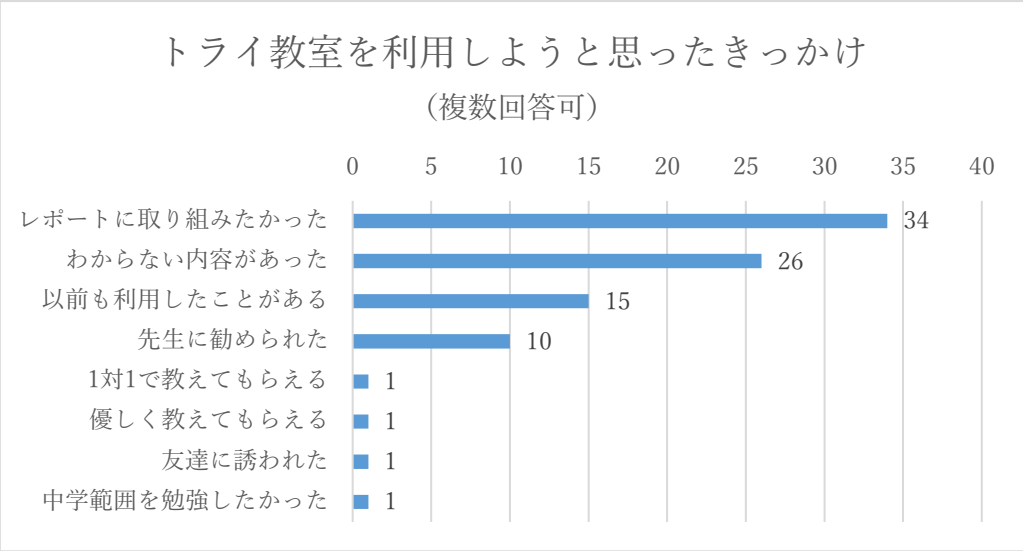
## Ⅰトライ教室に参加したことがあると回答した生徒について（回答者数 46 名）




トライ教室に参加している生徒の中にはＳＨＲやスクーリングに参加しづらい生徒もいるため、アンケートの回答数は 46 人にとどまった。その中でトライ教室に参加したことで成果が上がったとの回答が 100％ということで、トライ教室の役割は果たせていると見て取れる。

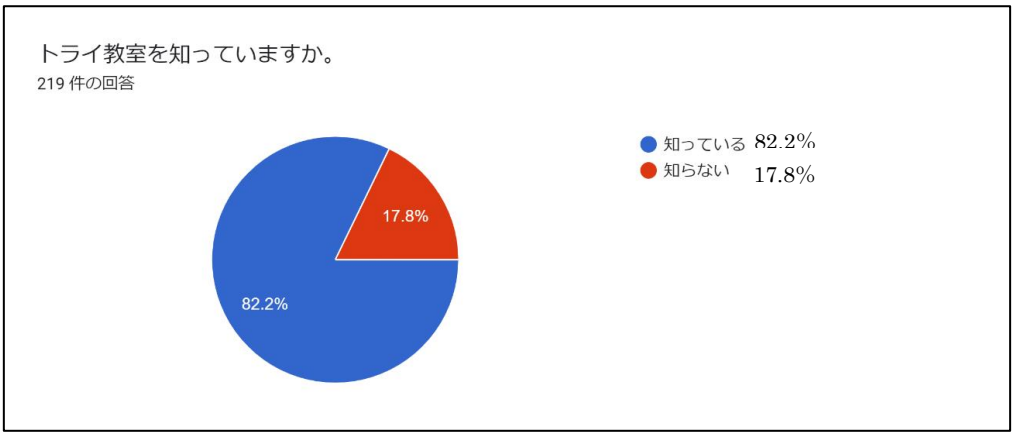



トライ教室を利用した成果として、レポートの進捗はもちろん学習に対する意欲が高まっているのもアンケートから伺うことができる。

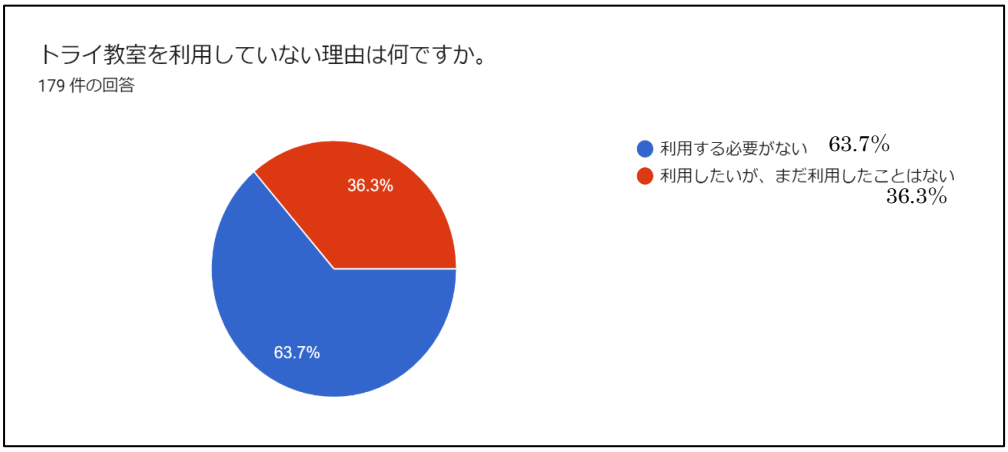



トライ教室を利用したきっかけについては能動的な要素が多数を占めている。昨年度利用した生徒が今年度も続けて利用していることも伺える。対して、先生に勧められた等の受動的な形でのきっかけは全体から見て低い割合となっている。本校ではトライ教室の他にレポート完成講座でレポート完成をサポートしているが、マンツーマンでの対応を希望したり、特定のＹＳＫサポーター（退職教員なので祖父母のような対応ができる）に教えてもらいたくてトライ教室の方を利用している生徒もいる。

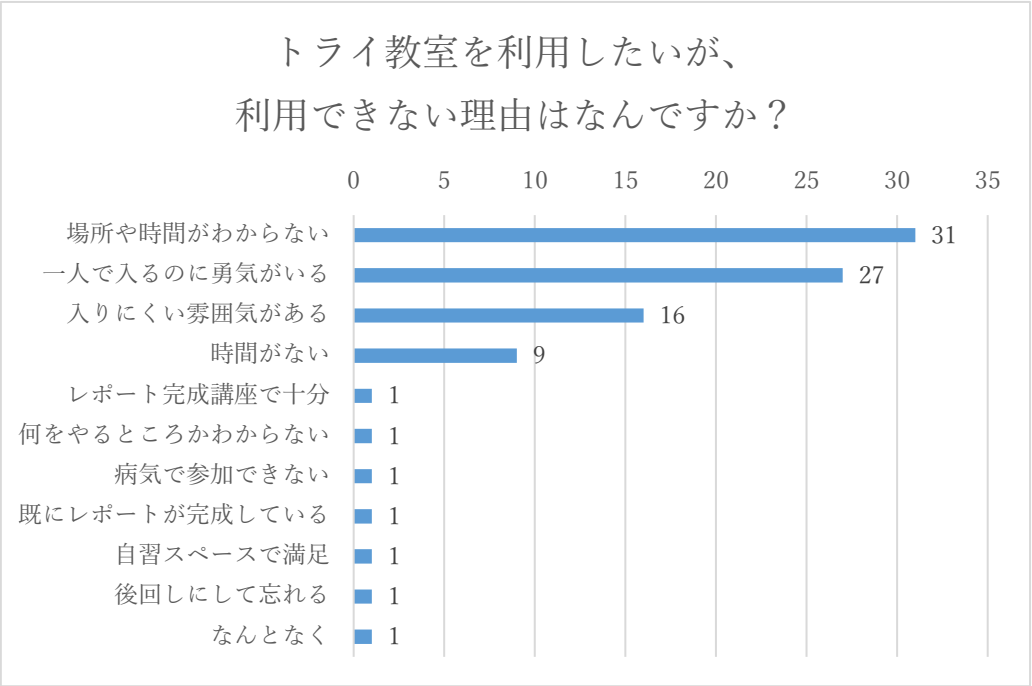
## Ⅱ　トライ教室に参加したことがないと回答した生徒について（回答者数 219 名）




トライ教室に参加したことのない生徒でも、トライ教室の認知度は高い割合にある。



アンケート対象がＳＨＲに出席した生徒ということで、日常的にスクーリングを受けることが出来ている生徒が回答者に多く、レポートが順調に進んでいる割合が高いこともあり、利用する必要がないという回答が多くなったと考えられる。




トライ教室が開かれている場所、時間がわからないという生徒が多く見受けられた。また、一人で入るのに勇気がいる、入りづらいという生徒も多くの割合を占めており、そういった事情を抱える生徒へのアプローチとして、時間前の放送でのアナウンスで対応することや、教室前での誘導も必要である。

（４）次年度に向けて

令和４年度へ向けた研究課題として、ＳＨＲへ参加できていない、スクーリングに十分に参加できていない生徒への調査が必要と考える。その中で、レポート完成がうまくいかず、トライ教室を必要とする生徒へのアプローチをどのように行っていくかを検討していく。また、今年度トライ教室を前期の１度のみ利用してその後利用しなかった生徒も多く見受けられた。そのような生徒が、トライ教室を利用しなくても良くなったのか、利用したいが利用できなくなったのか、探っていく。

また、運営での課題としてＹＳＫサポーターの確保の問題がある。今年度は６名のサポーターの方に登録していただいたが、コロナの影響もあり後期に学校へ来られなくなる方もいた。レポート締め切りに近い繁忙期になると、特定の教科で教員の負担も大きくなったりもするのでＹＳＫサポーターの安定的な確保は生徒の学習支援の面で大事な要素と考える。

昨年度から今年度にかけてコロナの影響で学習がうまく進まない生徒もいる中、トライ教室は大きな役目を担っている。生徒が利用しやすく、継続的に実践できるトライ教室の在り方を来年度に向けて考え、生徒の学習支援につなげていく。

**架け橋教室**

（1）プログラムの概要

架け橋教室とは、外国につながりを持つ生徒の学習支援、および居場所づくりを目的とした支援体制である。外国につながりを持つ生徒は、学習言語としての日本語が十分に身についていないため、学習が滞ることが多い。また、将来への展望が描けない、友人関係をうまく築けないなどの不安から、いつの間にか高校から足が遠のくことも少なくない。架け橋教室では、そうした生徒に対し、教員や学習支援員の個別指導を通じて組織的に学習支援を行っている。学習支援員は主に教員経験者で、この教室の副次的な効果として生徒同士の関わり合いが深まり、おだやかな人間関係を築く学びのコミュニティともなっている。

（2）今年度の取組み

架け橋教室では平日の 11:00～14:00 に校内の一教室を使って学習支援を行っている。（スクーリングのない期間も不定期で継続的に開設。）令和３年度、本校に在籍する外国につながる生徒は約 124 人で、そのうち利用実績のあった生徒数は 26 名、利用率は 20.9%である。令和３年度の各月の総利用件数は以下の表の通りである。架け橋教室では主に、「日本語」の学習、教員や多文化教育コーディネーターを含む複数の学習支援員による学習補助、学校生活全般の相談等を行っている。また、昨年度および今年度はコロナ禍の状況を受けて学習支援員によるオンラインでのレポート補習講座も実施した。

【活動の様子】

【オンラインによる学習支援】

（3）成果

今年度の利用件数推移は以下の通りである。今年度、架け橋教室に利用実績のあった生徒に対して、利用に至ったきっかけと、利用してみて成果があったかについてアンケートした。また、利用実績のあった生徒の今年度の単位修得率の分布についても、記載する。なお、アンケートの回答を得られたのは利用実績のあった 26 名のうち、18 名であった。

≪令和３年度利用件数推移(網掛けの月はスクーリングのある月)≫

| ４月 | ５月 | ６月 | ７月 | ８月 | ９月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | １月 | ２月 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 74 | 87 | 75 | 5 | 15 | 29 | 43 | 37 | 4 | 4 | 利用人数 |
| 1 | 8 | 14 | 14 | 1 | 4 | 8 | 12 | 10 | 3 | 2 | 実施日数 |

≪架け橋教室を利用しようと思ったきっかけ(複数選択可)≫

| 回答内容 | | 件数 |
|---|---|---|
| 先生に勧められたから | | 10 |
| レポートに取組みたかったから | | 5 |
| 学習でわからないことがあったから | | 3 |
| 以前も利用したことがあったから | | 3 |
| 自由記述 | ラウンジに人が多かったから | 1 |
| | 友達がいたから | 1 |
| | 進学について質問したかったから。 | 1 |
| | 友達の勧めがあったから。 | 1 |

≪成果の実感とその理由(複数選択可)≫

| 成果の実感 | 回答内容 | | 件数 |
|---|---|---|---|
| あった | レポートがすすむようになった。 | | 12 |
| | 学習が楽しくなった。 | | 5 |
| | 自由記述 | 漢字を前よりも書けるようになった。 | 1 |
| | | 学校に来る回数が増えた。 | 1 |
| | | 復習ができた。 | 1 |
| | | 進学の方向性を定められた | 1 |
| なかった | レポートをするために行ったわけではない。 | | 1 |

≪個人の利用回数と単位修得率の分布≫

| 個人の利用回数 | | 1回～10回 | 11回～20回 | 21回～30回 | 31回～43回 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単位修得率 | すべて修得 | ５名 | ３名 | ５名 | ３名 |
| | ７割程度修得 | １名 | ０名 | ０名 | ０名 |
| | ３割程度修得 | １名 | １名 | １名 | ０名 |
| | まったく修得できず | ６名 | ０名 | ０名 | ０名 |

≪個人の利用回数と単位修得率の分布≫から、利用回数が少なくても単位修得に至っている生徒もいるが、架け橋教室への参加回数が多い生徒はほぼ単位修得につながっている傾向にある。架け橋教室は参加しなければいけないものではないので、参加回数の多い生徒は主体的な利用の結果としてある程度単位修得に結びついていると言える。

次に≪架け橋教室を利用しようと思ったきっかけ(複数選択可)≫を見ると、利用に至るきっかけの多くが「職員からの声かけ」と「レポートに取組みたかったから」であり、担任などが架け橋教室の紹介といったきっかけをつくらないと利用に至らないという実態がある。したがって８組以外の生徒(※本校では“８組”に外国につながりを持つ生徒をある程度集約している)のうち、外国につながる生徒の中から、架け橋教室の利用が適する生徒の目安を定めていくことも普及につながると考えられる。

≪成果の実感とその理由(複数選択可)≫についても「あった」とする生徒が大半であり、この点も単位

修得率の分布と併せて学習成果につながっているといえる。できるようになった実感は、「学習が楽しくなった」や「学校に来る回数が増えた」という意欲につながっている。

つづいて、各アンケートの自由記述をみると、友人がいたり、進路相談をしたりといったことを目的とした利用もみられ、そもそも「レポートをするために行ったわけではない」としている回答があったことも興味深い。(この回答をした生徒は今年度の単位をすべて修得できている)このように、自由記述から通信制の自学自習を中心とする仕組みの中でも、同じような背景をもつ生徒同士や架け橋教室担当職員との関わりが登校へのモチベーションにもつながっている。通信制課程のように、生徒同士の関わり合いが少ない中で、外国につながりをもつ生徒同士が悩みなどを共有しながら人間関係を構築する場は、継続的な学習においても重要な役割を持っているといえる。

（4）次年度に向けて

次年度に向けた研究課題として、外国につながりを持つ生徒同士のように、同じような背景を持つ生徒同士が一緒の場にいることで①「どのような安心感をもつのか」、また、②「そうした場に生徒たちが具体的にどのような支援を求めているのか」、といった実態を明確化して、職員と共有していく。年度によって利用者数にはかなりバラつきがあり、生徒のもつ背景の多様性も年々増えているという実態もある。とくに、外国につながりがあっても、③「そうした場所の利用を望まない生徒」も一定数いて、彼らのニーズはどのようなものかも重要である。主にこれら①②③について、次年度以降検討を進めていく。

また、本校の多文化教育コーディネーターや学習支援員が架け橋教室を通じた支援にあたる中で感じている課題として、架け橋教室への参加を習慣化することの難しさ、また、複数の年代の外国へつながる生徒が混ざり合う中で、年代の枠を超えた交流の度合いが、年度によってばらつきがある点等を挙げている。次年度以降、生徒たちのレポート学習の状況に応じて、レポート完成講座やトライ教室といった、本校の支援の仕組みと連携することで、利用を希望する生徒の学習習慣の定着につなげていく。

**キャリア・ポート**

（1）プログラムの概要

キャリア・ポートは、横浜修悠館高校における通級による指導の講座の名称である。この名称は、生徒にとってこの講座が、自立した生活を送るための準備をし、将来に向けて旅立つ場所になって欲しいという本校教員の願いから決められた。

講座の内容は、通級による指導の目的である、生徒個々の実態に応じ学習や生活上の困難を克服することを目指した活動を行っているが、本校では特に、以下の３点を重視している。

・生徒が安心できる環境を整え、安心して過ごせる居場所となること。
・小集団でのチーム・ティーチングを行い、コミュニケーション力を養うこと。
・将来の自立と社会参加を目標に、「働くこと」をテーマにした活動を行うこと。

これらの活動を、月曜日の１校時と木曜日の４校時は自校の生徒のみで活動しており（自校通級）、日曜日は隔週で４・５校時に自校の生徒（自校通級）と他校の生徒（他校通級）が合同で活動している。各時間において、生徒個々の実態に応じて４～７人の小集団に分けて活動を行い、各小集団に２～５名の教員が指導を行っている。

毎年４月には通級担当教員のスタートアップ研修が開催される。社会とつながることを目指しているため、校内職業インタビュー、卒業年次生に対しては、タスク管理や職業準備性ピラミッドの話を座学で取り入れている。

【４月　キャリア・ポート教員担当研修会】

【７月　職業インタビュー】

【11 月　タスク管理】

【11 月　職業準備性ピラミッド】

対象生徒：月曜１限出席により生活リズムを整え、計画的に学校生活を送ることを目標とする生徒

（２）今年度の取組み

通級による指導（キャリア・ポート）月曜１限

| 回 | 日付 | 単元 | 内容 | ポイント | |
|---|---|---|---|---|---|
| ★ | ４月 | 個人面談 | 通級指導を始めるにあたって | 生徒の興味関心、体験希望の有無等 | |
| 1 | ５/10（月） | キャリア・ポート① | オリエンテーション | 居場所作り、見通し、生徒の様子観察 | 健・人・心 |
| 2 | ５/17（月） | キャリア・ポート② | オンライン・ミーティング | 機器の操作、指示理解、講座の仲間 | 心・人・コ |
| ★ | ５/18（月） | 校内作業（農作業） | ジャガイモ収穫、トマト苗植え | 作業手順、道具の使用、他者との協力 | 環・身・コ |
| 3 | ５/24（月） | いろいろな仕事Ⅱ① | 校外学習事前学習 | 交通経路、集合、当日の確認、作業内容理解、得意・不得意 | 人・環・コ |
| ★ | 5/31（月） | 校外学習 | 就労継続支援B型事業所見学と作業体験（受注軽作業） | 部品組立、指示理解、正確、集中力 | 人・環・身 |
| 4 | ６/７（月） | いろいろな仕事Ⅱ② | 校外学習事後学習<br>体験振り返り、ＰＣ入力 | 機器の操作、パワーポイント、達成感 | 心・人・コ |
| 5 | ６/14（月） | 職場のルールとマナー① | 職場と学校の違い、身だしなみ | ワーク・チャレンジ・プログラム | 心・人・コ |
| 6 | ６/21（月） | 職場のルールとマナー② | 従業員心得（ビデオ）視聴 | スーパーマーケットでの勤務、心構え | コ・人・環 |
| 7 | ７/５（月） | 職場のルールとマナー③ | 職場で大切なこと | あいさつ、ほうれんそう、５Ｓ | 心・人・コ |
| 8 | ７/12（月） | 夏の計画 | スケージュール管理 | 優先順位、折り合い、見通し<br>発言（場の状況、相手の立場） | 健・人・コ |
| 9 | ７/19（月） | 前期のまとめ | 振り返り | 発言、達成感、自己理解 | 心・人・コ |
| ★ | 7/28（木） | 職場・施設見学 | 製造工程見学と職業講話<br>就労継続支援B型事業所見学 | オンラインによる参加 | 心・人・身 |
| × | 8/25（水） | 社会体験（中止） | 企業博物館見学と工作 | 創作活動、公共施設、交通機関の利用、余暇・生涯学習、 | 心・コ・身 |
| 10 | 9/27（月） | 夏の振り返り | 体験（インターンシップ等）発表 | 発言、聞き方、後期の見通しと生活リズム | 健・人・心 |
| 11 | 10/4（月） | 文化祭発表① | テーマに沿って考え、発表する | 今日の一言、人前で話す、聞く | 心・人・コ |
| 12 | 10/11（月） | 文化祭発表② | オンライン文化祭用ビデオ撮り | 様々な場面での伝え方、聞き方 | 心・人・コ |
| 13 | 10/25（月） | 文化祭発表③ | オンライン文化祭視聴 | 振り返り、自己理解、他者理解 | 心・人・コ |
| 14 | 11/1（月） | 進路・就労を考える① | 会社・施設見学事前学習 | 会社の概要、交通経路、集合の確認、身だしなみ、見学のポイント・諸注意 | コ・環・身 |
| ★ | 11/5（金） | 進路・就労を考える★ | 企業見学と職業講話<br>就労移行支援事業所見学 | 実際の職場を見る、社員の方の話 | 人・身・コ |
| 15 | 11/8（月） | 進路・就労を考える② | 校外学習（企業見学）事後学習 | 特例子会社、支援制度、感想、発表 | コ・環・身 |
| 16 | 11/22（月） | 進路・就労を考える③ | 校外学習（企業見学）まとめ | 発表用資料作成（パワーポイント） | 心・人・コ |
| ★ | 11/25（木） | 校内作業（農作業） | さつまいも収穫 | 作業手順、道具の使用、他者と協力 | 人・身・コ |
| 17 | 11/29（月） | 進路・就労を考える④ | リフレーミング | 長所と短所、見方を変える | 心・人・コ |
| 18 | 12/6（月） | 私とキャリア・ポート | 年間振り返り、発表会準備 | できたこと、わかったこと、自己理解 | 心・人・コ |
| ★ | 12/19（日） | 発表会（合同） | パワーポイントでプレゼンテーション | 場面にふさわしい表現方法、達成感、自己肯定感 | 人・心・コ |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ☆ | 6/28～ | 職場実習 | 企業（厨房業務　５日間） | 個別体験と巡回指導<br>（見学、事前面接、事前事後指導） | 生徒Ａ |
| ☆ | 7/8～ | 福祉事業所体験 | 就労移行支援事業所（５日間） | 個別体験と巡回指導<br>（見学、事前面接、事前事後指導） | 生徒Ｂ |
| ☆ | 9/1～ | 職場実習 | 企業（厨房業務　５日間） | 個別体験と巡回指導<br>（見学、事前面接、事前事後指導） | 生徒Ａ |
| ☆ | 9/13～ | 福祉事業所体験 | 就労移行支援事業所（5日間） | 個別体験と巡回指導<br>（見学、事前面接、事前事後指導） | 生徒Ｃ |

| |
|---|
| ★体験活動等（校内・外） |
| ★特別講座（校内） |

健：健康の保持　心：心理的な安定　人：人間関係の形成　環：環境の把握

身：身体の動き　コ：コミュニケーション

対象生徒：終了後開始するトライ教室と連携し、
学習習慣の定着を目標とする生徒

通級による指導（キャリア・ポート）木曜４限

| 回 | 日付 | 単元 | 内容 | ポイント | |
|---|---|---|---|---|---|
| ★ | ４月 | 個人面談 | 通級指導を始めるにあたって | 生徒の興味関心、体験希望の有無等 | |
| 1 | 5/13（木） | オリエンテーション | 講座のテーマ、進め方、予定確認 | 居場所作り、見通し、スケジュール管理 | 健・人・心 |
| 2 | 5/20（木） | オンライン・ミーティング練習 | zoom会議の練習（教室で） | 機器の操作（PC、スマートフォン）、体験 | 人・コ・心 |
| ★ | 5/20（木） | 校内体験 | トマト苗植え体験 | 作業手順理解、道具の使用、安全について | 健・身・コ |
| 3 | 5/27（木） | キャリア・ポートとは | ファイル・名札作成<br>自己紹介シート<br>オンラインミーティング準備 | 作業手順理解、道具の使用、生徒の様子確認 | 環・身・コ |
| ★ | 6/3（木） | オンライン・ミーティング | 自宅（生徒）と学校 | 機器の操作、伝えたいこと、話し方、聞き方 | 心・コ・身 |
| 4 | 6/10（木） | じゃがいも王に俺はなる！ | さまざまな角度からじゃがいもについて学習 | 興味関心、聞き方、発言 | 健・身・コ |
| ★ | 6/10（木） | 校内体験 | じゃがいも収穫体験 | 作業手順理解、道具の使用、安全について | 健・身・コ |
| 5 | 6/17（木） | 就職までのステップⅠ | 仕事をする理由<br>しくじり先生 | 働くこと、聞き方、発言 | 環・心・人 |
| 6 | 6/24（木） | 就職までのステップⅡ<br>私と仕事 | 仕事を選ぶ基準<br>過去を振り返る<br>しくじり先生 | 自己理解、聞き方、発言 | 環・心・人 |
| 7 | 7/8（木） | 仕事について考える | 得意・不得意、やりたい仕事<br>仕事をするうえで大切なこと<br>しくじり先生 | 自己理解、聞き方、発言 | 環・心・人 |
| 8 | 7/15（木） | 校外作業体験に向けて① | しおり作成（交通経路、場所確認）<br>しくじり先生 | 機器の操作、自己理解、聞き方、発言 | 心・身・コ |
| 9 | 7/22（木） | 校外作業体験に向けて② | しおり作成（やること、気を付けること）<br>しくじり先生 | 聞き方、発言 | 心・身・コ |
| ★ | 7/27, 29 | 校外作業体験 | 自立訓練事業所見学 | 施設の理解、コミュニケーション<br>SSTプログラム、作業体験 | 環・人・コ |
| ★ | 7/28（木） | オンライン職場見学（合同） | 会社見学 | 機器の操作、聞き方、質問 | 環・身・コ |
| × | 8/25（水） | 社会体験（中止） | 企業博物館見学と工作 | 創作活動、公共施設、交通機関の利用、余暇・生涯学習、 | 心・コ・身 |
| 10 | 9/30（木） | 夏の振り返り | 夏の出来事の発表<br>校外作業体験ふりかえり | 後期の見通しと生活リズム、発言、聞き方 | 健・人・心 |
| 11 | 10/7（木） | 校外作業体験振り返り① | パワーポイントでスライド作成 | 機器の操作、伝えたいこと | 人・コ・身 |
| 12 | 10/14（木） | 校外作業体験振り返り② | スライドを使って発表の練習 | 機器の操作、体験、発言、聞き方 | 人・コ・身 |
| 13 | 10/28（木） | 職場見学に向けて① | しおり作成 | 機器の操作、自己理解、聞き方 | 心・身・コ |
| 14 | 11/4（木） | 職場見学に向けて② | 身だしなみについて考える<br>おじぎとあいさつ | 発言、聞き方、コミュニケーション | 身・コ・人 |
| ★ | 11/5（金） | 職場見学（合同） | 特例子会社・就労移行支援事業所の見学 | 施設の理解、質問の仕方、発言 | 環・身・人 |
| 15 | 11/11（木） | 職場見学振り返り | パワーポイントでスライド作成<br>見方によって見え方が変わる | 発言、聞き方、共同作業 | 心・コ・人 |
| 16 | 11/25（木） | 話し方のコツ | 「はぁ」っていうゲーム<br>話し方、聞き方のコツ | 発言、聞き方、コミュニケーション | コ・心・人 |
| ★ | 11/25（日） | 校内体験 | さつまいも収穫体験 | 作業手順理解、道具の使用、安全について | 健・身・コ |
| 17 | 12/2（木） | 怒りの対処法 | 怒りの対処法について考える<br>アンガーマネジメントゲーム | 発言、聞き方、コミュニケーション | 心・コ・健 |
| 18 | 12/9（木） | 1年間の振り返り | 各自の発表準備 | 伝えるための話し方、他者との相互的やりとり、パワーポイント | 人・コ・身 |
| ★ | 12/19（日） | 発表会（合同） | パワーポイントでプレゼンテーション | 場面にふさわしい表現方法、達成感、自己肯定感 | 人・心・コ |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ☆ | 10/4～ | 福祉事業所体験 | 自立訓練事業所（５日間） | 個別体験と巡回指導<br>（見学、事前面接、事前事後指導） | 生徒Ｄ |
| ☆ | 10/5～ | 福祉事業所体験 | 就労移行支援事業所（５日間） | 個別体験と巡回指導<br>（見学、事前面接、事前事後指導） | 生徒Ｅ |

| |
|---|
| ★体験活動等（校内・外） |
| ★特別講座（校内） |

健：健康の保持　心：心理的な安定　人：人間関係の形成　環：環境の把握
身：身体の動き　コ：コミュニケーション

対象生徒：卒業予定まで至らずコミュニケーション力の育成に重きを置く生徒（他校生含む）

通級による指導（キャリア・ポート）隔週日曜４・５限　グループ１

| 回 | 日付 | 単元 | 内容 | ポイント | |
|---|---|---|---|---|---|
| ★ | ４月 | 個人面談 | 通級指導を始めるにあたって | 生徒の興味関心、体験希望の有無等 | |
| 1 | 5/9 ④ | キャリア・ポートとは？ | 顔合わせ、オリエンテーション<br>講座のテーマ、進め方、予定確認 | 居場所作り、見通し、生徒の様子観察 | 健・人・心 |
| 2 | 5/9 ⑤ | オンライン・ミーティング① | オンラインにつないでみる | 居場所作り、見通し、生徒の様子観察 | 健・人・心 |
| 3 | 5/23 ④ | オンライン・ミーティング② | オンラインで自己紹介 | 他者との関わり、気持ちや考えの表出<br>オンライン会議のマナー | 心・人・コ |
| 4 | 5/23 ⑤ | 自分について | 自分のことを書いてみよう<br>卒業後や将来、なりたい自分の姿 | 自己理解、好き・得意、趣味、苦手、強みを活かす、できるようになりたいこと | 健・心・コ |
| 5 | 6/6 ④ | 職場のルールとマナー① | 遅刻・欠席する（した）ときは | DVD視聴、気づいたことの発表 | 心・人・コ |
| 6 | 6/6 ⑤ | 職場のルールとマナー② | 職場で求められること | 電話連絡（内線電話で通話体験）、報連相、困ったときは | 心・人・コ |
| 7 | 6/20 ④ | いろいろな仕事① | 身の回りの仕事 | 見たこと、気づいたこと、考えたことの発言 | 人・環・コ |
| 8 | 6/20 ⑤ | いろいろな仕事② | 職業しらべ | インターネットで調べる、スライドで発表 | 環・身・コ |
| 9 | 7/4 ④ | いろいろな仕事③ | 職業インタビュー（事前学習） | 仕事の特徴、場の状況、ロールプレイ | 心・人・コ |
| 10 | 7/4 ⑤ | 今年の夏の計画 | スケジュール管理 | 予定、したいこと、やるべきこと | 健・心・環 |
| 11 | 7/18 ④ | いろいろな仕事④ | 職業インタビュー | 相手・場の状況、挨拶、質問、メモ | 心・人・コ |
| 12 | 7/18 ⑤ | いろいろな仕事⑤ | 職業インタビュー（まとめ、発表） | 資料作成、パワーポイントで発表 | 心・人・コ |
| ★ | 7/28（木） | 職場・施設見学 | 製造工程見学と職業講話<br>就労継続支援B型事業所見学 | オンラインによる参加，働き方のいろいろ | 心・人・身 |
| × | 8/8（日） | 校外体験学習（中止） | 作業体験（食品製造と受注作業） | 調理、食品衛生、部品組み立て、指示理解<br>集中力、巧緻性、共同作業、安全な作業 | 人・身・コ |
| × | 8/25（水） | 社会体験（中止） | 企業博物館見学と工作 | 創作活動、公共施設、交通機関の利用、余暇・生涯学習、 | 心・コ・身 |
| 13 | ９/26 ④ | 伝える、情報を得る① | 今年の夏のふりかえり、体験・気づいたことの発表 | 少人数グループで発言、聞き方<br>困った時の対処の仕方、 | 健・人・心 |
| 14 | ９/26 ⑤ | 伝える、情報を得る② | Ｎ２グループの前期の活動の発表 | 職業インタビュー、事業所見学の報告 | 人・心・コ |
| 15 | 10/10 ④ | 私と仕事① | テーマについて考える、発表する | 仕事をする意味、良いこと、心配なこと | 心・人・コ |
| 16 | 10/10 ⑤ | 制度の理解と活用① | 校外体験学習事前学習 | 就労移行支援、当日の確認、交通経路 | 人・環・コ |
| ★ | 10/23（土） | 校外体験学習 | 就労移行支援事業所（見学とビジネス講座） | 就労移行支援プログラム体験（自己理解）<br>軽作業（PC，仕分け作業等）、公共交通利用 | 心・人・身 |
| 17 | 10/31 ④ | 制度の理解と活用② | 校外学習（事後学習） | 振り返り、感想、ワークシート | 人・環・コ |
| 18 | 10/31 ⑤ | 私と仕事② | 希望する仕事、得意な仕事 | 仕事に関し気になること、ならないこと | 健・心・環 |
| 19 | 11/14 ④ | 職業準備性① | 職業準備性ピラミッド | 健康管理と日常生活管理 | 健・心・環 |
| 20 | 11/14 ⑤ | 校内作業体験 | 農作業（さつまいも収穫） | 作業手順理解、道具の使用、安全について | 健・身・コ |
| 21 | 11/28 ④ | 私と仕事③ | 作業体験振り返り、まとめ | 気づいたこと、感想、パワーポイント | 心・身・コ |
| 22 | 11/28 ⑤ | 職業準備性② | 「働く心構え」チェックシート | 将来の就労に向けて、自己理解 | 健・心・人 |
| 23 | 12/12 ④ | １年間の振り返り | 各自の発表（講座内小集団） | 他者との相互的やりとり、ワークシート、 | 心・人・コ |
| 24 | 12/12 ⑤ | 発表会の準備 | 発表会準備、パワーポイント | 発表の仕方、気づいたこと、伝えたいこと、ワークシート | 心・人・コ |
| ★ | 12/19（日） | 発表会（合同） | パワーポイントでプレゼンテーション | 場面にふさわしい表現方法、達成感、自己肯定感 | 人・心・コ |

| |
|---|
| ★体験活動等（校内・外） |
| ★特別講座（校内） |

健：健康の保持　　心：心理的な安定　　人：人間関係の形成　　環：環境の把握

身：身体の動き　　コ：コミュニケーション

対象生徒：卒業後を見据えて、社会体験活動に重きを置く生徒（他校生含む）

通級による指導（キャリア・ポート）隔週日曜４・５限　グループ２

| 回 | 日付 | 単元 | 内容 | ポイント | |
|---|---|---|---|---|---|
| ★ | ４月 | 個人面談 | 通級指導を始めるにあたって | 生徒の興味関心、体験希望の有無等 | |
| 1 | 5/9 ④ | キャリア・ポートとは？ | 顔合わせ、オリエンテーション<br>講座のテーマ、進め方、予定確認 | 居場所作り、見通し、生徒の様子観察 | 健・人・心 |
| 2 | 5/9 ⑤ | オンライン・ミーティング① | オンラインにつないでみる | 居場所作り、見通し、生徒の様子観察 | 健・人・心 |
| 3 | 5/23 ④ | オンライン・ミーティング② | オンラインで自己紹介 | 他者との関わり、気持ちや考えの表出<br>オンライン会議のマナー | 心・人・コ |
| 4 | 5/23 ⑤ | 自分について | 自分のことを書いてみよう<br>卒業後や将来、なりたい自分の姿 | 自己理解、好き・得意、趣味、苦手…、強みを活かす、できるようになりたいこと… | 健・心・コ |
| 5 | 6/6 ④ | 職場のルールとマナー① | 遅刻・欠席する（した）ときは | DVD視聴、気づいたことの発表 | 心・人・コ |
| 6 | 6/6 ⑤ | 職場のルールとマナー② | 職場で求められること | 電話連絡（内線電話で通話体験）、報連相、困ったときは | 心・人・コ |
| ★ | 6/10 （木） | 校内体験 | じゃがいも収穫体験 | 作業手順理解、道具の使用、安全について | 健・身・コ |
| 7 | 6/20 ④ | 職業準備性ピラミッド | 社会人としての基本的な資質を知る<br>資質の優先順位について考える | 健康管理、日常生活管理、対人スキル | 健・心・人 |
| 8 | 6/20 ⑤ | 交通経路 | 家から学校までの行き方を伝える<br>交通経路を調べる | 適切な伝え方、情報収集 | 心・人・コ |
| 9 | 7/4 ④ | あいさつ | 普段どれくらいあいさつしているか考える<br>いろいろなあいさつを探す | 対人スキル、ビジネスマナー | 人・環・コ |
| 10 | 7/4 ⑤ | 身だしなみ | 働く場にふさわしい身だしなみを調べる | 身だしなみ、情報収集、適切な伝え方 | 心・人・コ |
| 11 | 7/18 ④ | 夏の体験の確認 | 集合時間や交通経路などを確認する | 情報の記録（メモの取り方）、情報収集 | 心・環・身 |
| 12 | 7/18 ⑤ | 前期のまとめ | 前期の活動で印象に残っていることを発表する | 自己肯定感、適切な伝え方 | 心・人・コ |
| ★ | 7/18 ⑥ | 校内体験 | ジャガイモ | 作業手順理解、道具の使用、環境把握 | 健・心・コ |
| ★ | 7/28 （木） | オンライン職場見学（合同） | 会社見学 | 機器の操作、聞き方、質問 | 環・身・コ |
| ★ | 8/3 （火） | 施設見学 | タイピング等の体験 | 福祉事業所（就労移行事業所）体験、作業<br>公共交通利用 | 心・人・身 |
| × | 8/25 （水） | 社会体験（中止） | 企業博物館見学と工作 | 創作活動、公共施設、交通機関の利用、余暇・生涯学習、 | 心・コ・身 |
| 13 | 9/26 ④ | 夏の体験の振り返り① | 夏の体験でわかったことやできたことを発表する | 自己肯定感、適切な伝え方 | 心・人・コ |
| 14 | 9/26 ⑤ | 夏の体験の振り返り② | Ｎ１グループに夏の体験を発表 | 場面にふさわしい表現方法、達成感、自己肯定感 | 心・人・コ |
| 15 | 10/10 ④ | 文化祭に参加しよう① | 夏の体験を発表するスライドを作成する | 自己表現、適切な伝え方 | 心・人・コ |
| 16 | 10/10 ⑤ | 文化祭に参加しよう② | 夏の体験を発表するスライドを作成する | 小集団の話し合い、意思の伝達 | 心・人・コ |
| ★ | 10/23 （土） | 施設見学 | タイピング等の体験 | 福祉事業所（就労移行事業所）体験、作業<br>公共交通利用 | 心・人・身 |
| 17 | 10/31 ④ | 施設見学の振り返り | 施設見学でわかったことやできたことを発表する | 自己肯定感、適切な伝え方 | 心・人・コ |
| 18 | 10/31 ⑤ | 「はぁ」っていうゲーム | ゲームを通じて感情表現を学ぶ | ノンバーバルコミュニケーション | 人・身・コ |
| 19 | 11/14 ④ | タスク管理 | タスク管理の考え方を学ぶ | 優先順位の決定、適切な伝え方 | 心・人・コ |
| 20 | 11/14 ⑤ | サツマイモ堀り | サツマイモ収穫体験 | 作業手順理解、道具の使用、環境把握 | 健・心・コ |
| 21 | 11/28 ④ | 「働く心構え」チェックシート | 働くための準備がどの程度整っているか確認する | 健康管理、日常生活管理、対人スキル | 健・心・人 |
| 22 | 11/28 ⑤ | １年間の振り返り | １年間の活動の成果を振り返り発表する | 自己肯定感、自己表現 | 心・人・コ |
| 23 | 12/12 ④ | 発表会に向けて① | 発表会のスライドを作成する | 小集団の話し合い、意思の伝達 | 人・環・コ |
| 24 | 12/12 ⑤ | 発表会に向けて② | 発表会のリハーサル | 適切な伝え方、自己表現 | 人・環・コ |
| ★ | 12/19 （日） | 発表会（合同） | パワーポイントでプレゼンテーション | 場面にふさわしい表現方法、達成感、自己肯定感 | 人・心・コ |

| |
|---|
| ★体験活動等（校内・外） |
| ★特別講座（校内） |

健：健康の保持　　心：心理的な安定　　人：人間関係の形成　　環：環境の把握

身：身体の動き　　コ：コミュニケーション

（３）成果（定性的評価について生徒の発表や感想からその変容を見取る）

令和３年度の取組みのまとめとして、12 月 19 日（日）に全講座合同でキャリア・ポート発表会を実施した。人と話すことを苦手に思っていた生徒が、意欲的にコミュニケーションをとろうとしていることや、外部機関での見学・体験から、自立と社会参加へ向けた意識が醸成されていることがうかがえる内容であった。以下、発表会での生徒の発表内容を抜粋して紹介する。

【キャリア・ポート実践発表会での生徒の発表内容（抜粋）】

・受講前は、将来を考える場所だったので、緊張していました。最初の頃は声を出すのも緊張していました。最近は緊張しますが、落ち着いて話を聞くことができました。（受講１年目）
・印象に残っていることはオンラインミーティングで企業見学をしたことです。仕事場なのに、一人一人に寄り添っていて、その場所に魅力を感じました。（受講１年目）
・できたこと、うまくいったこと、よかったことは、継続支援Ｂ型等の細かいことまで知れたことです。大変だったことは、授業内で発言するのが難しかったです。（受講１年目）
・印象に残っていることは就労移行支援事業所での校外学習です。実際に体験に行くまでは就労移行支援という言葉に対してかたいイメージがついていましたが、体験後は誰でも通いやすいような手厚いサポートを受けられる場所でした。（受講２年目）
・できたこと、うまくいったこと、よかったことは、自分の考えや意見をしっかり伝えられるようになったことや、しっかりと一年間継続して参加できたことです。（受講２年目）
・初めはキャリア・ポートを辞めたかったのですが、社会に出て役立つことが学べるとわかり、やる気が出てきました。（受講２年目）
・もっと様々な施設を見学したり体験したりしたかったです。卒業後は就労移行支援事業所を利用するのもいいなと思いました。（受講２年目）
・できたこと、うまくいったこと、よかったことは、人と話すことが苦手なので、皆の前で自分なりにうまく話すことができたことです。（受講１年目、卒業予定）
・印象に残っていることはサツマイモの収穫です。掘り出すのがなかなか大変で、時間がかかりましたが、大きいサツマイモを収穫することができました。（受講１年目、卒業予定）

・文化祭の発表のために皆でスライドを作成したとき、スライドに入れる文章を皆で考えて、自分の意見が採用されたことが印象に残っています。（受講２年目、卒業予定）
・授業の最初に、自分の工作の話をしていたら「発想力がいい」と先生に褒められたことがうれしかったです。（受講２年目、卒業予定）

最後の発表時は【自身の１年間なんでも振り返りランキング】を考えました。

Ｓさん(受講２年目、卒業予定)

《今年の感想ベスト３》

第１位　自分を見直す機会が増えた。

第２位　オンラインミーティングができた。

第３位　特例子会社の実態をみた。

Ｙさん(受講１年目、卒業予定)

《今年の感想ベスト３》

第１位　自分から発言できるようになったこと。

第２位　インターンシップでリタリコに行ったこと。

第３位　スケジュール管理

Ｔさん(受講２年目、卒業予定)

《キャリア・ポートで学んだことベスト３》

第１位　インターンシップで職場体験

第２位　富士ソフト企画株式会社

第３位　オンラインミーティング、就労継続Ｂ型事業所銀河

Ｓさん(受講２年目)

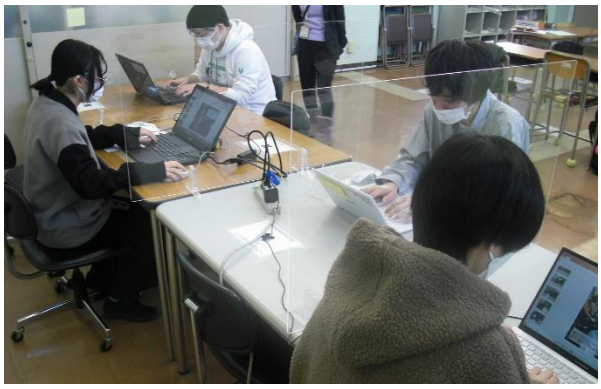
《キャリア・ポートで思うことベスト３》

第１位　より高みを目指そうというきっかけができた。

第２位　自分の過去と他人そして作品により顕著により深く関心を広げることができた。

第３位　心の強さとは何か、より鍛え試す機会が増えた。

【テーマ“私の好きなもの”文化祭動画撮影】



【外部体験の振り返りをパワーポイントにまとめる】

（４）次年度に向けて

受講前の面談や、受講途中にも生徒との対話を丁寧に行っており、生徒個々の実態に応じた活動ができているため、生徒・保護者の満足度は非常に高いと感じている。

しかし、担任はキャリア・ポートの受講を生徒・保護者へ勧めたが、講座への参加に対する不安感や、受講の必要性が十分に伝わらないなどの理由により受講に至らない生徒が多くいるのが実状である。

次年度は、講座の見学・体験の機会の拡充や、担任が生徒・保護者に対して、講座の目的や必要性を十分に伝え、担当グループへつなぐことができるよう、校内研修を充実させることが必要である。

また、受講生徒が増加した際にも生徒個々の実態に応じた活動ができるよう、校内研修等を実施して、担当できる教員を増やしていく取組みが必要である。

**キャリア活動ＩＣ**

（１）プログラムの概要

キャリア活動ＩＣは、湘南・横浜若者サポートステーションの関連施設である、Ｋ２インターナショナルジャパン（以下、Ｋ２と略す。Ｋ２は、1988 年より不登校・引きこもり・発達課題などの生きづらさを抱えた若者の自立就労支援サポートを継続している。）との連携講座であり、毎回外部講師としてＫ２の職員及びその関係者を迎えて、本校職員がサポートする形で運営している。校内での各種講座や校外での職場見学・職場実習・夏季インターンシップなどの機会を通じて、生徒たちに高校卒業後の自立と社会参加のための基礎力と自信をつけさせることを目的としている。対象生徒は、在籍２年目以降で、本校での基本的な学習習慣が身についており、担任から見て、社会に出る前の職業観の育成や、働くという経験が必要そうであると感じられる生徒。なお、対象生徒の手帳所持の有無は問わない。

（２）今年度の取組み

令和３年度の講座実施日と活動内容は以下の通りである。

| 期 | 回 | 日にち | 場所 | 内容 |
|---|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 5月11日 | 修悠館 | オリエンテーション |
| | 2 | 5月18日 | | 講座①：働く前の基礎講座①【言葉遣い】 |
| | 3 | 5月25日 | | 講座②：一般職業適性検査（YG検査）の実施 |
| | 4 | 6月1日 | | 講座③：働く前の基礎講座②【印象アップ】 |
| | | | | →授業後、インターンシップ説明会 |
| | 5 | 6月8日 | 修悠館 | 講座④：自分の強み・長所について考える |
| | 6 | 6月15日 | | 職業人セミナー[1] |
| | 7 | 6月22日 | | 職場見学事前学習 |
| | 8 | 6月29日<br>※8週目 | K2 | **職場見学（半日）** |
| | 9 | 7月6日 | 修悠館 | 職場見学事後学習・前期まとめ |
| 番外編　7月～9月 | | | K2 | 夏のインターンシッププログラム（希望者） |
| 7月9日（金）AM | | | K2 | **AMインターン事前講座＠M6（インターンシップ希望者のみ）** |
| 8月3日（火）13時～ | | | 修悠館 | 夏季特設スクーリング（GATB検査）（全員） |
| 後期 | 10 | 9月28日 | | 講座⑤：仕事のルール、コミュニケーションとは？ |
| | | | | →授業後　インターンシップ報告 |
| | 11 | 10月5日 | 修悠館 | 職場実習事前学習（職場下調べ等） |
| | 12 | 10月6日 | K2他 | **職場実習（１日）** |
| | 13 | ～11月1日 | | |
| | 14 | 11月2日 | 修悠館 | 職場実習事後学習【お礼状】 |
| | 15 | 11月9日 | | 職業人セミナー[2] |
| | 16 | 11月16日 | | 講座⑥：一人暮らしの生活コスト |
| | 17 | 11月30日 | | 講座⑦：ハローワーク求人検索 |
| | 18 | 12月7日 | | 講座⑧：私の職業人人生＆まとめ |

（３）成果

令和３年度の主な活動を、生徒の振り返りレポートの感想を交えながら紹介し、成果を確認していく。なお、生徒の感想は原文表記を最大限尊重している。

**第１回：オリエンテーション（担当者紹介と、１年間の活動の流れ、自己紹介と他己紹介）**

振り返りレポートの「『働く・キャリア』と聞いてあなたがイメージすることは」という問いに対して、生徒たちは以下の感想を寄せた。

・言葉は聞いたことがあるけど、イメージがわかない
・正直言ってパワハラを受けに行くというイメージしかない。社会に対して強い恐怖心がある。
・しんどくて辛くても生きるためにはしなくちゃいけない。
　また、自己紹介・他己紹介を終えた感想は次の通りだ。
・緊張して声が出なかった。　・声が小さかった。

〇このように初回はマイナスな記述が目立ち、生徒たちが不安を感じながら、このクラスをスタートしたことがわかる。

**第２回～第５回：働く前の基礎講座**

Ｋ２の職員を講師に迎え、校内で行った。ペアワークやグループワークも適宜取り入れ活動することで、生徒のコミュニケーション能力の育成を図っている。

・人と話すことはまだ緊張してしまう。
・他の生徒さんと話すときに、言葉選びを間違えたらどうしようという心配で口数が少なくなった。
　など、緊張状態が続いている生徒もいる中で、
・自分は他人と話したり関わったりすることが苦手でしたが、他の人とコミュニケーションを取りつつ参加できたことは自分にとって良かった。
・どんどんこのクラスが安心して活動できる場所になっている。
・間違えて失敗してもそこから学ぼうと思った。

〇このように、前向きに活動に取組み、自分の中で成果を実感する生徒もでてきている。

**第６回：職業人セミナー①**

本校の卒業生で、在学時のキャリア活動ＩＣの受講をきっかけに現在はＫ２スタッフとして働く女性２名を講師に招いて、講座を実施した。在学時は学校に籍だけを置いて、思うように学習活動ができなかった期間が長くあったこと、いよいよ卒業を控えた年になり、「このままではいけない。また引きこもりに戻ってしまう。」と藁をも掴む思いでキャリア活動ＩＣの受講を決めたことなど、それぞれが在学中の体験談を赤裸々に語ってくれた。不登校や引きこもりの当事者であった彼女たちが、現在はＫ２スタッフの一員としてかつての自分と同じように悩んでいる子ども達のサポートにあたり、やりがいや誇りをもってそれぞれの仕事に従事していることは、生徒たちにとっても今後の励みになっていたように感じる。

・先輩たちも先のことを考えるのが怖かったと仰っていて共感できた。
・過去の経験はいまに活かすことができると感じました。
・人と関わることがすごく苦手な人でも、ここまで変わることができると驚きと勇気をもらいました。
・私もお二人の話を支えにしてキャリア活動ＩＣを頑張りたいと思いました。

〇生徒の感想からも、２名の卒業生の講話から非常に良い刺激を受けたことが見て取れる。

【職業人セミナーの様子】

【グループワークの様子】

**第７回～第９回：職場見学**

前期の活動のメインとして据えている「職場見学」は、生徒を４つのグループに分け、それぞれ教員が引率する形で、Ｋ２の事業所（アロハキッチン・にこまるソーシャルファーム・放課後ドラマぽにょ＋・Ｋ２オフィス）を見学した。過去にアルバイトなどの経験がない生徒は、ここで、「働く」ということへのイメージを膨らませて、夏季インターンシップに臨むことになる。Ｋ２の各事業所では、見学だけでなく、「プチ体験」を実施していただくことで、「働く」ということの大変さや面白さなどがより実感できるように工夫されたプログラムとなっている。

・調理をするときに、効率よく食事が作れるように、声掛けやコミュニケーションが必要だと思った。（アロハキッチン）
・野菜を育てることの大変さと、収穫の楽しさを教えてもらった。何事もコツコツと続けるのは大変だけど、大事だと学んだ。（にこまるソーシャルファーム）
・生半可な気持ちで子どもと関わっちゃいけない。スタッフさんもお互いを尊重していることが分かった。（放課後ドラマぽにょ＋）
・正直、行く前は行きたくなかったけど、働いている人がフレンドリーに接してくれたし、名刺交換など初めてでいい経験になった。（Ｋ２オフィス）

〇このように、実際に現場に足を運んでみてはじめて得られる経験があり、有意義な時間となった。また、見学の次の週には事後学習として振り返りとグループ発表会を行い、貴重な経験を共有しあった。

【アロハキッチンでのプチ体験】

【グループ発表会の様子】

**夏のインターンシッププログラム（希望者のみ）**

前期の活動を通じて、働く前の基礎知識を身につけ、講座開始時よりも「働く」ということが少し身近になった生徒達は、いよいよ夏季インターンシップに参加し、実践を積むこととなる。令和３年度は前期終了時で単位修得の見込みが立っていた生徒 10 名のうち、８名の生徒がＫ２の各事業所での夏季インターンシップに参加した。新型コロナウイルス感染拡大の余波により、実習先を人との接触がより少ない事業所に途中で変えなければならなくなる生徒が出るなど、例年と比べてイレギュラーなこともあったが、この頃の生徒達はだいぶ落ち着いて対応できるようになってきていた。以下は生徒たちの感想。

・わからない、困ったときにも誰かに相談することができるようになっていた。
・覚悟を決めてちゃんとやり切ったことが自信につながった。
・アルバイトをしたことがなかったが、スタッフの方ともコミュニケーションを取り、やりきった。

〇など、充実感でいっぱいの感想が並んだ。実際、このインターンシップの経験を境にして、授業中に積極的に発言をしたり、自らクラスメイトと関わろうとする姿勢がみられるようになったりする生徒も多い。彼らの成長や可能性の広がりを、指導者側としても最も実感できるのが、夏季インターンシップなのである。

【農場でのインターンシップの様子】

【パン屋でのインターンシップの様子】

**第 11 回～第 14 回：職場実習**

後期の活動の中心である「職場実習」は、事前学習から力を入れている。前期の「職場見学」は教員が引率するが、この「職場実習」は生徒１人で職場に赴き、１日の仕事を体験することになるため、当日利用する交通機関の検索など、下準備が欠かせない。毎年、Ｋ２の事業所のほか、Ｋ２と関わりの深い一般商店や、市役所などにも受け入れを依頼しており、地域の方々の理解と協力が欠かせないプログラムとなっている。様々な事情で、夏のインターンシップに参加することができなかった生徒にとっては、実践経験を積むことのできる最初で最後の機会となるため、本講座の中でも非常に重要な位置づけとなっている。以下は生徒の感想から。

・従業員一人ひとりが自分のやるべきことを理解し、的確に仕事を捌いていた。

〇実習を行いながら、周りの様子を見る余裕が生まれ始めている。

・夏のインターンシップの飲食店とは全然違ってびっくりした。

〇夏から複数の職場での体験を積み重ねてきたことによって、一口に「働く」といっても、職種や職場によっても雰囲気が異なることを、身をもって実感した。夏のインターンシップ先と同じ場所には職場実習に行かないこととしているため、生徒たちは複数の職業を比較しながら、将来の選択肢としてより自分に合う職業を考えることができるように工夫した成果である。

【事務の仕事でコピー機の使い方を学ぶ】

【雑貨店で商品を陳列する】

**第 16 回～第 18 回：後期校内講座　１年間のまとめ**

職場実習まで無事に終えた生徒たちの活動は、いよいよ年間のまとめに差し掛かる。その活動内容は、１人暮らしをした際に、手取りの給料の中でどのようにやりくりをしていけばよいのかのシミュレーションを行ったり、ハローワークの方を講師に招いて求人票検索の仕方を習ったりと、より社会生活と密接に結びついたプログラムで構成している。

・光熱費が思ったより高くてびっくりしました。
・無駄遣いをしないように家計簿をつけて、節約できそうなものを考えるのがよいのではないか。

〇生徒達は学んだことをきちんと自分事としてとらえ、対策を提案することができていた。

また、12 月の最終回には、このキャリア活動ＩＣで自分が最も成長できた点や、１年後に自分がなりたい姿について、発表しあった。

・今は人前でも緊張はしなくなってスムーズに言える。
・インターンシップを経験したことで、（自信がつき）初めてのアルバイトにつながった。
・自分に合った職場でアルバイトをしたい。　・働いて稼いだお金で親孝行をしたい。

〇５月の講座スタート時には発表の声も小さく、講師から指名されないようにうつむいていた生徒達が、半年経ってみると、自分から積極的に挙手をし、クラスメイトや先生方の前で、自分の成長した点やなりたい姿について堂々と発表できるようになっていたのが印象的だ。このように、毎年、本講座の生徒たちは、校内外での様々な経験を積むことで、卒業後の自立と社会参加に向けて少しの自信をつけて、この講座を終えていく。

（４）次年度に向けて

**講座内容の周知徹底。ミスマッチをふせぎ、必要としている生徒が確実に受講できるように働きかけること。**

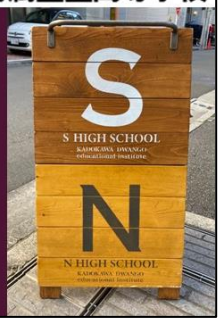
令和３年度は年度当初 12 名の生徒で講座がスタートしたが、２名の生徒が前期の早い段階でドロップアウトしてしまった。本講座は、１年間かけてきちんとやり遂げることができた生徒にとっては、多くの成長が見込めるが、基本的には毎時間出席をして各種活動に参加することが求められるため、通信制の一部の生徒には、「学校に来て、活動に参加する」ということのハードルが高い場合がある。説明会の時点で、講座内容について担任及び生徒へのさらなる周知徹底を図り、ミスマッチのないようにしていく必要がある。

## Ⅵ　学校訪問報告（１月職員会議の教員研修　55 名参加）

# 東海大望星&N高等学校

## 学校訪問報告

広域通信制・単位制
東海大学付属望星高等学校




令和3年12月19日(日)
大城・深田・真島

## 学校訪問の目的・視点

- 広域通信制に通う生徒はどのような学びを行っているのか知る
- 新時代の学びをどのように保障しようとしているのかヒントを得る
- 横浜修悠館に持ち帰って取り入れられる考えや仕組みはないか探る

## 東海大望星高等学校編

特徴①

・古い歴史、実績
・2学期制、単位は半期認定
・高校通信教育講座の視聴➡後程詳細
・もともと6/10の減免
・生徒数は日曜登校[月2回]約100名、水曜登校[月3回]約350名
・技能教育施設等(9校と連携)　約1100名

①町田調理師専門学校　②ニ葉ファッションアカデミー　③町田美容専門学校
④岩谷学園高等専修学校　⑤国際製菓専門学校　⑥東海文化高等専修学校
⑦富士調理技術専門学校　⑧安生生活福祉高等専修学校　⑨広島生活福祉専門学校

## 東海大望星高等学校編

特徴②

・単位修得率 80.6%(2020春)、75.9%(2020秋)

・科目修得0%生徒 11.5%(2020秋)

・学費は定額制：

受験料6,000円 入学金20,000円 施設設備費23,000円

授業料19,000円 教育運営費5,000円【月額24,000円】

・不登校傾向生徒多い

・3年で卒業するのが基本、4年を超える生徒の扱いが課題

・非活動の生徒はいない、少ない

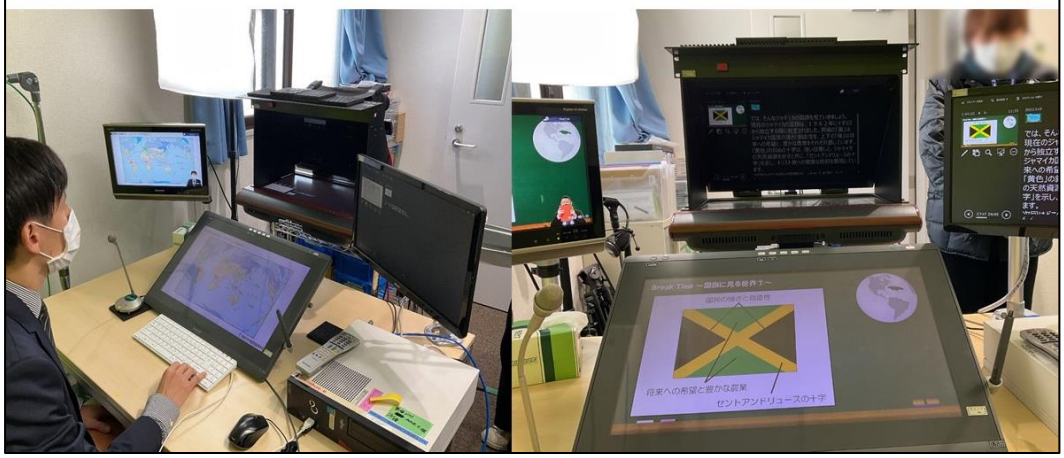
・今年度よりロイロノート使用開始➡レポート作成・添削すべて電子へ

## 高校通信教育講座の視聴・動画作成

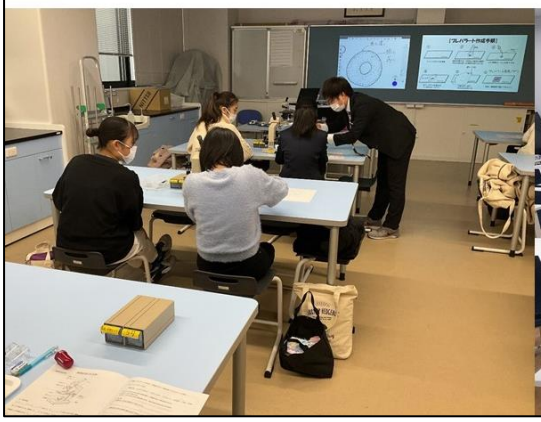
- オリジナルの通信講座(1本30分程度)
- 繰り返し視聴可能
- 上位科目(数Ⅲ、CEⅢ、理科基礎なし)の科目も開講
- 校内のスタジオで収録・制作
- 科目ごとに配信日が決められている、学期18～20本

| Mon | Tue | Wed | Thu | Fri |
|---|---|---|---|---|
| 世界史A | 古典B | 国語総合 | 物理基礎 | 世界史B |
| 数学I | 現代文A | 現代文B | 化学基礎 | 地理B |
| 数学II | 日本史A | 国語表現 | 生物基礎 | 日本史B |
| 数学III | 英語表現I/英語会話 | 社会と情報 | 物理 | 現代社会 |
| 数学A | コミュニケーション英語I | 音楽I | 化学 | 保健 |
| 数学B | コミュニケーション英語II | 家庭基礎 | 生物 | 美術I |
| 数学活用 | コミュニケーション英語III | 体育/音楽鑑賞 | | 高校現代文明論 |

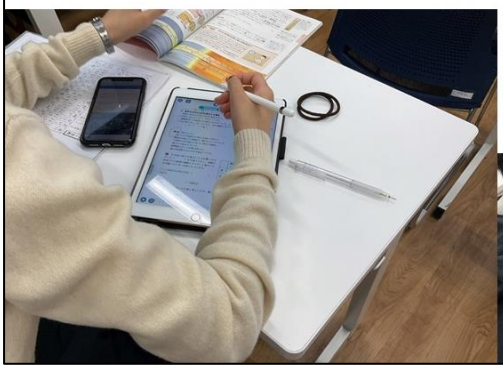
## 高校通信教育講座動画撮影スタジオ

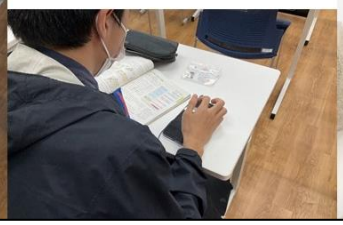


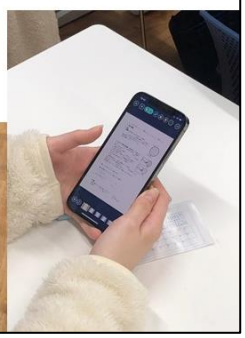
## 東海大望星のスクーリングの様子①



## 東海大望星のスクーリングの様子②







## 東海大望星の「ロイロ」

ロイロノート SCHOOL

- 今年度より導入
- 導入まで約3年かかった
- アプリでもブラウザでも対応可
- テキストボックス打ち込み or 手書き
- 紙での提出も可だが、99%ロイロでの提出
- アナログで書いて写真で撮ってロイロで提出している生徒も
- 導入の説明は3ページのマニュアルのみ　クレーム0
- 教員は1人1台iPad貸与、添削
- 質問など生徒とのやり取りはロイロで
- 強いて課題を挙げるなら24時間受付可能なこと、ロイロに改善要望を出している

事務作業の削減
教員の負担軽減
生徒にすぐ馴染んだ

## 東海大望星の支援【憩いの広場】

①オープンルーム：教室での受講が困難な生徒向け
②図書室：憩いの場としての活用
③カウンセリングルーム：
　事前予約制、最近はカウンセリング件数減少？

手を差し伸べすぎないようにする、最初から支援ありきではない

## N高等学校御茶ノ水キャンパス編

特徴①

- N高開校6年目、S高今年度開校
- 中身はほぼ同じ、スクーリングに行く場所の違い
- 部活はすべてオンライン、プロからの専門指導
- 将来社会に出た時の武器(スキル)を身につける
- 4つのコース

①ネットで学ぶ【ネットコース】
②通学して学ぶ【通学コース】
③オンラインで通学して学ぶ【オンライン通学コース】
④通学して学ぶ【通学プログラミングコース】

## N高等学校での学習

- 専用アプリ「N予備校」

動画視聴[5分×4講]➡確認テスト➡レポート[20問]

- 学習サポートも充実
- 全国拠点のスクーリング(1・3年次　5日間程度)
- 本校スクーリング(2年次　5日程度)
- 受験対策授業動画はニコニコ生放送で質問可、中学復習も可

## N高等学校で聞いた「なるほど!」

- 開校当初、ネットに特化した学校としてつくられたが、生徒や社会のニーズに合わせて【通学コース】を開設した

《開校当初は通学コースをつくる予定はなかった》

➡これからも対面・通学の重要性は失われることはないのでは?
対面でしかできない「学び」も必ずある!

## 学校訪問を終えて次年度に活かしたいこと①

- 私立と公立は入学生徒層が異なる
  だからといってあきらめたり思考を停止してはいけない
  横浜修悠館に取り入れられるものはないか?
  何かできることはないか?

ICTを有効活用したレポート・スクーリングのさらなる改善

## 学校訪問を終えて次年度に活かしたいこと②

- 横浜修悠館がこれからも大切にしなければならないことと

・セーフティネットの役割の維持
・対面スクーリングの機会の設定
・「学びのコミュニティ」プログラムの発展

時代に合わせてシフトしていかなければならないものは

・GIGAスクール構想に沿った学びの仕組みの構築
・ICTを活用した「問い」の設定・探究・共有方法の職員間連携
・通信制の強みを活用した新たな対面スクーリングの内容構築

何なのか?を考え、実践し続ける必要がある

文部科学省　「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」

【検討会議委員】

| 氏名 | 所属・職名 |
|---|---|
| 森田　裕介 | 早稲田大学人間科学学術院　教授 |
| 増田　謙太郎 | 東京学芸大学教職大学院　准教授 |
| 冨田　倫子 | 横浜市こども青少年局 青少年部青少年育成課担当係長 |
| 岩本　真実 | Ｋ２インターナショナルグループ<br>ＮＰＯ法人ヒューマンフェローシップ　代表理事 |
| 永島　靖之 | 横浜市立中和田中学校　校長 |
| 中山　法子 | 横浜修悠館高等学校保護者コミュニティ　代表委員 |
| 大磯　美保 | 神奈川県立総合教育センター教育相談部教育相談課　課長 |
| 増田　年克 | 神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課　課長 |
| 片倉　保宏 | 神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課　指導主事 |
| 永末　福太郎 | 神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課　指導主事 |

【校内委員】

| 氏名 | 職名 | | 所属・職名 |
|---|---|---|---|
| 原口　瑞 | 校長 | | 総括 |
| 野中　幹子 | 副校長 | | 総務 |
| 磯貝　久彦 | 教頭 | | 総務 |
| 城田　弘子 | 事務長 | | 会計事務総括 |
| 真島　徹也 | 教諭 | 研究主任 | 地理歴史・公民科（教育相談・学習支援グループ） |
| 深田　幸宏 | 教諭 | １班班長 | 地理歴史・公民科（教育相談・学習支援グループ） |
| 筏　有司 | 総括教諭 | ２班班長 | 理科（経営企画・広報グループ） |
| 吉見　志奈子 | 教諭 | １班 | 国語科（生徒活動支援グループ） |
| 川瀬　聡太 | 教諭 | １班 | 数学科（学務グループ） |
| 大城　省吾 | 教諭 | １班 | 保健体育科（経営企画・広報グループ） |
| 山口　純一郎 | 教諭 | １班 | 保健体育科（学校運営グループ） |
| 金子　将之 | 教諭 | １班 | 芸術（工芸）科（キャリア教育推進グループ） |
| 橋本　真人 | 教諭 | １班 | 外国語（英語）科（生徒活動支援グループ） |
| 加藤　早紀 | 教諭 | １班 | 家庭科（生徒活動支援グループ） |
| 長坂　美紀 | 副主幹 | １班 | 学校司書（生徒活動支援グループ） |
| 小倉　奈津子 | 教諭 | ２班 | 国語科（キャリア教育推進グループ） |
| 竹田　昌平 | 教諭 | ２班 | 数学科（教育相談・学習支援グループ） |
| 中野　周平 | 教諭 | ２班 | 理科・情報科（学務グループ） |

文部科学省「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」

～通信制におけるＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信及び

横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及～

令和３年度　報告書

令和４年３月発行

発行者　神奈川県立横浜修悠館高等学校

編集者　文部科学省「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」

調査研究校内委員会

印刷・製本　山口印刷所